

最近の血液行政について

①献血推進及び需給関係

平成 20 年 度 第 1 回
献血推進のあり方に関する検討会

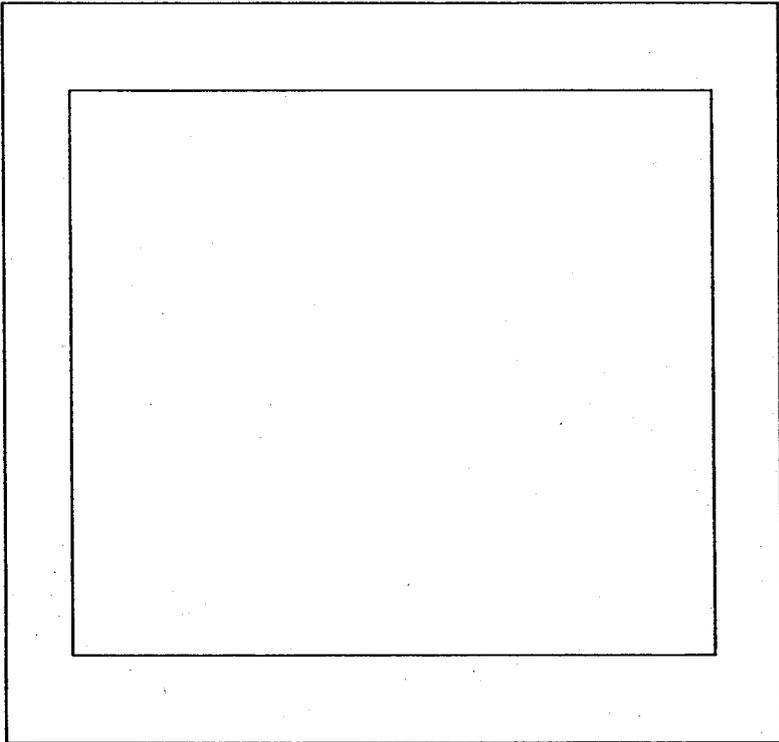
平成20年9月3日(水)
九段会館
「鳳凰」
13:00~15:00

座 席 表

衛 飯 座 宇 大
藤 沼 長 都 平
委 委 長 木 委
員 員 員 員 員

速 記

掛 川 委 員
河 原 委 員
住 友 委 員
中 島 委 員
堀 田 委 員



川 内 委 員
清 水 委 員
田 辺 委 員
花 井 委 員
山 本 委 員

血 液 需 給 對 策 專 門 官

血 液 對 策 企 畫 官

血 液 對 策 課 長

血 液 對 策 補 佐 課

--	--	--	--

(事 務 局 席)

--	--	--	--

(関 係 者 席)

傍 聴 席

第1回 献血推進のあり方に関する検討会 議事次第

平成20年9月3日(水)
午後1時～3時
九段会館 2F 鳳凰

1. 開会
2. 献血をとりまく課題について
3. 若年層を対象とした献血に関する意識調査の実施について
4. 閉 会

資料一覧

資料 1	献血推進のあり方に関する検討会 開催要綱
資料 2	献血推進のあり方に関する検討会 委員名簿
資料 3	献血者数の推移〔年代別〕
資料 4	人口変動と献血率の推移〔年代別〕
資料 5	高校生献血者数・献血率の推移
資料 6-1	献血受入施設別の献血者数
資料 6-2	献血受入施設別の血液確保量
資料 7-1	献血種類別献血者数の推移
資料 7-2	献血種類別血液確保量の推移
資料 8	献血に係る普及啓発事業
資料 9	平成17年度 若年層献血意識調査結果の概要
資料10-1	平成20年度 若年層献血意識調査要綱
資料10-2	平成20年度 若年層献血意識調査 調査票
参考資料1	関連記事
参考資料2	普及啓発活動実績(国・都道府県資料)
参考資料3	普及啓発活動実績(日本赤十字社資料)
参考資料4	普及啓発活動実績(日本赤十字社資料:別紙)

「献血推進のあり方に関する検討会」開催要綱

1. 目的

近年、わが国の献血者数は減少傾向にあり、特に若年層の献血離れは深刻なものとなっていることから、将来の安定的な血液確保に懸念が生じている。

こうした状況を踏まえ、本検討会は、若年層に対する効果的な啓発方法をはじめとした今後の献血推進方策について広く検討し、検討結果をわが国の血液事業に反映させることを目的とする。

2. 検討事項

- (1) 若年層を対象とした献血に関する意識調査の実施について
- (2) 今後の若年層に対する献血推進方策のあり方について
- (3) その他

3. 委員構成

- (1) 検討会の委員は、医学、法律等の有識者の他、患者団体、採血事業関係者、学校関係者、報道機関関係者及び地方自治体関係者等により構成する。
- (2) 検討会は、委員のうち1人を座長として選出する。

4. 運営

- (1) 検討会は、知的財産・個人情報等に係る事項を除き、原則公開するとともに、議事録を作成し、公表する。
- (2) 検討会は、必要に応じ、参考人として、献血啓発に関係する機関や民間会社等の代表者の参加を求めることができる。

5. 庶務

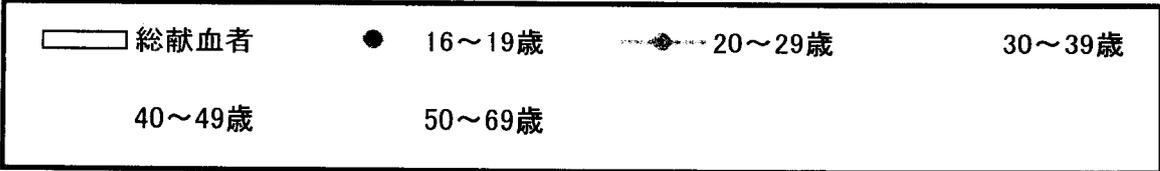
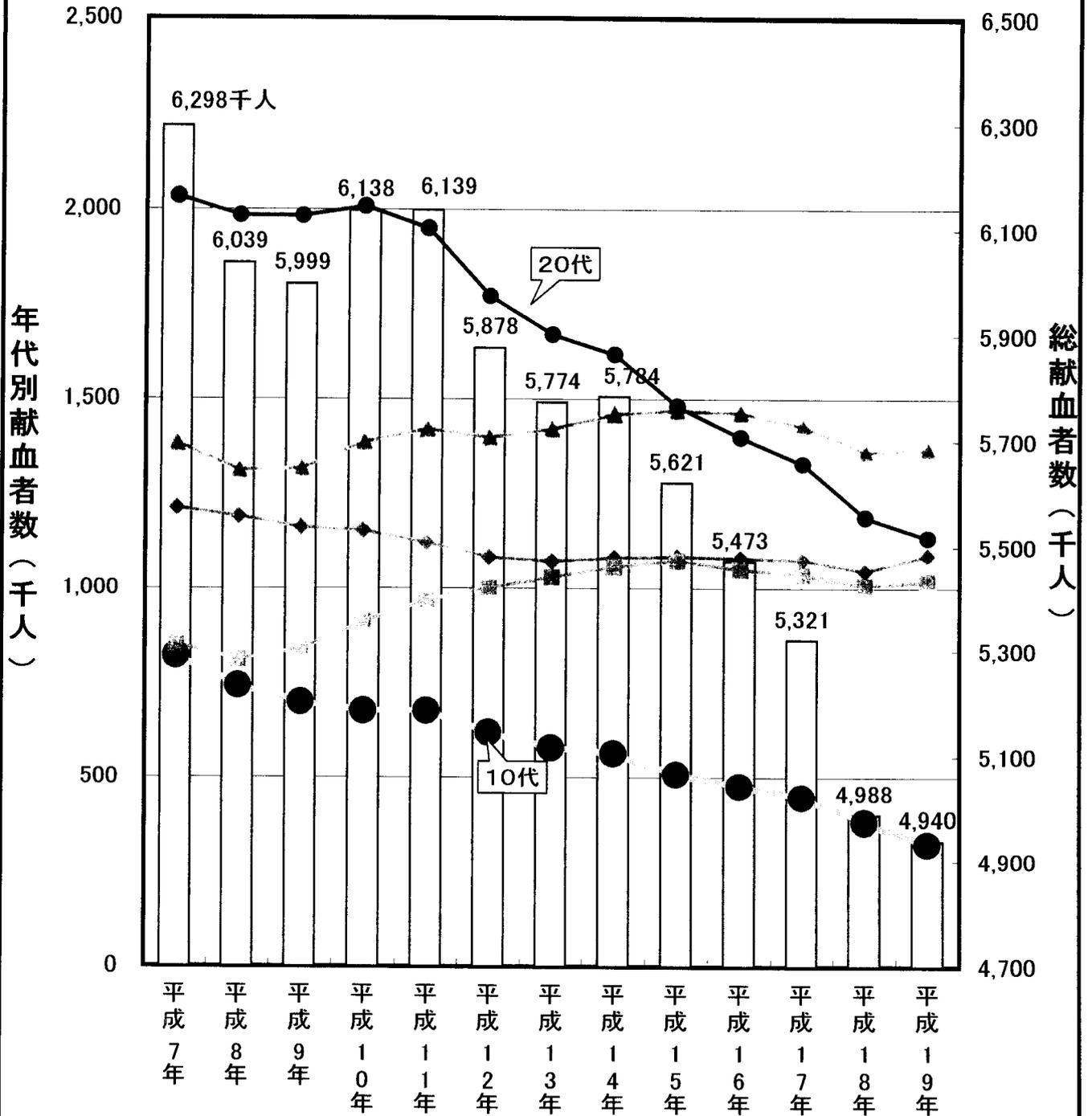
検討会の庶務は医薬食品局血液対策課が行う。

「献血推進のあり方に関する検討会」

委員名簿

	氏名	現職
1	飯沼 雅朗	社団法人日本医師会 常任理事
2	宇都木 伸	東海大学法科大学院実務法学研究科 教授
3	衛 藤 隆	東京大学大学院教育学研究科 教授
4	大平 勝美	社会福祉法人はばたき福祉事業団 理事長
5	掛川 裕通	日本赤十字社血液事業本部 副本部長
6	川内 敦文	高知県健康福祉部 医療薬務課長
7	河原 和夫	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 教授
8	清 水 勝	医療法人西城病院 理事
9	住友眞佐美	東京都福祉保健局 保健政策部長
10	田辺 善仁	株式会社エフエム大阪 専務取締役
11	中島 一格	東京都赤十字血液センター 所長
12	羽田真由香	全国学生献血推進協議会 委員長
13	花井 十伍	ネットワーク〈医療と人権〉 理事
14	堀田美枝子	埼玉県立浦和西高等学校 養護教諭
15	山本シュウ	株式会社アミューズ所属 ラジオDJ

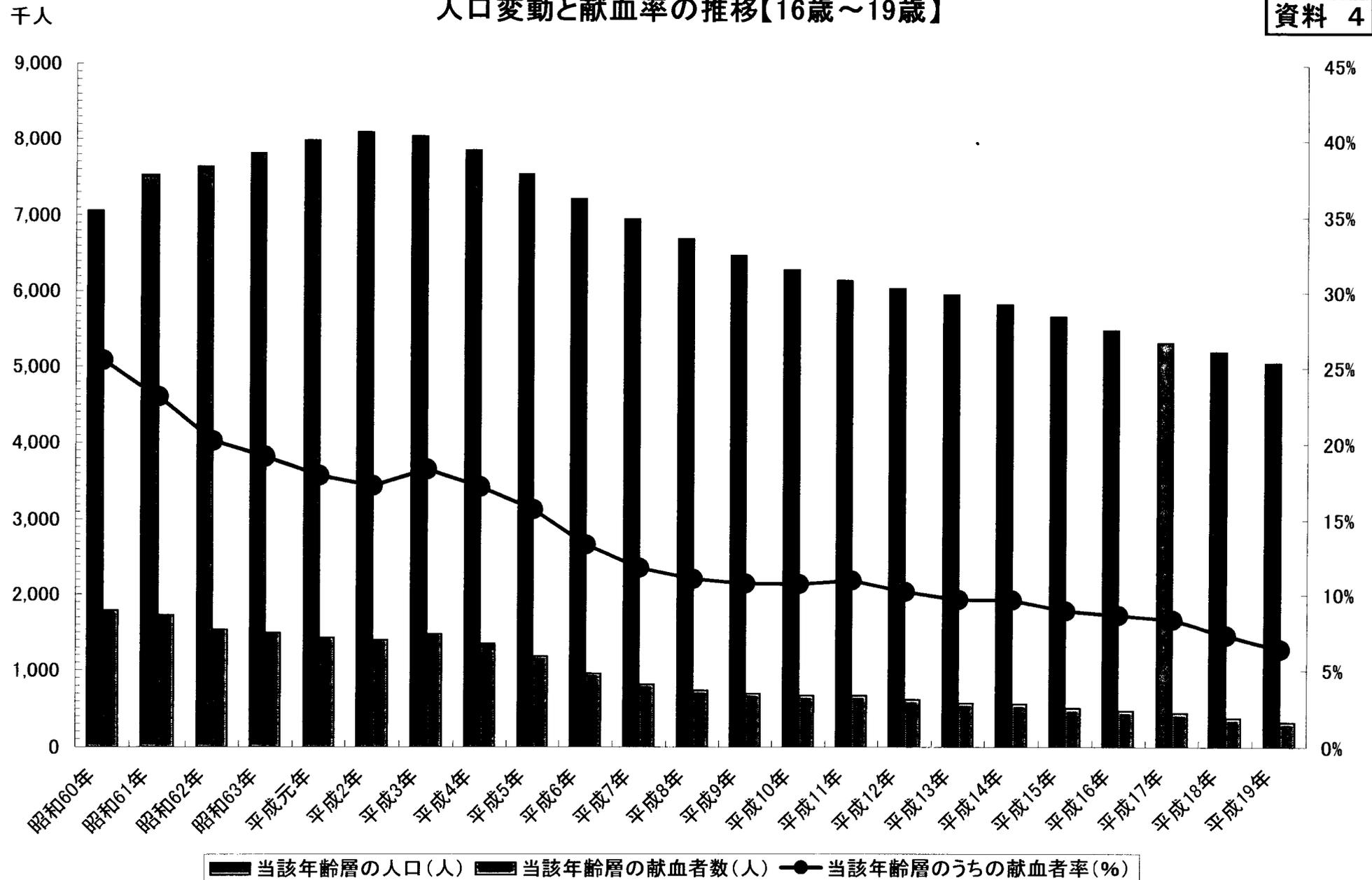
献血者数の推移【年代別】



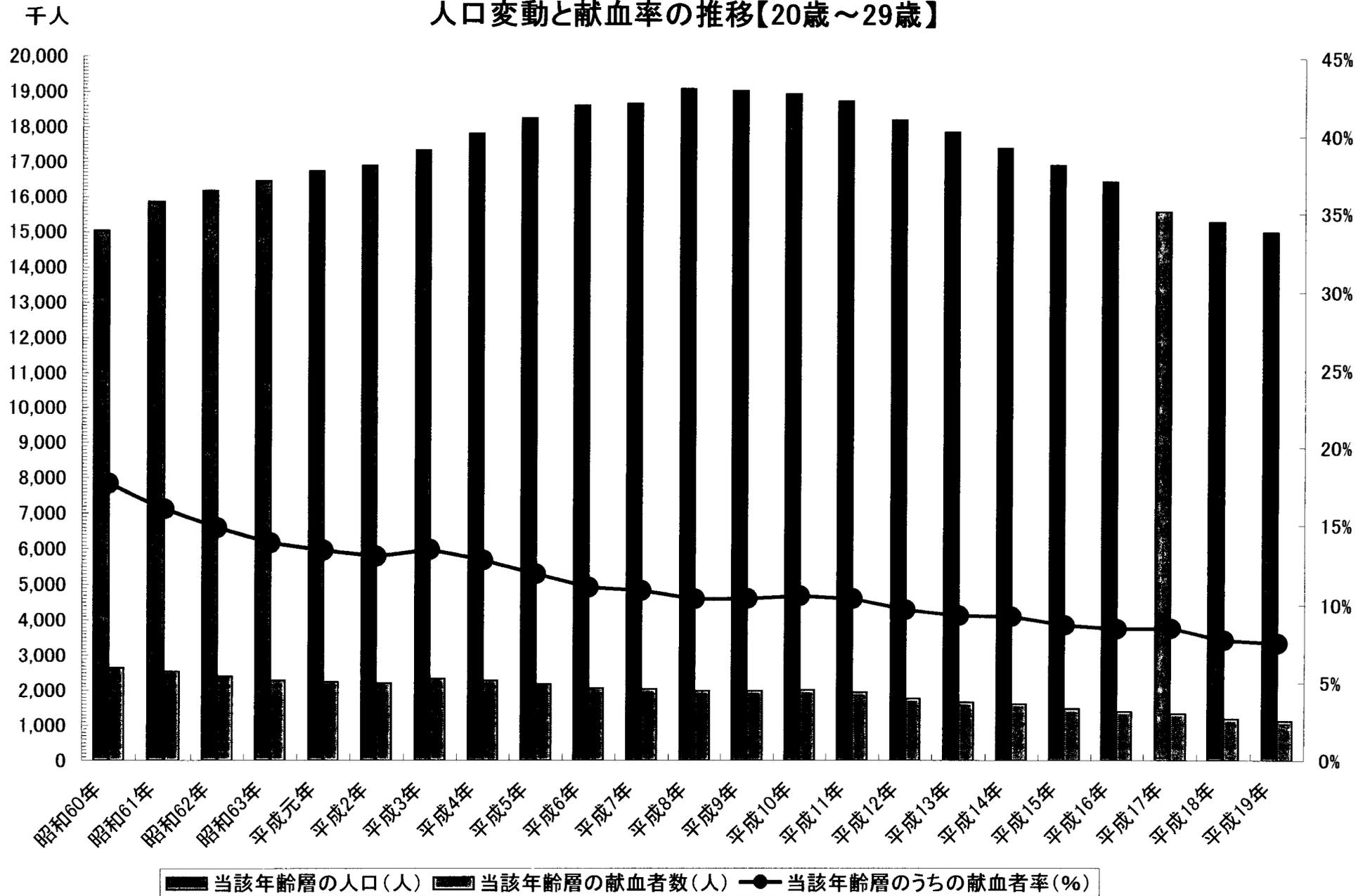
※献血者数は延べ人数

人口変動と献血率の推移【16歳～19歳】

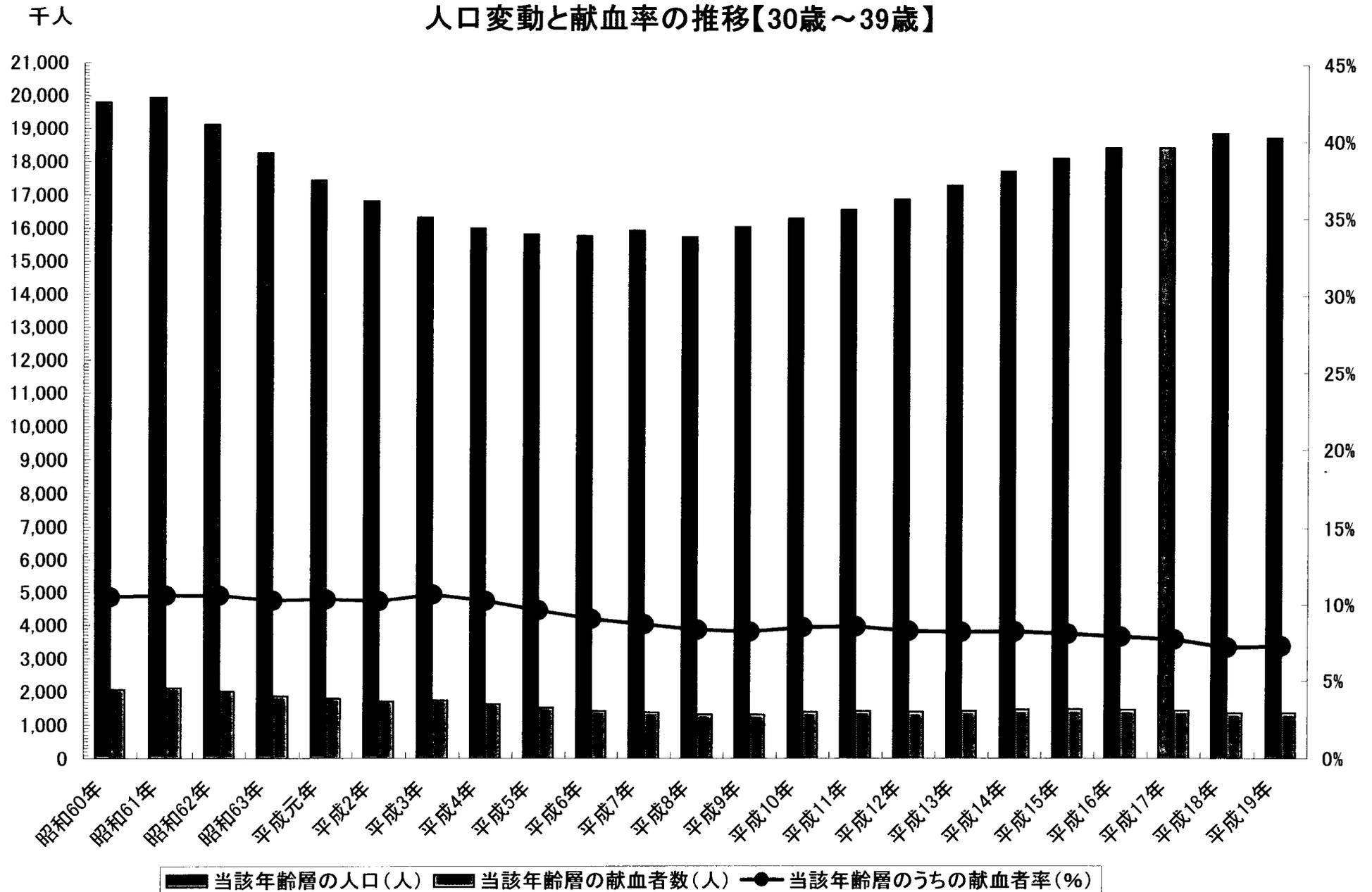
資料 4



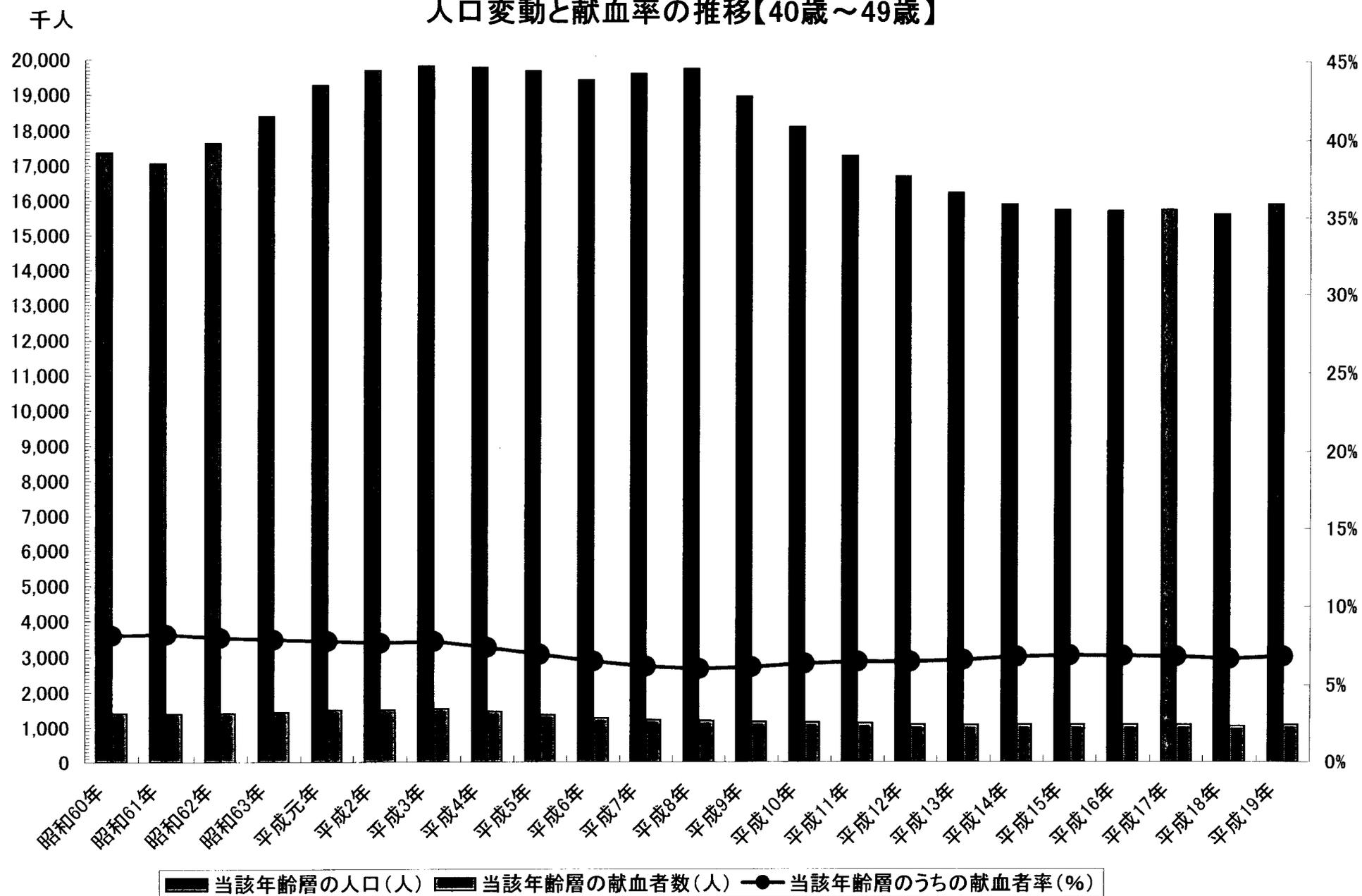
人口変動と献血率の推移【20歳～29歳】



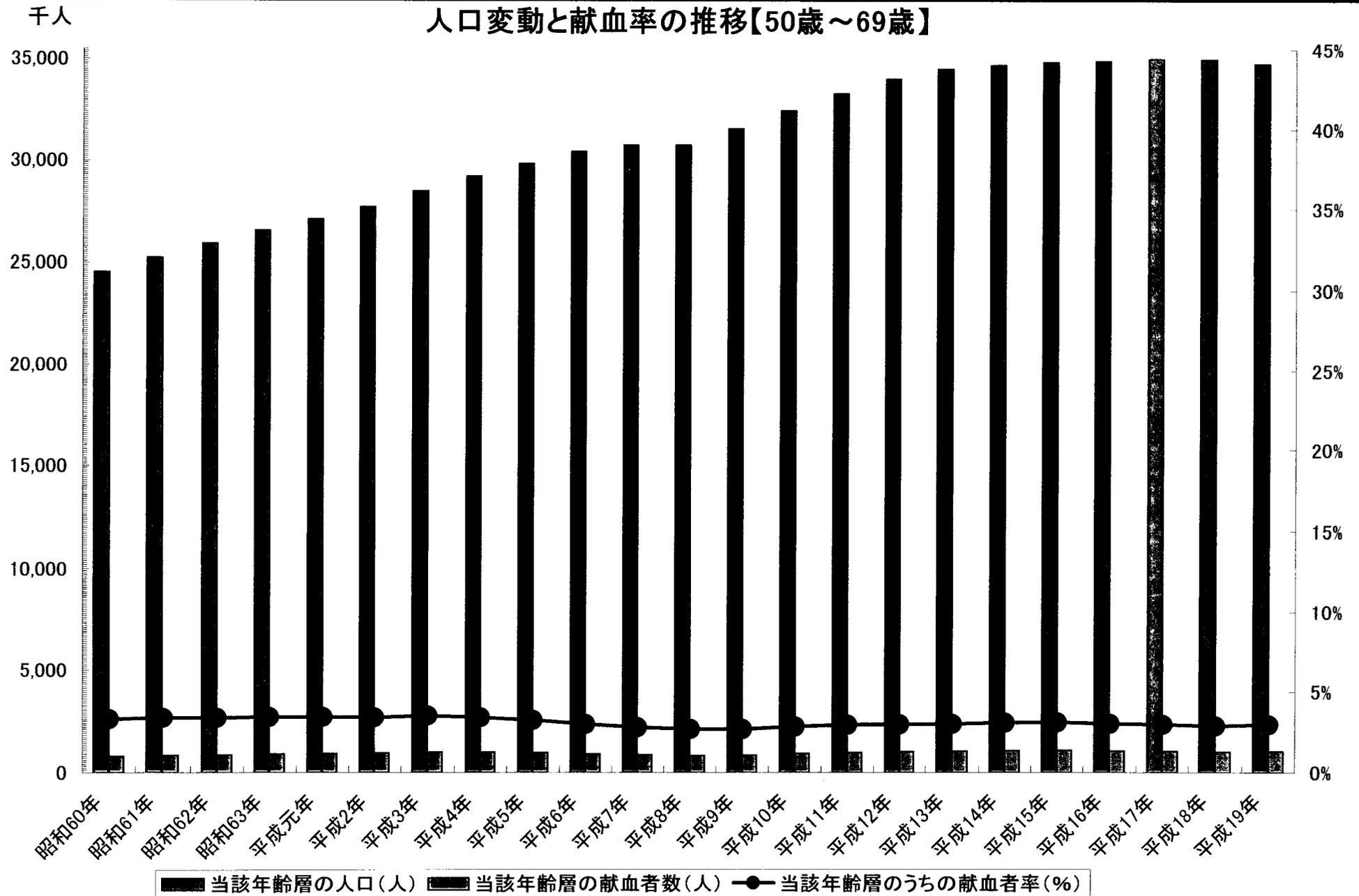
人口変動と献血率の推移【30歳～39歳】



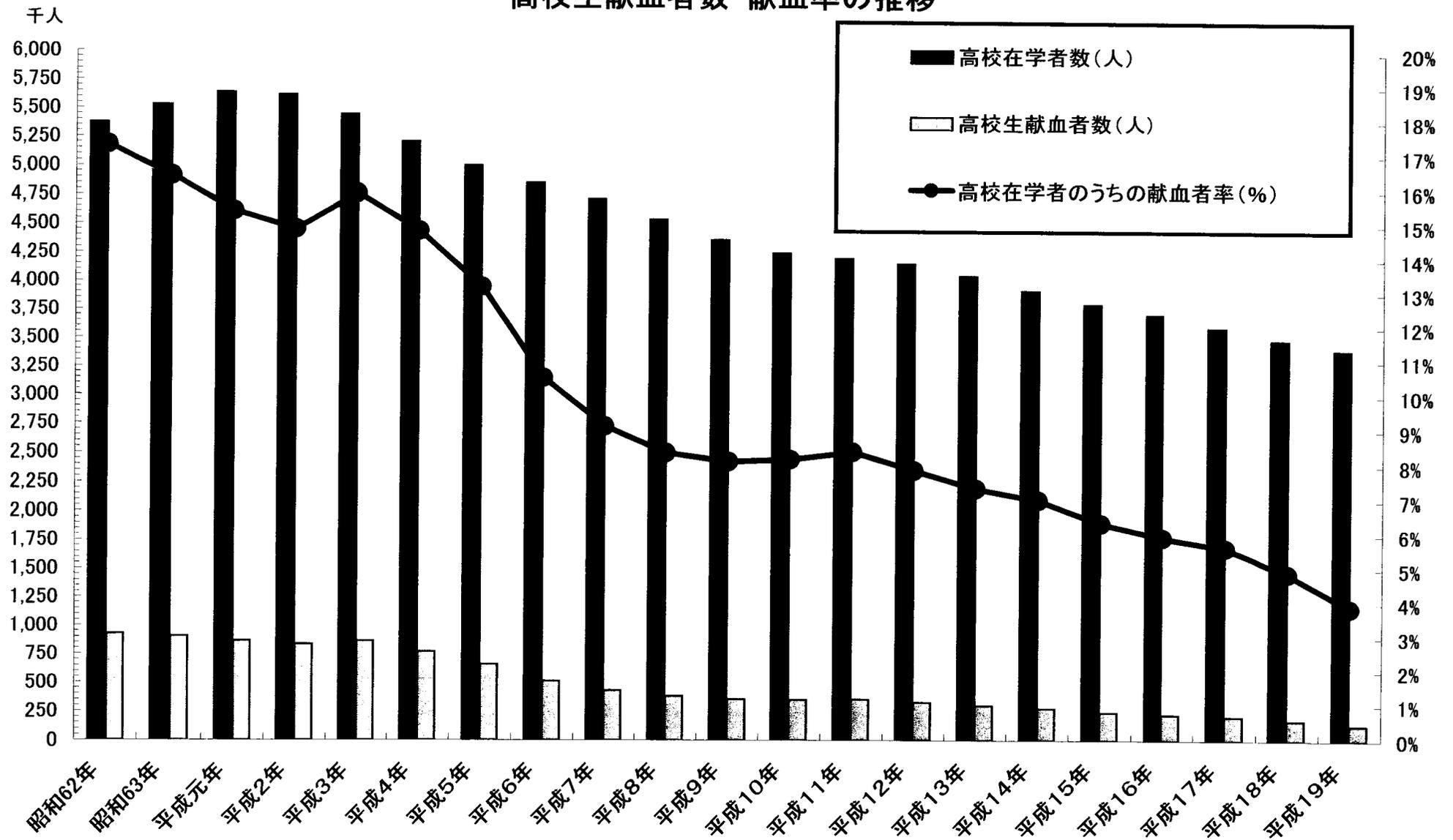
人口変動と献血率の推移【40歳～49歳】



人口変動と献血率の推移【50歳～69歳】

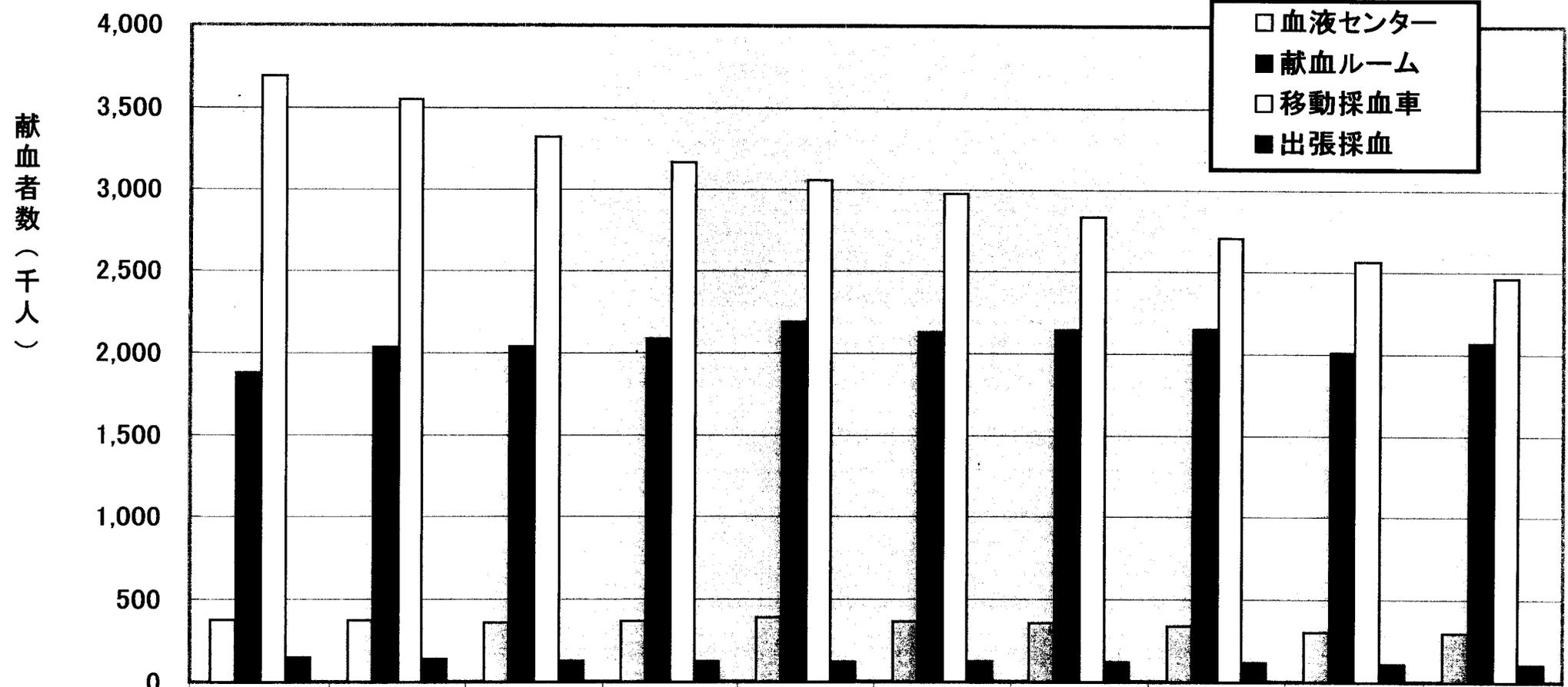


高校生献血者数・献血率の推移



※献血者数は延べ人数

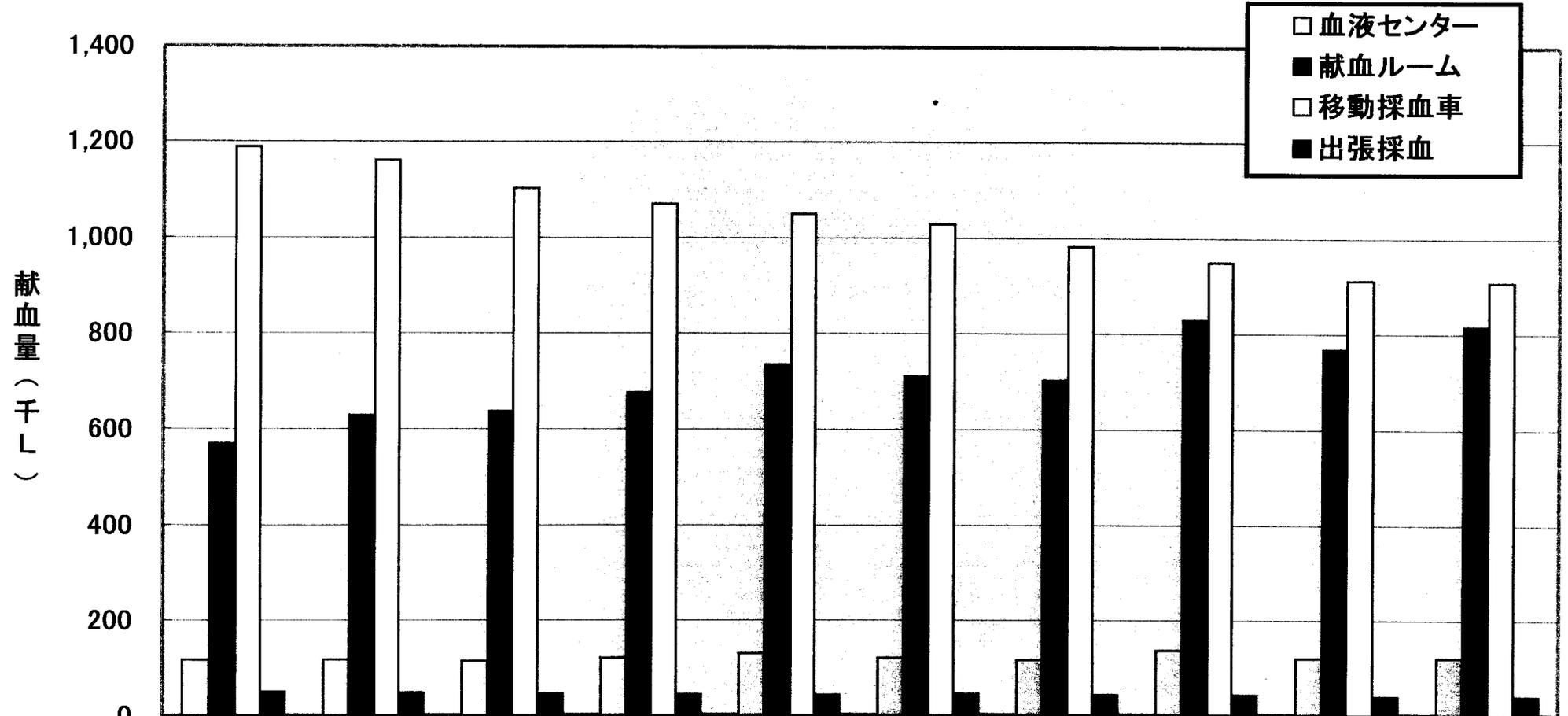
献血受入施設別の献血者数



	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年
□ 血液センター	378	373	359	369	390	364	355	338	301	295
■ 献血ルーム	1,878	2,037	2,039	2,087	2,189	2,130	2,146	2,151	2,008	2,065
□ 移動採血車	3,693	3,553	3,323	3,169	3,056	2,975	2,834	2,705	2,563	2,462
■ 出張採血	149	139	128	122	119	123	121	117	107	107

※献血者数は延べ人数

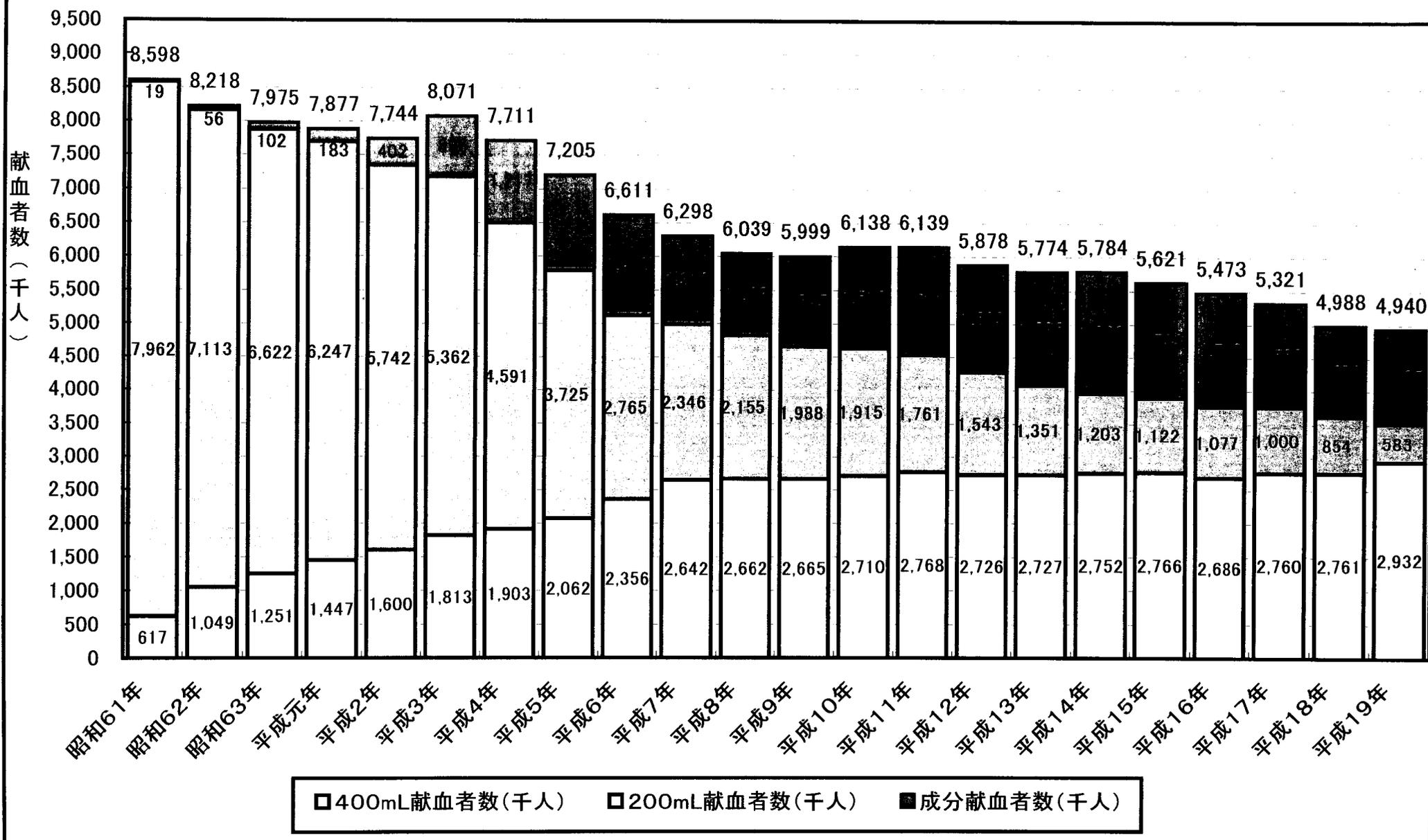
献血受入施設別の血液確保量



	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年
□ 血液センター	116	116	113	119	129	119	115	136	119	119
■ 献血ルーム	569	629	637	676	734	710	702	829	768	816
□ 移動採血車	1,188	1,161	1,103	1,070	1,050	1,029	982	950	913	908
■ 出張採血	50	47	44	44	43	44	43	42	39	40

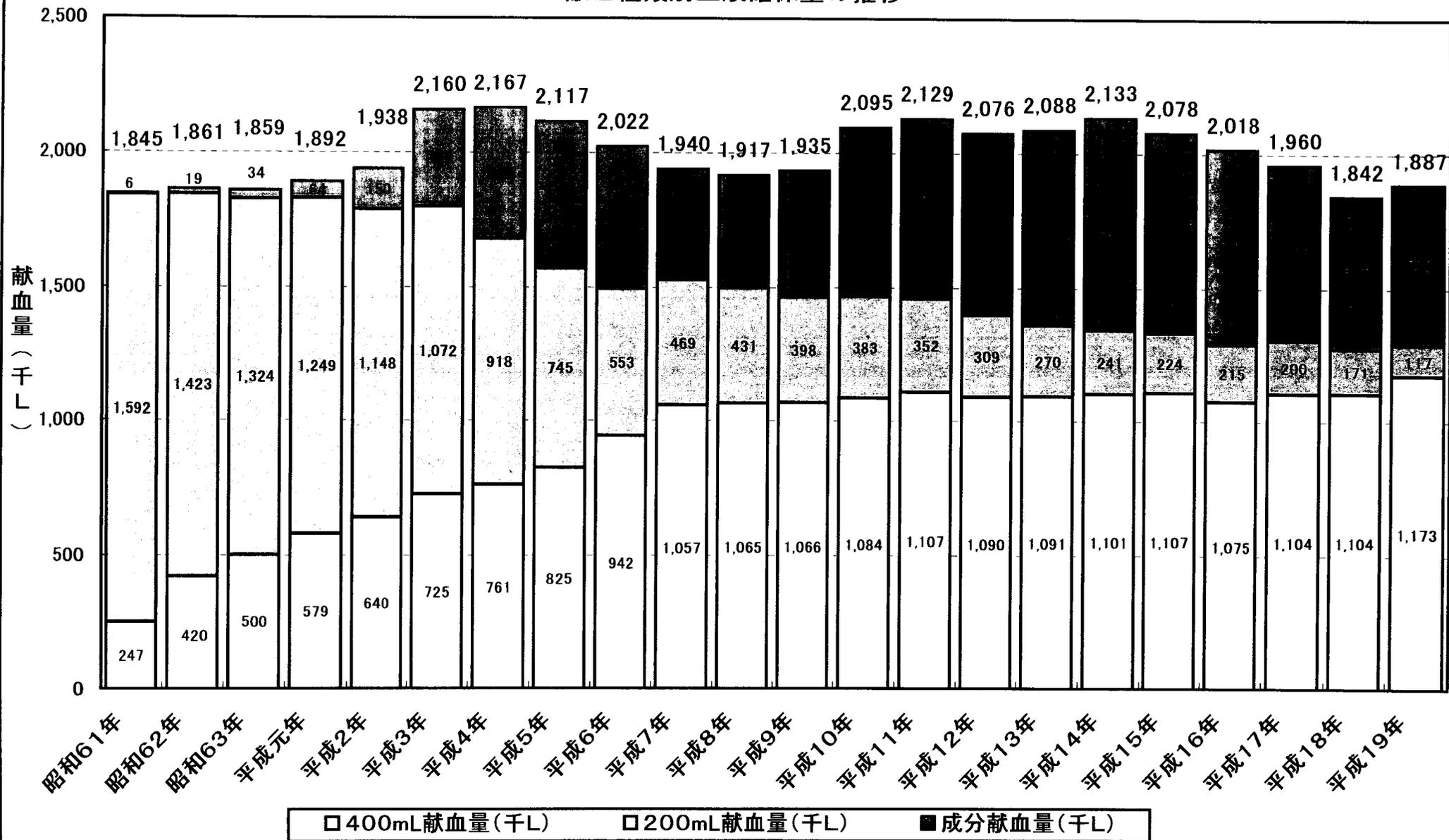
献血種類別献血者数の推移

資料 7-1



※献血者数は延べ人数

献血種類別血液確保量の推移



献血に係る普及啓発事業

献血推進キャンペーン等の実施

愛の献血助け合い運動(7月)

はたちの献血キャンペーン

(1-2月)

献血推進キャラクター

「けんけつちゃん」の活用

「献血構造改革」(H17~)

~普及啓発の対象を明確にした効果的な活動や重点的な献血者募集を行う

- ① 若年層の献血者数の増加
- ② 安定的な集団献血の確保
- ③ 複数回献血者の増加



— 高校生向け普及啓発用テキスト

献血構造改革の目標

(平成17年度からの5年程度の達成目標)

若年層の献血者数の増加

10代・20代を献血者全体の40%まで上昇させる

平成17年度 33.4%

平成18年度 31.5%

平成19年度 29.2%

安定的な集団献血の確保

集団献血等に協力する企業数を倍増する。

平成17年度 24,220社

平成18年度 30,835社

平成19年度 34,059社

複数回献血の増加

複数回献血者を献血者全体の35%まで上昇させる。

平成17年度 27.5%

平成18年度 28.1%

平成19年度 29.5%

平成18年5月10日運営委員会提出資料

若年層献血意識に関する調査結果の概要（案）

I 調査の概況

1 調査の目的

近年、献血者数は減少傾向にあり、特に若年層の献血者の減少が著しい。

これに加え、平成17年2月、国内で初めて変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）患者が確認されたことから、輸血を通じたvCJDの伝播を防ぐための献血制限の強化等により、血液製剤の安定供給の確保に支障を来すおそれが生じている。

こうした中、少子高齢化に伴う献血可能人口の減少など、将来にわたって安定的に血液製剤を供給していくためには、若年層献血者の確保を図ることが重要であることから、若年層の献血に対する意識を把握し、献血推進方策等を検討する上での基礎資料を得ることを目的として本調査が実施された。

2 調査の対象者

16歳から29歳の献血経験者及び献血未経験者

※ 献血経験者 : 過去に1度でも献血の経験がある者

※ 献血未経験者 : 今まで1度も献血の経験がない者（採血前の検査で基準を満たさないため献血できなかった者を含む。）

3 調査の時期

平成18年1月20日～2月3日

「はたちの献血」キャンペーン期間中

4 調査の方法

委託先調査会社が保有している一般消費者パネルに対して、インターネットを通じて調査票を送付し、地域区分ごとに一定数に達するまでの回答を収集する。

5 調査の内容

調査の内容は、大別すると次の事項に分けられる。

- ① 献血に関する認知度や献血へのイメージについて
- ② 献血を行った時期やきっかけについて

6 調査票の回収状況

区 分	献血経験者	献血未経験者	合 計
北海道	200	200	400
東北	350	350	700
関東甲信越	1,800	1,800	3,600
東海北陸	750	750	1,500
近畿	850	850	1,700
中国・四国	450	450	900
九州・沖縄	600	600	1,200
合 計	5,000	5,000	10,000

II 調査結果の概要

1 献血未経験者

■ 基本情報（回答者5000人）

- ① 性別では、男性が1,688人（33.8%）、女性が3,312人（66.2%）であった。
- ② 年齢別では、25～29歳が2,882人（57.6%）、次いで20～24歳が1,539人（30.8%）、18～19歳が304人（6.1%）、16～17歳が275人（5.5%）であった。
- ③ 職業別では、会社員が1,596人（31.9%）、次いでその他が999人（20.0%）、大学生・専門学校生が932人（18.6%）、専業主婦が856人（17.1%）、高校生が398人（8.0%）、自営業が115人（2.3%）、公務員104人（2.1%）であった。
- ④ 医療関係従事者は300人（6.0%）であった。

■ 献血に関する認知度や献血へのイメージ

献血未経験者の4人に1人(26.2%)が献血を知らないと回答。

また、献血ルームのイメージについて、「明るい」が18.2%で「暗い」の20.6%とネガティブイメージが上回っていた。

Q 1 献血に関する認知度について、「ある程度知っている」が3,268人(65.4%)、「よく知っている」が421人(8.4%)で、献血を知っている者が全体の7割を超えていた。

Q 2 献血への関心について、「関心がある」が2,291人(45.8%)、「非常に関心がある」が318人(6.4%)で、献血に関心がある者が全体の5割を超えていた。

Q 3 献血に関する広報で接触したことがある媒体としては、「街頭での呼びかけ」が3,485人(69.7%)、次いで「献血バス」が3,261人(65.2%)、「テレビ」が3,006人(60.1%)であった。(複数回答)

Q 4 献血の呼びかけとして効果があると思った媒体としては、「テレビ・新聞・ラジオを使った呼びかけ」が2,569人(51.4%)、次いで「街頭や職場、学校等での呼びかけ」が1,921人(38.4%)、「献血に関するイベントでの呼びかけ」が1,167人(23.3%)であった。(複数回答)

Q 5 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体としては、「テレビ」が4,445人(88.9%)、次いで「インターネット」が2,094人(41.9%)、「新聞」が1,409人(28.2%)であった。(複数回答)

Q 6 「氷川きよし」キャンペーン起用について、「テレビで見た」が1,465人(29.3%)、「ポスターで見た」が817人(16.3%)で、全体の5割が認知していた。

Q 7 キャンペーンキャラクターとして起用すべきタレントは、「上戸彩」が302人(6.0%)、「仲間由紀恵」が248人(5.0%)、「木村拓哉」が138人(2.8%)であった。

Q 8 「けんけつちゃん」の認知度は、148 人（3.0%）。職業別では、高校生 20 人（5.0%）が、また、地域別では、東北 14 人（4.0%）の認知度が高かった。

Q 9 献血キャンペーン（「愛の血液助け合い運動」、「私たちの献血キャンペーン」）の認知度は、「知っている」が 1,297 人（25.9%）で、「知らない」が 3,703 人（74.1%）であった。

Q 10 高校生向けの献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布された記憶について、「知らない」が 4,646 人（92.9%）で、記憶ありは 354 人（7.1%）であった。

Q 11 エイズ検査結果の非通知について、「知っている」が 1,460 人（29.2%）、「知らせていると思った」が 1,554 人（31.1%）、「そもそも検査していることを知らなかった」が 1,986 人（39.7%）であった。

Q 12 献血で感染症に感染しないことについて、「知っている」が 3,044 人（60.9%）、「知らない」が 1,956 人（39.1%）であった。

Q 13 血液製剤を未だ海外血液に依存していることについて、「知っている」が 1,132 人（22.6%）で、「知らない」が 3,868 人（77.4%）であった。

Q 14 献血ルームのイメージについて、「暗い」が 1,030 人（20.6%）で、「明るい」908 人（18.2%）を上回っていた。

■ 献血をしたことがない理由等

献血未経験者が献血しない 1 番の理由としては、

- ・ 針を刺すのが痛くて嫌だから（14.2%）
- ・ 何となく不安だから（6.5%）
- ・ 恐怖心（5.0%）
- ・ 血を採られているという感じが嫌だ（4.6%）

といった「採血の際の痛みや不安」が全体の 3 割を占めていた。

Q15 献血をしたことがない理由として1番目に挙げられたもののうち最も回答が多かったのは、「針を刺すのが痛くて嫌だから」の711人(14.2%)であった。

また、献血をしたことがない理由を3つまで列挙してもらい、その中で挙げられた理由について見ると、「針を刺すのが痛くて嫌だから」が1,455人(29.1%)、次いで「何となく不安だから」が1,397人(27.9%)、「健康上出来ないと思ったから」が1,138人(22.8%)であった。

Q16 献血するきっかけとなり得る理由として1番目に挙げられたもののうち最も回答が多かったのは、「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」場合で865人(17.3%)であった。

また、献血するきっかけとなり得る理由を3つまで列挙してもらい、その中で挙げられた理由について見ると、「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」場合が1,670人(33.4%)、次いで「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された(麻酔など)」場合が1,379人(27.6%)、「献血が自分の健康管理の役に立つようになった」場合が1,287人(25.7%)であった。

2 献血経験者

■ 基本情報 (回答者5000人)

- ① 性別では、男性が1,705人(34.1%)、女性が3,295人(65.9%)であった。
- ② 年齢別では、25～29歳が3,699人(74.0%)、次いで20～24歳が1,111人(22.2%)、18～19歳が145人(2.9%)、16～17歳が45人(0.9%)であった。
- ③ 職業別では、会社員が2,099人(42.0%)、次いで専業主婦が1,067人(21.3%)、その他が749人(15.0%)、大学生・専門学校生が652人(13.0%)、公務員203人(4.1%)、自営業143人(2.9%)、高校生87人(1.7%)であった。
- ④ 医療関係従事者は500人(10.0%)であった。

■ 献血に関する認知度や献血へのイメージ

「街頭での呼びかけ」や「献血バス」に出会ったことがあるとした割合が多く、ともに7割を超えていた。

献血の呼びかけとして効果があると思った媒体は、「テレビ・新聞・ラジオを使った呼びかけ」57.8%と最も高く、次いで「街頭や職場、学校等での呼びかけ」49.1%であった。

献血ルームのイメージについて、「明るい」が42.1%で「暗い」の8.3%を大きく上回っていた。

- Q 1 献血に関する広報で接触したことがある媒体としては、「街頭での呼びかけ」が3,910人(78.2%)、次いで「献血バス」が3,765人(75.3%)、「テレビ」が3,330人(66.6%)であった。(複数回答)
- Q 2 献血の呼びかけとして効果があると思った媒体としては、「テレビ・新聞・ラジオを使った呼びかけ」が2,888人(57.8%)、次いで「街頭や職場、学校等での呼びかけ」が2,457人(49.1%)、「献血に関するイベントでの呼びかけ」が1,619人(32.4%)であった。(複数回答)
- Q 3 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体としては、「テレビ」が4,375人(87.5%)、次いで「インターネット」が2,195人(43.9%)、「新聞」が1,521人(30.4%)であった。(複数回答)
- Q 4 「氷川きよし」キャンペーン起用について、「テレビで見た」が1,763人(35.3%)、「ポスターで見た」が1,544人(30.9%)で、全体の7割弱が認知していた。
- Q 5 キャンペーンキャラクターとして起用すべきタレントは、「上戸彩」が285人(5.7%)、「仲間由紀恵」が221人(4.4%)、「木村拓哉」が155人(3.1%)であった。
- Q 6 「けんけつちゃん」認知度は、350人(7.0%)。地域別では、「東北」が46人(13.1%)で他の地域と比べ高く、職業別では、「高校生」が17人(19.5%)で他の職業に比べ高かった。

Q 7 献血キャンペーン（「愛の血液助け合い運動」、「はたちの献血キャンペーン」）の認知度は、「知っている」が 2,322 人（46.4%）で、「知らない」が 2,678 人（53.6%）であった。

Q 8 高校生向けの献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布された記憶について、「知らない」が 4,470 人（89.4%）で、記憶ありは 530 人 10.6%であった。

Q 9 エイズ検査結果の非通知について、「知っている」が 3,200 人（64.0%）、「知らせていると思った」が 1,039 人（20.8%）、「そもそも検査していることを知らなかった」が 761 人（15.2%）であった。

Q 10 献血で感染症に感染しないことについて、「知っている」が 3,995 人（79.9%）、「知らない」が 1,005 人（20.1%）であった。

Q 11 血液製剤を未だ海外血液に依存していることについて、「知っている」が 1,540 人（30.8%）で、「知らない」が 3,460 人（69.2%）であった。

Q 12 献血ルームの雰囲気について、「ふつう」が 2,479 人（49.6%）、「明るい」が 2,106 人（42.1%）、「暗い」が 415 人（8.3%）であった。

献血ルームの広さについて、「ふつう」が 2,728 人（54.6%）、「狭い」が 1,225 人（24.5%）、「広い」が 1,047 人（20.9%）であった。

献血ルームの職員の対応について、「ふつう」が 2,875 人（57.5%）、「良い」が 1,890 人（37.8%）、「悪い」が 235 人（4.7%）であった。

献血ルームの処遇（記念品や軽い飲食物）について、「ふつう」が 2,576 人（51.5%）、「良い」が 1,836 人（36.7%）、「悪い」が 588 人（11.8%）であった。

■ 献血を行った時期やきっかけ

現在、献血する理由（大きい順の3つまでの計）は、「自分の血液が役に立ってほしいから」が 3,367 人（67.3%）、次いで「輸血用の血液が不足していると聞いたから」が 2,382 人（47.6%）、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」が 2,064 人（41.3%）であった。

Q 1 5 初めて献血した年齢は、「16～17歳」が 1,728 人（34.6%）、「18～19歳」が 1,528 人（30.6%）で、10代での献血が全体の6割を超えていた。

Q 1 6 初めて献血した場所は、「献血バス」が 1,856 人（37.1%）、次いで「献血ルーム」が 1,629 人（32.6%）、「高校での集団献血」が 1,131 人（22.6%）であった。

Q 1 7 初めての献血の種類は、「200ml献血」が最も多く 3,117 人（62.3%）で、「400ml献血」が 946 人（18.9%）、「成分献血」が 276 人（5.5%）であった。

Q 1 8 過去1年間の献血回数は、

200ml献血では、「1回」が 1,115 人（22.3%）、「2回」が 435 人（8.7%）、「3回」が 244 人（4.9%）、「4～6回」が 231 人（4.6%）で、2回以上の合計は 910 人（18.2%）であった。

400ml献血では、「1回」が 831 人（16.6%）、「2回」が 317 人（6.3%）、「3回」が 171 人（3.4%）で、2回以上の合計は 488 人（9.8%）であった。

成分献血では、「1回」が 386 人（7.7%）、「2回」が 170 人（3.4%）、「3回」が 106 人（2.1%）、「4回以上」が 278 人（5.6%）で、2回以上の合計は 554 人（11.1%）であった。

Q 1 9 今までの合計献血回数は、「1回」が 1,409 人（28.2%）、次いで「3～5回」が 1,363 人（27.3%）、「2回」が 813 人（16.3%）で、全体の7割以上が複数回の献血者であった。

Q 2 0 初めて献血した際のきっかけとして1番目に挙げられたもののうち最も回答が多かったのは、「自分の血液が役に立ってほしいから」の1,686人(33.7%)であった。

Q 2 1 現在、献血する理由として1番目に挙げられたもののうち最も回答が多かったのは、「自分の血液が役に立ってほしいから」の2,196人(43.9%)であった。

また、献血する理由を3つまで列挙してもらい、その中で挙げられた理由について見ると、「自分の血液が役に立ってほしいから」が3,367人(67.3%)、次いで「輸血用の血液が不足していると聞いたから」が2,382人(47.6%)、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」が2,064人(41.3%)であった。

Q 2 2 高校での集団献血がその後の動機付けとなっているかについては、「どちらかといえば有効」が2,274人(45.5%)、「非常に有効」が1,022人(20.4%)で、有効であるとの評価が全体の7割弱を占めていた。

■ その他

Q 1 4 献血についての要望・知りたいことについて、「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」が2,116人(42.3%)で、次いで「献血したときの処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい」が2,101人(42.0%)、「献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい」が1,933人(38.7%)であった。(複数回答)

(参考)

「献血未経験者」と「献血経験者」の回答比較(同一の設問)

項 目	献血未経験者	献血経験者
献血に関する広報で接触したことがある媒体		
街頭での呼びかけ	3,485人(69.7%)	3,910人(78.2%)
献血バス	3,261人(65.2%)	3,765人(75.3%)
テレビ	3,006人(60.1%)	3,330人(66.6%)
献血の呼びかけとして効果があると思った媒体		
テレビ・新聞・ラジオを使った呼びかけ	2,569人(51.4%)	2,888人(57.8%)
街頭や職場、学校等での呼びかけ	1,921人(38.4%)	2,457人(49.1%)
献血に関するイベントでの呼びかけ	1,167人(23.3%)	1,619人(32.4%)
献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体		
テレビ	4,445人(88.9%)	4,375人(87.5%)
インターネット	2,094人(41.9%)	2,195人(43.9%)
新聞	1,409人(28.2%)	1,521人(30.4%)
「氷川きよし」キャンペーン起用について		
テレビで見た	1,465人(29.3%)	1,763人(35.3%)
ポスターで見た	817人(16.3%)	1,544人(30.9%)
キャンペーンキャラクターとして起用すべきタレント		
上戸彩	302人(6.0%)	285人(5.7%)
仲間由紀恵	248人(5.0%)	221人(4.4%)
木村拓哉	138人(2.8%)	155人(3.1%)
「けんけつちゃん」の認知度		
知っている	148人(3.0%)	350人(7.0%)
献血キャンペーン(「愛の血液助け合い運動」、「はたちの献血キャンペーン」)の認知度		
知っている	1,297人(25.9%)	2,322人(46.4%)
知らない	3,703人(74.1%)	2,678人(53.6%)
高校生向けの献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布された記憶		
記憶あり	354人(7.1%)	530人(10.6%)
知らない	4,646人(92.9%)	4,470人(89.4%)
エイズ検査結果の非通知について		
知っている	1,460人(29.2%)	3,200人(64.0%)
知らせていると思った	1,554人(31.1%)	1,039人(20.8%)
そもそも検査していることを知らなかった	1,986人(39.7%)	761人(15.2%)
献血で感染症に感染しないことについて		
知っている	3,044人(60.9%)	3,995人(79.9%)
知らない	1,956人(39.1%)	1,005人(20.1%)
血液製剤を未だ海外血液に依存していることについて		
知っている	1,132人(22.6%)	1,540人(30.8%)
知らない	3,868人(77.4%)	3,460人(69.2%)
献血ルームの雰囲気		
明るい	908人(18.2%)	2,106人(42.1%)
暗い	1,030人(20.6%)	415人(8.3%)

若年層献血意識調査要綱

1 調査目的

わが国の血液事業は、昭和49年に輸血用血液製剤の国内自給が達成され、今日に至るまで安定供給の確保が図られている。

しかし、近年、献血者数は減少傾向にあり、特に若年層の献血離れは深刻なものとなっていることから、献血推進の枠組みについての見直しが求められているところである。

こうした状況を踏まえ、平成17年度に「若年層献血意識調査」を実施し、その後、「献血構造改革」による事業の開始をはじめとする新たな施策が実施されたところであるが、依然、若年層の献血者は減少傾向にあることから、今般、平成17年度と同様の意識調査を実施し、前回調査データとの比較を行うことにより、若年層の献血に関する意識等に変化があるのかどうかを検証・評価を行い、今後の若年層に対する献血推進の枠組みの検討に資することを目的とする。

(1) 調査内容

- ① 献血への関心度や献血へのイメージを把握する。
- ② 献血に関する認知度を把握する。
- ③ 献血を行った時期やきっかけを把握する。
- ④ ①～③について、平成17年度の調査結果との比較を行う。

(2) 調査の活用

若年層の献血意識の変化や内容を把握・検証し、今後の献血推進方策の検討に資する。

2 調査方法

(1) 調査手法

インターネット調査

例：モニター調査、委託業者のHP上での調査 等

(2) 調査対象

10,000客体（献血経験者、献血未経験者それぞれ5,000客体）

全国を以下の7ブロックに分け、各ブロックの若年層人口（15～29歳）の全国に占める割合に応じてブロックごとの客対数を決定する（参考：前回客対数→別紙）。

- ・ブロック①（北海道）
- ・ブロック②（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）
- ・ブロック③（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨）
- ・ブロック④（富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重）
- ・ブロック⑤（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）
- ・ブロック⑥（鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知）
- ・ブロック⑦（福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄）

(3) 調査時期 平成20年9月上旬～10月上旬

3 調査手順

(1) 調査会社と契約し、別添調査票によりインターネット調査を実施。

* 「献血経験者用」の問13と問17、問20と問17並びに問13と問22は関連づけて集計する。

(2) 集計、前回調査結果との比較・解析後、「献血推進のあり方に関する検討会」に報告。

(3) 報告書を薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会に報告。

(4) 報告書を各都道府県に送付。

問 11 平成 2 年から、全国の高校 3 年生を対象に、献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。

1. 保健体育の授業で使用した 2. 他の授業で使用した 3. 配布されただけ
4. 知らない

※ 参考（平成 19 年版 高校生副読本「HOP STEP JUMP」→

<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/2e/index.html> をご覧ください)

問 12 献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問 13 血液製剤（※）は未だ海外の血液に依存していることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

※…重症熱傷に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ 60% 台である。

問 14 献血ルームのイメージを教えてください。

1. 明るい 2. ふつう 3. 暗い 4. わからない

問 15 献血したことがないのはどのような理由からですか。

理由の大きい順に 3 つまで、その番号をお選びください。

1. 献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた
2. 献血している所に入りづらかったから
3. 呼び込みが強引で嫌だったから
4. 献血場所が遠いので面倒だから
5. 近くに献血する場所や機会がなかったから
6. どこで献血ができるか分からない
7. 時間がかかりそうだから
8. 忙しくて献血する時間がなかったから
9. 自分が献血しなくても誰かがやると思ったから
10. 自分の血液が役に立たないと思ったから
11. 血液が無駄にされていると聞いたから
12. 針を刺すのが痛くて嫌だから
13. なんとなく不安だから
14. 健康上出来ないと思ったから
15. 病気がうつると思ったから
16. 献血すると言ったら、友人や家族からとめられた
17. 血を採られるという感じが嫌だ
18. 恐怖心
19. 職員の態度が悪いので献血したくない
20. 献血する意志がない
21. 海外渡航歴等による献血制限で献血したくてもできない
22. 薬を服用しているので献血ができない
23. わからない
24. その他

1 番目 2 番目 3 番目

24 を選んだ場合の具体的な理由

問16 あなたが献血するきっかけとなり得る項目を選択してください。
きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。
なお、13、14番を選択した方は、具体例を教えてください。

1. 家族や友人などから勧められた
2. 献血しているところが入りやすい雰囲気になった
3. 近くに献血する場所ができた（献血ルーム）
4. 近くに献血する場所ができた（献血バスまたは出張献血）
5. キャンペーンやイベント等により献血が身近に感じられるようになった
6. 好きなタレントがキャンペーンに起用されていた
7. 献血の重要性が明確になった
8. 血液が無駄になってないことが分かった
9. 針が細くなった
10. 針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された（麻酔など）
11. 献血で病気がうつることはないと思った
12. 献血ルームの受付時間が長くなった
13. 献血したときの処遇品（記念品）が良くなった
14. 献血ルームのサービスが良くなった
15. 献血が自分の健康管理の役に立つようになった
16. 職員の態度が良くなった
17. 海外渡航歴等の献血制限が解除された
18. 献血が健康にほとんど害がないということが分かった
19. 献血できる場所が分かった
20. 献血は絶対しない

1 番目 2 番目 3 番目

13 を選んだ場合の具体例

14 を選んだ場合の具体例

20 を選んだ場合の理由

問17 ご家族が献血している姿を見たことがありますか。

1. ある 2. ない 3. おぼえていない

問18 あなたのお友達に献血をしている人はいますか。

1. いる 2. いない 3. わからない

問19 現在お住まいの地域は、以下のうちどちらになりますか。

1. 北海道 2. 東北 3. 関東甲信越 4. 東海北陸 5. 近畿
6. 中国・四国 7. 九州・沖縄

問20 現在おいくつですか。

1. 16～17歳 2. 18～19歳 3. 20～24歳 4. 25歳～29歳

問21 あなたの性別を教えてください。

1. 男性 2. 女性

問 22 現在のご職業を教えてください。

1. 高校生 2. 大学生・専門学校生 3. 会社員 4. 公務員 5. 自営業
6. 専業主婦 7. その他

問 23 あなたは学業及び職業で、医療関係に携わっていますか。

1. はい 2. いいえ

問 24 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

資料は、下の資料ボタンをクリックするとPDFデータでご確認いただけます。

a 献血の必要性への理解は良くなりましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

b 今は献血に協力する気持ちはありますか。

1. ある 2. どちらかというとある 3. どちらかというとない 4. ない

c 今後、実際に献血に行きますか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問 25 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。

広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。

以上で献血に関するアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

わが国は、輸血などの血液製剤を献血により安全に安定して国内自給することを目指している世界でも数少ない国です。

今後とも、献血への御理解と御協力をお願いいたします。

なお、最後に、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」をどうぞよろしくお願ひします。

プロフィールはこちら → <http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/1i.html>

若年層献血意識調査

太字下線は17年度調査との比較を行う設問

問1 献血は、患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問2 献血へ協力してくださる若い方の数が、近年大幅に減っています(※)。知っていましたか。

1. 知っている 2. 知らない

※ …最近5年間で20代の献血者数は161万8千人から113万5千人(30%減)に、10代の献血者数は56万4千人から32万4千人(43%減)も減少しています。

問3 献血に関して、どのような広報媒体を見たこと(聞いたことが)ありますか(複数回答可)。

1. テレビ 2. ラジオ 3. 新聞 4. 街頭での呼びかけ
 5. 献血ルーム前の看板・表示 6. チラシの配布
 7. ポスターの掲示 8. 献血関係のイベント 9. 自治体の広報誌 10. 雑誌等
 11. インターネット 12. 献血バス
 13. その他 ()
 14. 何かで見た(聞いた)が、何の媒体か覚えていない
 15. 見たこと(聞いたこと)がない

問4 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体は何だと思いますか(複数回答可)。

1. テレビ 2. ラジオ 3. 新聞 4. 雑誌 5. 自治体の広報誌
 6. インターネット 7. 携帯電話 8. ポスター
 9. その他 ()

問5 厚生労働省では献血推進のためのキャラクターとして「けんけつちゃん」を作成していますが、知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問6 献血に関するキャンペーンを知っていますか。

(毎年7月:愛の血液助け合い運動 毎年1~2月:「はたちの献血」キャンペーン)

1. 知っている 2. 知らない

問7 平成2年から、全国の高校3年生を対象に、献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。

1. 保健体育の授業で使用した 2. 他の授業で使用した 3. 配布されただけ
 4. 知らない

※参考(平成19年版 高校生副読本「HOP STEP JUMP」→

<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/2e/index.html> をご覧下さい)

問8 献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問9 血液製剤(※)はまだ海外の血液に依存していることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

※…重症熱傷に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ60%台である。

問10 献血ルームのイメージを教えてください。

- | | | | | |
|---------------|--------|--------|-------|----------|
| ルームの雰囲気 | 1. 明るい | 2. ふつう | 3. 暗い | 4. わからない |
| ルームの広さについて | 1. 広い | 2. ふつう | 3. 狭い | 4. わからない |
| 職員の対応について | 1. 良い | 2. ふつう | 3. 悪い | 4. わからない |
| 記念品や軽い飲食物について | 1. 良い | 2. ふつう | 3. 悪い | 4. わからない |

問11 献血について何か要望又は知りたいことがありますか。(複数回答可)

1. 献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい
2. 献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい
3. 献血で昼休み、夜間などの受付時間を延長してほしい
4. 職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい
5. 献血された血液がどのように使われるのか知りたい
6. 献血したときの処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい
7. 進学や就職時に献血の経験を考慮してほしい
8. 学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい
9. その他 ()
10. 特になし

問12 初めて献血をしたのはいつですか。

1. 16～17歳
2. 18～19歳
3. 20～24歳
4. 25歳～29歳

問13 初めて献血した場所はどこですか。

← 問17、問22と関連づけて集計

1. 高校
2. 大学キャンパス又は専門学校・各種学校
3. 職場
4. 献血バス(1～3以外)
5. 献血ルーム(血液センター)
6. 覚えていない

問14 初めての献血の種類は何ですか。

1. 200mL献血
2. 400mL献血
3. 成分献血
4. 覚えていない

問15 初めての献血で400mL献血をすることをどう思いますか。

1. 特に不安は感じない
2. 不安
3. わからない

2を選んだ場合の理由

問16 過去1年間に何回献血しましたか。

(1) 200mL献血

1. 0回
2. 1回
3. 2回
4. 3回
5. 4回
6. 5回
7. 6回

(2) 400mL献血

1. 0回
2. 1回
3. 2回
4. 3回

(3) 成分献血

1. 0回
2. 1回
3. 2回
4. 3回
5. 4回
6. 5回
7. 6回
8. 7回以上

問17 今までの献血回数は合計で何回ですか。

← 問13、問20と関連づけて集計

1. 1回
2. 2回
3. 3～5回
4. 6～10回
5. 11～20回
6. 21～30回
7. それ以上

問18 初めての献血のきっかけになったのは、次のうちどれですか。

きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。

1. 自分の血液が役に立ってほしいから
2. 輸血用の血液が不足していると聞いたから
3. 自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから
4. 将来自分や家族などが輸血を受けることがあるかもしれないから協力した
5. 過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから
6. お菓子やジュースがもらえるから
7. ネールアートやマッサージなどのサービスが受けられるから
8. 図書券がもらえたから
9. なんとなく
10. 輸血を受けるときに役立てたいから
11. 家族や友人などに勧められたから
12. 高校に献血バス・出張献血が来たから
13. 大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから
14. 覚えていない

1 番目 2 番目 3 番目

問19 現在献血するきっかけになっているのは、次のうちどれですか。

きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。

1. 自分の血液が役に立ってほしいから
2. 輸血用の血液が不足していると聞いたから
3. 自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから
4. 将来自分や家族などが輸血を受けることがあるかもしれないから協力したい
5. 過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから
6. お菓子やジュースがもらえるから
7. 輸血を受けるときに役立てたいから
8. テレビやDVDを観ることができから
9. ネールアートやマッサージなどのサービスが受けられるから
10. なんとなく

1 番目 2 番目 3 番目

問20 ご家族が献血している姿を見たことがありますか。

1. ある 2. ない 3. おぼえていない

← 問17と関連づけて集計

問21 あなたのお友達に献血をしている人はいますか。

1. いる 2. いない 3. わからない

問22 高校での集団献血があれば、その経験がその後に献血する動機付けになるとおもいますか。

1. 非常に有効 2. どちらかと言えば有効 3. あまり関係ない 4. 全く関係ない

↑ 問13と関連づけて集計

問23 現在お住まいの地域は、以下のうちどちらになりますか。

1. 北海道 2. 東北 3. 関東甲信越 4. 東海北陸 5. 近畿
6. 中国・四国 7. 九州・沖縄

問24 現在おいくつですか。

1. 16～17歳 2. 18～19歳 3. 20～24歳 4. 25歳～29歳

問 25 あなたの性別を教えてください。

1. 男性 2. 女性

問 26 現在のご職業を教えてください。

2. 高校生 2. 大学生・専門学校生 3. 会社員 4. 公務員 5. 自営業
6. 専業主婦 7. その他

問 27 あなたは学業及び職業で、医療関係に携わっていますか。

1. はい 2. いいえ

問 28 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

資料は、下の資料ボタンをクリックするとPDFデータでご確認いただけます。

a 献血の必要性への理解は今までと比べ深まりましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

b 資料を読んで献血に協力する気持ちは高まりましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

c アンケートへの記載及び資料を読んで献血に行く回数を増やそうと思いましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問 29 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。

広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。

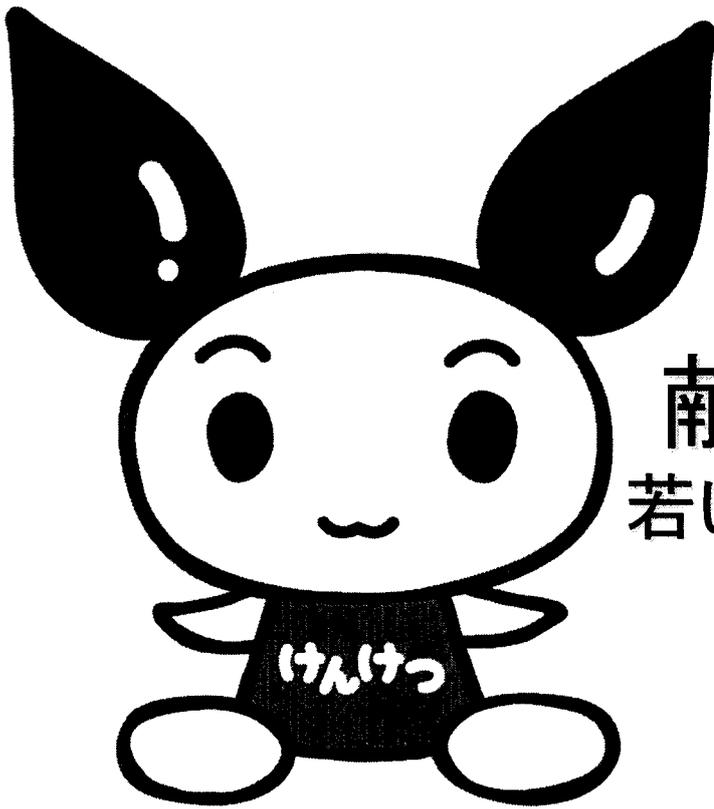
以上で献血に関するアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

わが国は、輸血などの血液製剤を献血により安全に安定して国内自給することを目指している世界でも数少ない国です。

今後とも、献血への御理解と御協力をお願いいたします。

なお、最後に、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」をどうぞよろしくお願ひします。

プロフィールはこちら → <http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/1i.html>



献血にご協力を 若い皆さんの熱い友情を

血液を必要とする人すべてが輸血を受けられるように。
献血したことのある方もない方も、あらためてご協力をお願いします。
血液を必要としている人はあなたのすぐそばにいるかもしれません。



献血はどこでできるの？

献血は、献血ルームや献血バスで行うことができます。
全国の血液センターや献血ルームは、日本赤十字社ホームページ(<http://www.jrc.or.jp>)に掲載しています。



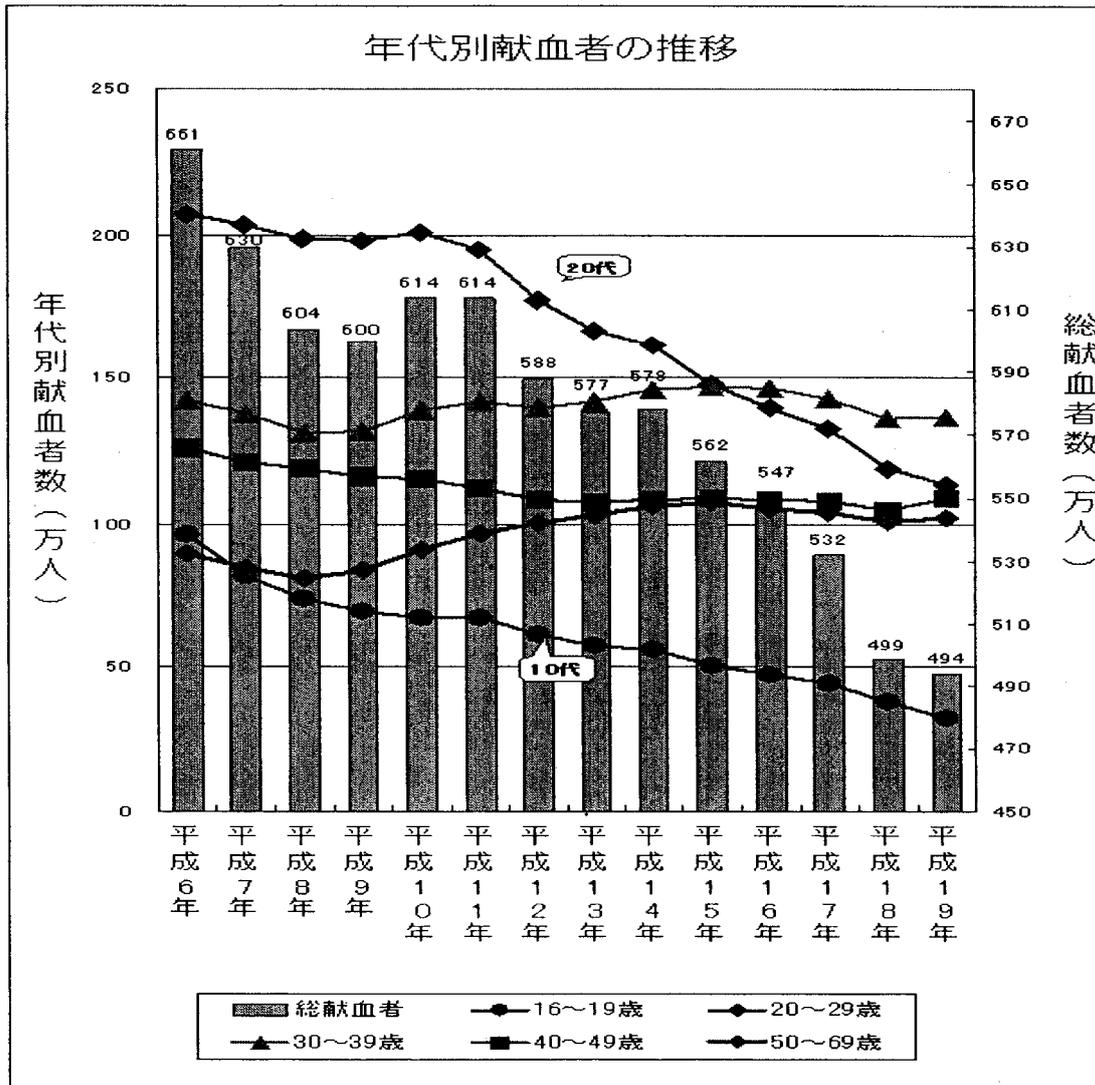
献血はなぜ必要なの？

血液は様々な働きをしており、生命を維持するために不可欠のものです。そこで事故などで大量に血液が失われた人や、病気で正常な血液を造ることができなくなってしまった人には、血液を補充（輸血）することが必要になります。

しかし、医療技術の発達した現在でも、血液と全く同じ作用をもつものを人工的に作ることはできません。医療に必要な血液は私たち自身が提供するほかに確保する方法がありません。

献血は、病気やけがで血液を必要としている人のために、見返りを求めず血液を提供することです。健康な人のボランティアによって、多くの人の命が救われているのです。

献血者が減少しています



現代の医療に欠くことのできない血液。
その血液の確保が徐々に難しくなっています。

原因の一つは若年献血者の減少。若年者数自体が少子化の影響で減少しているほか、若年人口に占める献血者の割合も減少していることから、若年者の献血離れが進んでいると言えます。

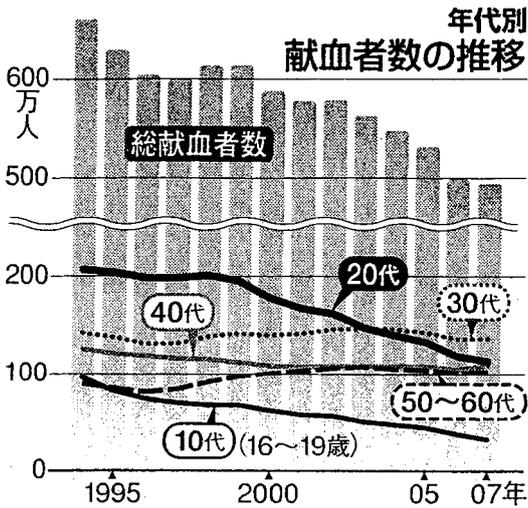
別の原因として、血液の安全対策の強化も挙げられます。血液にはウイルスなど病気の原因となるものが潜んでいる可能性があり、献血の前の問診でいくつかの条件に当てはまる方については、献血をご遠慮いただいています。感染症についての新たな事実が明らかになるにつれ、献血をご遠慮いただかなくてはならない人が増えてきているのです。

このままでは輸血を必要とする方々に血液が届けられないという危機的な状況となる可能性もあります。

献血はひとりひとりの思いやりによって支えられているシステム。皆さんのご協力をお願いします。

若者の献血呼び戻せ

年間献血者数が2006年に初めて500万人を割り、献血協力者は国民の4%弱と限られた現状のなか、特に若者の献血離れが進む。日本赤十字社は若い世代へのPRに力を入れるほか、夏期休暇などで献血者数が落ち込みがちな7月を「愛の血液助け合い運動」月間として協力を求めている。(野村由美子)



「親類が血液の病気で世話になったから、お返しに」。愛知県の県血液センターで献血を終えた女性(40代)は献血に来た理由をそう話す。回数はい百回を超える。「健康だからこそ続けられるし、すぐにできるボランティアだから」

実は全人口に対する献血者は二〇〇六年度で3・9%しかない。「協力してくれるのが同じ方ばかりなのが現状」と日本赤十字社の大田貴広さん。若者の献血関心度調査(厚生労働省)

日本赤十字社 PR活動に力

■献血方法別の主な採血基準

	成分献血		全血献血	
	血漿成分献血	血小板成分献血	200ミリリットル献血	400ミリリットル献血
1回献血量	300ミリリットル～600ミリリットル(体重別)	400ミリリットル以下	200ミリリットル	400ミリリットル
年齢	18～69歳※	18～54歳	16～69歳※	18～69歳※
体重	男性45キログラム以上・女性40キログラム以上		50キログラム以上	
最高血圧	90以上			

(ほかに血液比重、年間献血回数などの基準がある)
※65歳以上は60～64歳の間に献血経験がある人に限る

は、四人に一人が「献血について知らない」だった。輸血用血液製剤には有効期限が短いものもあり、過不足なく継続的な献血者数の確保は不可欠。しかし

春、夏、年末年始と学校や企業の休暇に合わせ、献血者数は落ち込む傾向がある。少子高齢化や、海外渡航歴による献血制限の対象者の増加も、献血者を減らす要因になっている。



大学生が「連盟」、自ら啓発

◆献血するには 各地の献血センターや駅前などの献血ルーム、献血バス(全血)表参照(のみ)を訪ねる。まずは問診票を記入し体調や注射、服薬歴、病歴、海外渡航歴などの質問に答える。医師の問診も受ける。「安全性検査だけでは検出できないウイルス混入などを問診を使って防ぐ」と大田さん。その後血

圧を測り、二ミリの血液を採り、成分量などを調べらる。成分献血は、抜いた血液から必要成分だけを抽出して、また残りを体内に戻すため、四十一～九十分の時間が掛かる。全血より体への負担は軽いという。献血後はジュースやお菓子で水分補給と休憩を取って終わる。

の献血者を全体の33%から40%へ上げる目標を立てた。

献血の呼びかけを裏面に載せた紙専用のコピー機を全国の大学生協に無料設置したり、自動車教習所で広報映像を流したりすることも計画する。期待されるのは若者自身による献血啓発運動だ。各県で大学の有志が学生献血連盟をつくり、血液センターが支援する。

深刻なのは若い世代の減少。輸血を受ける側は八割以上が五十歳以上で若者には関心が低くなりがち。以前盛んだった高校での集団献血は、四百ミリリットル(十八歳以上)需要が高まり、

〇〇年以降ほとんどなくなった。「十代で献血経験がある人はその後も抵抗なく協力してくれるのですが」と大田さんは残念がる。日本赤十字社は〇五年度から五年計画で十、二十代

16歳の誕生日 献血デビュー

高校生 内藤 大喜

(奈良市 16)

僕はずっと、この日を待っていました。献血ができるようになる16歳の誕生日です。

小さい頃から、母や祖母の献血についていきました。当時は注射が大嫌いだっただので、なぜ献血するのか不思議でした。しかし、ついでにいろいろ、自然に思うようになりました。自分の血液で

誰かが助かる。助けてあげられたら、と。

初めての献血ルームはうれしい半面、少し緊張もありました。しかし、看護師さんが優しく声をかけてくれて、リラックスできました。

おととしまでは高校に献血センターの方が来られて献血できたそうです。移動献血車が学校や役所、スーパーなどに定期的に来てくれたら、献血する人はもっと増えるのではないのでしょうか。

健康な体に感謝しつつ、これからもずっと献血していきたいと思います。献血デビューした16歳の誕生日。一生忘れられない大切な日になりました。

【平成19年度 行事等実績】

実施年月日	行事名称	開催場所	対象者	内容	実施機関
平成19年7月4日	献血運動推進全国大会	福井県	国民	献血運動を全国的な国民運動としてさらに盛り上げるために開催。 (昭和天皇記念献血推進賞、昭和天皇記念学術賞授与及び日本赤十字社有功章授与(皇太子殿下)、厚生労働大臣表彰状及び感謝状贈呈(厚生労働大臣)、福井県知事感謝状贈呈(福井県知事))	日本赤十字社共催
平成19年7月	愛の血液助け合い運動		国民	愛の血液助け合い運動月間の一環として、都道府県等(約36,000枚)へのポスターの配布。	日本赤十字社共催
平成19年11月～20年3月	献血普及啓発広告の雑誌掲載		10代～20代の若年層	「週刊少年ジャンプ」、「テレビジョン」、「non no」、「smart」の雑誌媒体への広告掲載。	
平成20年1月1日～2月29日	「はたちの献血」キャンペーン		国民	献血者が減少しがちな冬期において安全な血液製剤を安定的に確保するため、新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として広く国民各層に献血に関する理解と協力を求める運動の一環として、都道府県等(約37,300枚)へのポスターの配布。	日本赤十字社共催
平成20年2月11日	献血推進の街頭キャンペーン	東京・お台場	国民(特に若年層)	献血量が少なくなる春の時期にあわせ、若年層を中心とした国民の献血に対する意識の高揚と献血参加促進を図る目的で行う。 会場をけんけつちゃんパークに見立て、けんけつちゃん親子塗り絵コーナーや、けんけつちゃんとの記念撮影コーナーほか、「けんけつちゃん絵描き歌」の初披露やけんけつ体操、特別ゲストとして俳優の永井大さんをお招きしてのトークショーなど多様なステージを展開。	
平成20年3月	中学生用 血液及び献血についての正しい知識の普及啓発資料(ポスター)制作		中学生	中学生に対し、血液及び献血についての正しい知識の普及啓発を図れるようなポスターを中学校(約34,000枚)及び都道府県等(約2,000枚)へ配布。	
平成20年2月	献血普及アニメーション(DVD)制作(高校生向け)		高校生	近年、少子高齢化に伴い献血可能人口が減少する中、特に若年層献血者の減少が著しいことから将来の血液製剤の安定供給の確保を図ること目的とした、献血普及アニメーション(高校生向け)を制作し、全国の高校(約6,100校)及び各都道府県薬務主管課等(約200校)に配布。	
平成20年2月	献血についての副読本(HOP STEP JUMP(高校生用・教員用))制作		高校生	近年、少子高齢化に伴い献血可能人口が減少する中、特に若年層献血者の減少が著しいことから将来の血液製剤の安定供給の確保を図ること目的とした、献血に関する副読本(高校生用・教員用)を制作し、全国の高校生(約1,158,000部)及び教員(約123,000部)等に配布。	

【北海道】

北海道	H19.11.1～30	ティーンズドナー献血推進キャンペーン	道内一円	10歳代から20歳代の道民	近年、10歳代から20歳代の献血者が減少傾向にあることから、これらの年齢層に対する普及啓発を強化するため、血液センターと共催で若者を対象とした事業を実施した。	血液センター共催 ラジオコマーシャルの制作・放送: 20秒×50本 人気ラジオ番組とのタイアップ ポスターの作成: 1,000枚
	H19.7.23～25	愛の血液助け合い運動パネル展	道庁1階道政広報コーナー	地域住民	愛の血液助け合い運動月間の一環として「献血パネル展」を開催した。	血液センター共催
	H20.1.15～16	はたちの献血ポスター展	道庁1階道政広報コーナー	地域住民	はたちの献血キャンペーンの一環としてポスター展を開催した。	血液センター共催
	H19.10.1～5	献血推進タウン啓発	稚内市内	地域住民	北海道旭川赤十字血液センターの移動献血車を市内に巡回させ、稚内市立図書館において献血に関するパネル展を実施するとともに、献血推進に係る啓発資料等の配布し、街頭献血の呼びかけを実施した。	血液センター(旭川)共催 対象者数:約500名
	通年	広報	道内一円	道民	通年で報道機関や各市町村に対する広報資料の提供により献血推進の普及啓発を行った。	ラジオCM等:延べ21日間 北海道広報資料:通年
	H19.9.13	北海道社会貢献賞の表彰	かでの2・7 大ホール	献血推進功労者	献血の推進に組織を挙げて多大な功績があった団体や学校等を表彰した。	血液センター共催 表彰者数:10団体
北海道センター	平成19年4月～9月	サタデー・デーリング	北海道赤十字血液センター	札幌市小学生4年～6年生	札幌市交通局が実施している小学生高学年を対象としている、札幌市の施設を知り、郷土の知識を高めようとする企画されているスタンプラリー方式の事業に血液センターをスタンプポイント設置場所として参加し、若年層の献血啓蒙をおこなった。	期間中の来場者 2,834名
	平成19年7月	サマー献血キャンペーン	北海道センター、附属センター及び室蘭出張所	道民	全道の学生ボランティアグループが各地で自主的な企画で献血と推進・啓蒙活動を実施した。	
	平成19年12月	クリスマス献血キャンペーン	北海道センター、附属センター及び室蘭出張所	道民	全道の学生ボランティアグループが各地で自主的な企画で献血と推進・啓蒙活動を実施した。	
	平成19年8月	北海道学生献血推進協議会	北海道赤十字センター	道内学生献血推進ボランティアグループ	全道の学生ボランティアグループが北海道センターに集まり、キャンペーンの実施要綱の検討及び若年層献血の推進についての討議を行った。さらに、血漿分画センターを見学し、血漿分画製剤の知識を深めた。	参加者 20名
	平成20年1月	北海道学生献血推進協議会	北海道赤十字センター	道内学生献血推進ボランティアグループ	全道の学生ボランティアグループが北海道センターに集まり、機関紙の内容、キャンペーンの実施要綱の検討、若年層献血の推進や学内献血のあり方及びボランティア組織のあり方等を協議した。	参加者 39名
	平成19年10月～12月	第2回「いのちと献血俳句コンテスト」	道内一円	道民	若年層を中心に幅広い年代から、献血に関する俳句の公募を行い、「献血」を通して支えられる「生命」に意識を向けさせるとともに献血活動の意義理解・普及の機会を創出することを目的とする。	応募総数 3,184人 10,304句

【青森県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	主催者	内容	備考
青森県	H19・7～8	《全国》愛の血液助け合い運動	県内一円	県民	ラジオ・フリーペーパー・ポスター・電光掲示板にて献血思想の普及啓発を図った。	血液センター共催
	H19・8・10	献血感謝の集い	青森駅前ビルアウガ5階イベントホール	県民	「愛の血液助け合い運動」の一環として開催。大臣賞伝達・知事賞贈呈・日赤有功章伝達・輸血体験発表・ミニコンサート。県民の献血への理解を深めてもらう。	血液センター共催 参加者 約200名
	H19・8・10	学生サマー献血キャンペーン	青森駅前ビルアウガ 狭	県民	青森県学生献血推進連絡会が企画・運営。主に大学生ボランティアによる献血呼びかけ・ティッシュ配り・着ぐるみ・手作りブラカード・ドリンクサービス・献血バス装飾。	血液センター共催 参加学生:23名 献血受付者:56名
	H19・9・30	八戸健康まつり	八戸市公会堂	八戸市近隣住民	公会堂内に献血・臓器・骨髄・献眼のブースを設け、参加者に説明をしたり、パンフレットを配布。	八戸市主催
	H19・12・2, 9, 16	学生クリスマス献血キャンペーン	県内3箇所のショッピングセンター	県民	青森県学生献血推進連絡会が企画・運営。主に大学生・高校生ボランティアによる献血呼びかけ・ティッシュ配り・ドリンクサービス・着ぐるみとの記念撮影・手作り絵本、紙芝居・アンパンマンのエキシブ放映・ハンドベル・ドリンクサービス・くじ引き。	血液センター共催 参加学生:55名 献血受付者:229名
	H20・1～2	《全国》「はたちの献血キャンペーン」	県内一円	県民	ラジオ・フリーペーパー・ポスターにて献血思想の普及啓発を図った。	血液センター共催
	通年	400ml献血強化運動	県内一円	献血協力事業所	県献血推進協議会長(知事)で、各協力事業所へ、400ml献血の協力を文書にてお願いした。	県内献血協力事業所:1,500箇所

【岩手県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	主催者	内容	備考
岩手県	7月18日	知事・日赤県支部長感謝状贈呈式	エスポワールいわて	献血推進協力団体及び個人	献血の推進に積極的に協力し、他の模範となる団体及び個人に対し、知事及び日本赤十字社岩手県支部長連名の感謝状を贈呈。	血液センター共催 15団体に対して感謝状を贈呈
岩手県	12月8日 ～12月25日	クリスマス献血キャンペーン	献血ルーム「メルシー」 他県内12ヶ所	県民各層	冬季における血液の安定確保と、「全国学生クリスマスキャンペーン2007」とのタイアップによる若年層に献血の輪を広げることを目的に実施。	血液センター共催 期間中献血実績(人) 献血受付数 3,407 献血者数 2,707 200mL 398 400mL 1,573 成分 736
岩手県	2月2日 ～2月14日	バレンタイン献血キャンペーン	献血ルーム「メルシー」 他県内7ヶ所	県民各層	冬季における血液の安定確保と、400mL献血の推進を目的に実施。 キャッチフレーズ 「献血はみんなの愛と勇気！」	血液センター共催 期間中献血実績(人) 献血受付数 2,464 献血者数 1,973 200mL 279 400mL 1,080 成分 614

【宮城県】

宮城県	H19.6.1～H19.8.31 (募集) H19.11.15(表彰式) H20.1.1～H20.2.29 (ラジオCM放送)	愛の献血70字ストーリー募集 事業	・県内の高等学校、市町村、保健所及び献血ルーム・バス等に応募用紙及びポスターを配布 ・インターネット、郵便等を利用(募集) ・「献血者に感謝する集い」で表彰 ・入賞作品によるラジオCM放送実施	若年層を中心に幅広い年代	献血思想の普及と献血意識の向上を図るため、「献血」に関するショートストーリー一仕立にした作品を募集し、優秀作品を表彰するとともに、入賞作品によるラジオCM広報を行う。	県内の高等学校119校に応募を呼びかけるなどし、117通の応募があった。
-----	---	----------------------	---	--------------	---	--------------------------------------

【秋田県】

秋田県	通年	ふれあい献血キャンペーン	県内60カ所程度	若年層を中心に幅広い年代	地域の各種イベント又はショッピングセンター等で、地域住民に献血思想の啓発普及を図るとともに献血を実施する。	血液センター共催
-----	----	--------------	----------	--------------	---	----------

【山形県】

山形県	H19.7.19	献血功労団体知事感謝状贈呈式	山形県庁知事室	献血功労団体	献血運動の推進に積極的に協力し、その実績が顕著で他の模範となる団体の功に報いるため、知事感謝状の贈呈を行った。併せて厚生労働大臣表彰・感謝状贈呈の伝達を行った。	知事感謝状贈呈 12団体
	H20.1.1～3.31	ヤングブラッドキャンペーン	県内一円	若年層	若者を中心とした新規の成分献血協力者の増加を図ることを目的として、県赤十字血液センターと共催により、FMコミュニティ放送によるスポットCM、生番組でのパーソナリティーによる呼びかけ及び街頭放送等を実施。	血液センター共催

【福島県】

福島県	H19.7.3～H19.9.7 (募集) H19.12.19(表彰式)	ジュニア献血ポスターコンクール	・県内の中学校等の全生徒に応募用紙を配布(募集) ・福島県赤十字血液センター(表彰式)	中学1年生～3年生	次の献血を担う中学生から、献血に関するポスターの公募を行い、献血の必要性・重要性を啓発し、近い将来の献血者の増加を図るとともに、優秀作品を活用したポスターを作成配布することにより、広く一般の方々にも献血の必要性や重要性を呼びかける。	血液センター共催 57校から293点の応募があった。また、優秀作品を用いたポスターを作成し、中学校等に配布した。
	H19.7.31～H20.3.31	ふれあい伝言板事業「ショートメッセージ募集」	・県内で実施される献血会場及び病院等	・初めて献血した高校生等 ・輸血を受けた本人またはその家族	今後とも安定的に献血者を確保するたねには、若年層の献血が極めて重要であることから、「献血」や「輸血」に関するショートメッセージの募集をおとして、人間尊重と相互扶助の精神を基本理念とした献血意識の普及啓発を特に若年層に対して図るとともに、広く県民への献血への理解と協力を働きかけることを目的とする。	血液センター共催 献血した方から11点、輸血を受けた方やその家族から2点の応募があった。
	H19.12.23	ふれあい伝言板事業「絵本の読み聞かせ」	クリスマス献血キャンペーン福島市会場(ツイン広場)	献血協力者及びその家族(幼・小児等)	献血に協力していただいた親子連れや呼びかけに興味をもった子供たち(幼・小児)に絵本「ほくの血みんなの血」の読み聞かせを学生ボランティアに実施してもらい、幼・小児期における献血思想の普及・啓発を図る。	血液センター共催 献血待ちの親子、呼びかけに興味をもった親子等が参加した。

【茨城県】

茨城県	H19.11.1～H20.3.31	高校献血キャンペーン	献血ルーム、高等学校	高校生	・ポスターコンクール及びアンケートの実施	血液センター共催 高校生に献血への関心を持ってもらう
	H20.1.1～H20.2.29	はたちの献血キャンペーン	水戸献血ルーム	水戸周辺の大学生	・駅前北口へ移転した水戸献血ルームのため、ポケットティッシュの配布 ・毎週金曜日にネイルアートの実施	血液センター共催 水戸献血ルームの存在を大学生にPR

【栃木県】

都道府県名	開催年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	備考
栃木県	H19.6.9～H19.6.10	「県民の日」献血キャンペーン	渡瀬運動公園(藤岡町) 県民の日記念イベント「どうゆうのけんちょう?」会場内	県民	栃木県医薬品配置協会や栃木県学生献血推進連盟「かけはし」の協力を得て、県民に対し、献血の普及と啓発を行うとともに、移動採血車による献血を行うことにより、「献血思想」の意識の醸成を図ることを目的とする。	血液センター共催 来場者:約1,200名 献血者数:79名
	H19.7.26	献血功労者表彰式及び記念コンサート	とちぎ福祉プラザ	県民	平成19年度愛の血液助け合い運動の関連行事として、特に献血事業に積極的に協力し、広く県民の模範となるべき功労のあった団体及び個人に対して、献血推進協議会会長の感謝状を贈呈するとともに、県民を対象とした記念コンサートを開催し、献血の一層の推進を図ることを目的とする。	来場者:約150名

【群馬県】

都道府県名	開催年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	備考
群馬県	H19.7.29	第22回群馬県献血推進県民大会	県庁県民ホール	県内の献血功労者等	献血功労者等の表彰を実施。また、採血車を配車し、献血の協力を仰いだ。	血液センター共催 出席者:県内各地から200名
	H20.1.12及び H20.1.14	「はたちの献血」街頭キャンペーン	JR前橋駅、JR高崎駅周辺及び太田市市内ショッピングセンター地内	若年層を中心に幅広い世代	「はたちの献血」期間中、特に成人の日前後に街頭キャンペーンを実施することにより、若年層献血者を確保することを目的とする。	血液センター共催 啓発資材6,000個を通行人に配布
群馬県赤十字血液センター	H19.9.23	ザスバ草津「献血応援スペシャルマッチ」開催	群馬県立数島陸上競技場	若年層を中心に幅広い年代	日本プロサッカーリーグ公式戦(J2)「ザスバ草津vsベガルタ仙台」の試合を「献血応援スペシャルマッチ」と銘打って血液センター所長の「献血推進メッセージ」の発信・ハーフタイム抽選会 また、けんけつちゃんの着ぐるみによる場内観客への献血PR等実施。当日は献血車を配車し、採血も行われた。また、監督が献血に協力され、選手による献血の呼び込み(ポケットティッシュ)も行われた。ザスバ草津は今年5月に献血推進・啓蒙に必要な「献血PRポスター」の作成に協力、作成したポスターは献血団体・県内高等学校に配布する予定としている。	血液センター共催 当日の観客6,817人(地元テレビ局で取り上げられた。)

【埼玉県】

都道府県名	開催年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	備考
埼玉県	H19.7.24	愛の血液助け合いの集い	埼玉会館	県民、受賞者	医療に要するすべての血液製剤を献血により確保する確保する体制を確立することを目的として開催し、献血功労団体(者)の表彰等の諸行事を実施して、広く県民各層に献血思想の普及と献血への理解と協力を求めるものである。	血液センター共催
	H19.2.1～H19.5.9 (募集)	献血推進ポスターコンクール		県内設置の中学生生徒	若年層における献血の普及を図るため、献血推進用のポスターの原画を募集し、優秀作品を選考する。最優秀作品においてポスターを作成、献血の普及を図るとともに、広く県民に呼びかけを行うものとする。	血液センター共催 県内の中高生から471点の応募があった。

【千葉県】

H19.7.1	愛の血液助け合い運動	JR千葉駅東口前並びにクリスタル広場	県民	広く県民に献血への理解と協力を求めることを目的に、主催者出席による運動月間オープニングセレモニーの実施と「ポークウィーン千葉」によるうちの配布並びに献血へ呼び掛けを実施した。	血液センター共催 イベントとして、県警音楽隊による演奏
H19.8.1～8.31	千葉県公務員職場献血推進月間	県内各地	県民	献血協力者が減少する8月に、県内の公務員を対象に職場での献血の実施を呼びかけ、この時期に必要な血液の確保を図ることを目的とする。	血液センター共催
H.19.8.5	学生サマーキャンペーン	ららぽーとTOKYO-BAY	県民	夏場の血液不足を補う手段の一つとし、若年層への献血の理解と協力を促す事を目的とする。献血会場にて献血への呼び掛け等を実施。	血液センター共催 約20名～25名名の学生が呼び掛けをする。
H19.8.23	小学生献血学習会	千葉県千葉港赤十字血液センター 東京赤十字血液センター(視察先)	県内の小学校に在学する児童生徒とその保護者	若年層に対する献血啓発活動の一環として、普段献血に接することのない子供に幼少時から献血に対する興味、関心を持ってもらうことで、将来的な献血推進に資することを目的に実施。(スライドやビデオによる血液の働きや献血の意義等について説明、血液検査・製剤工程等施設見学等を実施。)	血液センター共催 大型バス2台利用した献血学習バスツアー 28組62名の親子が参加
H.19.9.13	ライオンズクラブ国際協会333-C地区献血推進研究会	ホテルスプリングス幕張	県内ライオンズクラブ	県内ライオンズクラブを対象に、日頃の献血奉仕活動に対する意見交換や、事例発表などをしてもらい今後の献血奉仕活動に生かす。	血液センター共催
H19.10.30	千葉県献血感謝のつどい	千葉県文化会館	献血功労者及び献血協力推進団体	県内において献血功労者及び献血協力推進団体に対して、表彰する。また、中・高校生から献血推進啓発ポスターを募集し、それぞれ知事賞1名・千葉県健康福祉部長賞2名・千葉県赤十字血液センター所長賞2名を選び、表彰した。	血液センター共催 県内の中学生135名、高校生30名から応募があった。
H.19.12.22 H.19.12.23	学生クリスマスキャンペーン	JR千葉駅東口前並びにクリスタル広場 ららぽーとTOKYO-BAY	県民	全国統一キャンペーンを12月に行うことにより、冬場の血液不足を補う手段の一つとし、若年層への献血の理解と協力を促す事を目的とする。献血会場にて献血への呼び掛け等を実施。	血液センター共催
H20.1.12	はたちの献血キャンペーン	フルルガーデン八千代	県民	特に献血協力者数が減少傾向となる冬期に、広く県民に対し献血への理解と協力を求めることを目的として、主催者出席によるオープニングセレモニーを実施。併せて、「千葉ロッテマリーンズ」選手とマスコットによるトークショー、サイン会、献血クイズ等のイベント並びに献血呼び掛け等を実施した。	血液センター共催 千葉ロッテマリーンズ 浅間敬太選手 末永仁志選手
H20.2.1～2.29	千葉県献血推進強調月間	県内各地	県民	国が主唱する「はたちの献血」キャンペーンの徹底を期するために、本県独自の運動として県内各地の献血会場において啓発資料の配布を実施した。	血液センター共催
H20.3.22	複数回献血クラブ	千葉市文化交流プラザ	県民	県民及び、献血協力者にお集まり頂き、「献血をする上での健康づくり」講演「糖尿病予防と健康体操」	血液センター共催

千葉県

【東京都】

都道府県名	実施年月日	事業の名称	開催場所	対象者	実施内容	実施結果
東京都	H19.10.1～H20.3.31	携帯メールクラブキャンペーン	東京都内各献血ルーム	ルーム来所献血者	携帯メールクラブ会員募集と、メールでの成分献血予約を推進するためにキャンペーンを実施。期間中、メールで成分献血予約した会員と、400mL献血のメール依頼に協力された会員に記念品を進呈する。	血液センター共催 通常月平均1,000名 キャンペーン期間月平均1,500名
	H19.11.4(日) 17(土) H20.3.15(土)	医学講演・赤十字救急法(AED)短期講習会 “サンクスドナーAED”	武蔵野赤十字病院 1回 東京都赤十字血液センター 2回	携帯メールクラブ会員	日頃の献血への協力に対するお礼として、携帯メールクラブの会員を対象とする医学講演と赤十字救急法講習会を開催し献血の重要性とAEDの使用法を含めた心肺蘇生法について理解・習得いただく。	血液センター共催 受講定員280名に対して1,100名以上の受講申込があった。
	カード配付期間 H19.9.1～H19.11.18 キャンペーン期間 ①H19.11.19～ H19.12.17 ②H20.1.2～ H20.1.31 ③H20.3.10～ H20.4.14	冬季献血ほっとキャンペーン	東京都内各献血ルーム	ルーム来所献血者	期間中に事前に配布したカードを持参の上献血に協力してくれた方に記念品を渡すことで、血液が不足する冬季(11月～4月上旬)の献血者確保を目的とする。	血液センター共催
	H20.2.1～H20.2.29 (配布)	携帯メールクラブ会員募集キャンペーン (もやっとスティック)	東京都内各献血ルーム	ルーム来所献血者	携帯メールクラブのPRと会員募集を目的としてキャンペーンを実施。期間中、献血された方に簡単なバズル「もやっとスティック」を配布。「もやっとスティック」を解答し、携帯メールクラブに会員登録された方は、次回献血時に記念品を進呈する。	血液センター共催 新規登録者数＝通常月平均600名 配布後の2月は1,721名
	H19.4.24日～ H20.4月末	400mL献血リビートキャンペーン	移動・出張採血現場・都内献血ルーム	400mL献血協力者	移動採血現場で400mL献血協力者にキャンペーンカードを配布し、次回そのカードを持参の上再度400mL献血に協力してくれた方に記念品をプレゼントする。年2回以上の複数回献血者の増加を目的とする。	血液センター共催
	H20.2.1日～3月31日	チャレンジ成分キャンペーン	東京都内献血ルーム (全血ルームを除く)	ルーム来所献血者	都内献血ルームで全血献血協力者にキャンペーンカードを配布し、次回そのカードを持参の上成分献血に協力してくれた方に記念品をプレゼントする。全血献血協力者に成分献血の協力も呼びかけることで、一人当たりの献血回数の増加を目的とする。	血液センター共催
	H20.2.1日～3月31日	成分1・2・3献血キャンペーン	東京都内献血ルーム (全血ルームを除く)	ルーム来所献血者	都内献血ルームでキャンペーンカードを配布し、成分献血協力ごとに1回スタンプを押し、3回押しされた方に記念品をプレゼントする。定期的に成分献血にご協力をいただくことを目的とする。	血液センター共催
	H19.8.7～H19.8.8	献血おもしろゼミナール	東京都赤十字血液センター (日本赤十字社辰巳ビル)	小学3年生以上の児童及び保護者	若年層への献血啓発事業として実施。小学生を対象にスライド学習及びバクネルクイズ、検査・製材・供給部門の所内見学等を実施し、将来の献血者育成及び献血思想の普及につなげることを目的とする。	血液センター共催 二日間計4回の開催で、合計56名が参加。好評により、その後も学校単位等で受け入れを実施。20年度以降も継続して実施予定。

【神奈川県】

神奈川県	12月1日	神奈川県献血推進功労者表彰式	横浜市教育会館	献血推進功労者及び献血の絵ポスター展入賞者	献血の推進に功績のある団体及び個人に対して表彰を行う。	血液センター共催
	10~2月	献血の絵ポスター展	横浜マリタイムミュージアム他県内赤十字病院	県内在住・在学の小中学生	献血可能年齢に達しない小中学生が献血に関心を寄せる契機となるよう、献血に関する絵画を募集する。	血液センター共催
	8月6日~10日 12月26日	献血ボランティアスクール	県内3箇所の採血会場及びその周辺	県内在学の高校生	献血に関する座学や献血ルーム・バスの見学、採血現場での呼び掛けや接遇などのボランティア体験を通して、高校生が献血についてより深く理解することにより、自発的なボランティア活動の契機とすることを目的とする。	血液センター共催 参加者から、将来、献血や献血に関するボランティア活動について積極的に参加したいという感想が得られた。また、参加者を対象に12月により深い内容でスクールを開催した。
神奈川県内赤十字血液センター	10月17日	ボラフェスタ IN KANAGAWA	日本丸メモリアルパーク	県内ボランティア団体	ボランティア団体同士の交流を通じて、その輪を広げるとともに、ボランティア意識の醸成を図ることを目的とする。また、献血をボランティアとしての認識を広めることで、献血意識向上への波及を期待するもの。	血液センター共催 イベント内で実施するラジオの公開生放送に県知事が出演し、献血の現状や重要性などをリスナーに訴えた。

【新潟県】

新潟県	平成20年3月8日	新潟県輸血フォーラム	新潟大学医歯学総合病院	輸血医療関係者	輸血療法を適正に行う上での諸問題等についての理解を深め、もって血液製剤の使用のより一層の適正化を図る。 (内容) 合同輸血療法委員会、研究発表、講演会	血液センター共催 適正使用への理解と協力をお願いした。
	通年	献血普及講演会	高等学校	高校生	将来の献血を支える若年層へ献血知識の普及啓発を図る。	血液センター共催 7校で実施。講演会后、献血呼びかけ活動に参加した高校生もいるなど、普及啓発が図られた。
	平成19年9月7日	献血功労者表彰式	新潟県自治会館	献血運動推進団体	長年にわたり献血に協力いただいている団体等を表彰した。	血液センター共催 今後も継続的な協力が期待できる。

【富山県】

都道府県名	実施年月日	行事の名称	開催場所等	対象者	内容	備考
富山県	H19.5.11、5.24	教育現場への働きかけ	県教育記念館ほか	県内全高校長、県内学校(小・中・高)の保健主事	献血事業の啓発普及について協力を働きかけた	
	H19.7・8、H20.1・2	ショッピングセンターでの懸垂幕掲示 <新規>	富山駅前のショッピングセンター	一般県民	富山駅前の商業施設を活用し、献血啓発用の懸垂幕を掲示し、献血思想の普及を行った。	
	H19.7・22	サマー献血キャンペーン	ショッピングセンター	一般県民	夏場の血液不足解消のため、学生ボランティア主催によるキャンペーンを実施。	血液センター共催
	H19.7～10、H20.1・2	献血啓発CMの上映	TV、シネマコンプレックスで映画の本編前にCMを上映するもの	一般県民	献血推進CMを作成し、TVや映画館で上映することにより献血の普及啓発を行った。	
	H19.7.20～9.2(募集期間) H19.10.20(表彰式)	献血推進用ポスター募集・表彰	県内小・中学生を対象に献血推進ポスターを募集し、優秀作品を表彰するもの 表彰式：富山電気ビル	県内小・中学生	未来の献血を担う児童生徒に対し献血への理解を深めた。	血液センター共催
	H19.6～H20.3	保健師による健康相談<新規>	献血協力企業など(献血車：県内5地区)	献血申込者のうち、比重不足などで献血できなかった方	比重不足による献血できなかった者に対し、保健師による健康相談を実施し、健康な献血者の確保に努める	血液センター共催
	H19.7	コンビニとの連携<新規>	県内の某コンビニエンスストアー105店舗に掲示	一般県民	愛の献血すけあいポスターを県内の某コンビニエンスストアー105店舗に掲示	血液センター共催
	H19.12・9	全国学生クリスマス献血キャンペーン	ショッピングセンター	一般県民	年末年始の血液確保のため、学生ボランティア主催によるキャンペーンを実施	血液センター共催
	H20.1.4、1.10、1.11	はたちの献血キャンペーン	県名各地ショッピングセンター、駅など	献血啓発資料等の配布	冬期における血液不足の解消のため、街頭キャンペーンを実施し、広く県民に理解と協力を求めた	血液センター共催
	H20.1.12(土)放映	献血推進広報「献血に行こう」番組制作 <新規>	地元テレビ局(県の広報番組「こんにちは富山県です」)9:30～9:45	一般県民(特に新成人)	献血者の減少、若者の献血離れなどが深刻なため輸血用血液の不足、献血による血液がどのように活用されているかをレポートし、献血に対する関心を高めることが目的である	
	H20.1・14	「はたちの献血キャンペーン」イベント	ショッピングセンター	一般県民	ラジオ公開生放送による献血啓発活動及びLOVEメール会員募集イベントを実施。	血液センター共催
	H20.1.26～2.4 H20.2.8～2.18	献血ポスター優秀作品の展示	県内ショッピングセンター	一般県民	小中学生献血推進ポスターコンクールの優秀作品展示を行い、献血思想の普及を図る	

【石川県】

実施年度	実施時期	実施内容	実施場所	対象者	実施概要	備考
石川県	H19.7.1～H19.10.31 (募集) H19.12.18(表彰式) H19.12.12～H20.1.9 (展示会)	献血ポスターコンクール入賞者 表彰式	県庁特別会議室	県内中学生	県内中学生を対象に、献血に関するポスターの公募を行い、献血できる可能年齢に達した際にも、献血に対する抵抗が少なくなることを期待する。	血液センター共催 24校から、233点の応募があった。
	H19.7.1～H19.8.31	バス車内広告	県内全域路線バス	県民	全国的に実施している7月の愛の献血助け合い運動に併せて、県民への普及啓発を目的とする	
	H19.9.29 H19.10.20 H19.10.28	大学学園祭会場での献血キャンペーンの実施	金沢医科大学 金沢学院大学 県立看護大学	大学祭参加者	若年層に対する普及啓発と、異動採決者を設置し、献血の体験を実施する。	血液センター共催
	各市町成人式	新成人対象啓発	成人式会場	県内全新成人	各市町における成人式出席者に啓発資料等を配布	

【福井県】

実施年度	実施時期	実施内容	実施場所	対象者	実施概要	備考
福井県	H19.7.1	愛の血液助け合い運動街頭 キャンペーン	県内ショッピングセンター	県民	・献血と併せ啓発資料の配布による献血思想の普及啓発。	血液センター共催
	H19.7.4	第43回献血運動推進全国大会	サンドーム福井	全国の献血運動推進に携わる関係者 約2,400名	・皇太子殿下の御臨席を仰ぎ、第1部の献血功労者への表彰式、体験発表等に加え、第2部のアトラクションとして越前万歳、合唄、吹奏楽などを行った。	血液センター共催
	H19.7.29/8.5	中部ブロック統一学生サマー献 血キャンペーン2007	県内ショッピングセンター	県民	・福井県学生献血推進連盟による街頭キャンペーンを実施し、特に若年層に対する献血思想の普及啓発。	血液センター主催
	H19.12.22/12.23	全国統一学生クリスマス献血 キャンペーン2007	県内ショッピングセンター	県民	・福井県学生献血推進連盟による街頭キャンペーンを実施し、特に若年層に対する献血思想の普及啓発。	血液センター主催
	H19.12.23～ H20.5.30	冬から春まで献血キャンペーン	血液センター	県民	・慢性的に血液が不足する冬季、春先にキャンペーンを展開し、母体での血小板成分献血者を安定的に確保する。	血液センター主催
	H20.1.26/1.27/1.29 /2.1/2.2/2.3	臨時採血所の設置	県内ショッピングセンター	県民	・若年層を含め安定した集客力のある大型ショッピングセンターに臨時採血所を開設し、冬季における血液の安定供給を図る。	血液センター共催 6日間で817人の方に献血いただいた。
	H20.1.26	「はたちの献血」街頭キャン ペーン	県内ショッピングセンター	県民	・献血と併せ啓発資料の配布による献血思想の普及啓発。	血液センター共催

【山梨県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所等	対象	概要	備考
山梨県	H19.7.14	愛の血液助け合い運動街頭キャンペーン	甲府駅前等3箇所	県民	愛の血液助け合い運動の期間に合わせて街頭キャンペーンを実施。ポケットティッシュ等配布。献血啓発CM放映。テレビ等によるPR。	血液センター共催
	H19.9.5	第25回献血運動推進大会	ベルクラシック甲府	県民	献血功績者表彰(厚生労働大臣表彰・感謝状、県表彰、日赤表彰)。講演。参加者は一般県民、献血功績者、市町村職員、関係団体等。	血液センター共催
	H20.1.13	はたちの献血キャンペーン、街頭キャンペーン	甲府駅前等3箇所	新成人を中心とした若年層	はたちの献血キャンペーンの期間に合わせて街頭キャンペーンを実施。絆割膏等配布。甲府駅ビルに懸垂幕掲示。テレビ等によるPR。	血液センター共催
	H19.7~H20.3	献血地域キャンペーン	各保健所管内(5箇所)	県民	各保健所管内において献血モデル市町村を選定し献血啓発活動を実施。	血液センター共催

【長野県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	備考
長野県	H19.10.26~10.28 H20.1.12~1.14 H20.2.15~2.17	献血ルーム体験運動	駒ヶ根市、佐久市、飯田市の市内大型店	県民	血液センターのない地域の大型店に随時の献血ルームを設置し、献血の啓発を行うとともに献血への参加を募る。	献血者数:193人 268人 189人
	H19.7.16、H19.7.21 H19.12.1、H19.12.2	学生ボランティアキャンペーン	長野市、飯田市の大型店前	若年層を中心に幅広い年代	献血者が減少する夏期・冬期に大型店前に移動採血車を配車し、学生ボランティアの協力でサマーキャンペーン・クリスマスキャンペーンを実施し、献血者を確保する。	血液センター主催 献血者数:162人 124人
	H19.5.3、H19.10.6、 H19.12.8 H19.5.26、H19.9.22、 H20.1.26 H19.8.18、H19.10.6、 H20.1.5 H19.5.5、H20.1.4、 H20.3.16	定例献血スポットキャンペーン	長野市、上田市、岡谷市、山形村の大型店前	県民	血液センター、献血ルーム以外に定期的に献血が行える場所を設定するため、長野市、上田市、岡谷市、山形村の大型店に定期的に移動採血車を配車し、定例スポットとして定着させることで献血者を確保する。	血液センター共催 献血者数:727人
	H19.10~H20.3	“けんけつ”啓発ラジオマンシリーズ放送	全県	県民	献血者が減少する寒い季節に、通勤者や若い世代のラジオの視聴率が高い時間帯の番組内で、平日の毎日、同じ時間に、献血を呼びかける放送をすることで、番組の視聴者に“献血”という言葉を目にする機会を増やし、献血協力者の底上げを図る。	放送回数:130回
	H19.7 H20.1	ラジオスポット放送	全県	県民	県内民放ラジオ2局で献血スポット広告を放送し、献血者を確保する。	放送回数:24回

【岐阜県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	備考
岐阜県	H19.10.24	献血感謝の集い	未来会館 長良川ホール	一般、関係者	献血推進功労者表彰 高校生献血推進提案入賞者表彰	血液センター共催 400名が参加した。
	H19.6.18~H19.8.31	「高校生の献血推進提案」募集	表彰は、献血感謝の集いで実施	高校生(県内)	若者が献血の理解を深め、献血への協力を促す提案を募集した。 大賞1、入選2、佳作5を選定。	37名の応募があった。

【静岡県】

静岡県	H19.7.27	平成19年度静岡県献血推進大会	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」	県民	「愛の血液助け合い運動」の一環として開催する。大会では、献血功労者に対して知事褒賞等の贈呈を行うとともに、「薬の不思議」と題して特別講演を行った。	血液センター共催 参加者 約380人
-----	----------	-----------------	---------------------------	----	---	-----------------------

【愛知県】

愛知県	H19.7.1～H20.3.31	複数回献血キャンペーン	全献血会場	県民	キャンペーン期間中に県内の全献血ルーム、血液センター及び献血会場において400mL献血をして、「けんけつちゃんお約束カード」をもらった方がもう一度400mL献血をすると先着10,000名に「ハローキティオリジナルシャープペン」を贈呈した。	血液センター共催 400mL複数回献血者数の確保
	H.19.12.22	学生クリスマス献血キャンペーン2007	栄広場(名古屋市中区錦)	若年層を中心に幅広い年代	愛知県学生献血連盟所属の学生ボランティアと協力して、学生有志やタレントによるステージライブを実施し、若年層への献血協力を呼びかけた。	血液センター共催 若年層への献血協力の呼びかけ
	H19.8.15、16、21	血液おもしろゼミナール～夏休み親子教室～	愛知県赤十字血液センター(瀬戸市)(8月15・16日) 愛知県豊橋赤十字血液センター(豊橋市)(8月21日)	小学生とその保護者	児童期からの献血教育の推進を目的として、小学生とその保護者を対象とした親子献血教室を開催した。	血液センター共催 児童期からの献血教育の推進

【三重県】

三重県	H19.8.8	献血功労者表彰式	津都ホテル(津市)	厚生労働大臣表彰状・感謝状贈呈者、知事感謝状、日赤感謝状、同支部感謝状、三重県赤十字血液センター感謝状等受賞対象者	平成19年度の表彰を県、日赤三重県支部、血液センターと合同で実施。	血液センター共催 報道機関に情報提供した。
-----	---------	----------	-----------	---	-----------------------------------	--------------------------

【滋賀県】

滋賀県	平成18年7月20日	平成19年度滋賀県愛の献血感謝のつどい	栗東芸術文化会館さくら	受賞者・日赤奉仕団等献血啓発協力者	献血功労者に対する表彰状等伝達・贈呈式およびESPERERANZA/えすべらんごによる記念講演	血液センター共催
	平成19年8月5日	「サマー献血」	東近江保健所八幡支所	若年層・周辺住民	学生献血ボランティアによる献血啓発活動	血液センター共催 78人の献血者
	平成19年9月9日	湖北長浜1000人献血運動	長浜勤労者総合福祉センター臨湖	周辺住民		血液センター共催 178人の献血者
	平成19年12月23日	「クリスマス献血キャンペーン」	JR近江八幡駅北口南口	若年層・周辺住民	学生献血ボランティアによる献血啓発活動	血液センター共催 177人の献血者
	平成19年12月24日	「クリスマス献血キャンペーン」	西武大津ショッピングセンター	若年層・周辺住民	学生献血ボランティアによる献血啓発活動	血液センター共催 75人の献血者
	平成20年1月	「はたちの献血」キャンペーン	県内各地	成人式を迎えた者	市町を通じ、献血啓発資料の配布	

【京都府】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
京都府	7月	愛の血液助け合い運動	府内一円	府民	血液製剤の国内自給を目指し、啓発を実施	血液センター主催
	7月8日	夏の学生献血キャンペーン	京都駅前	府民	学生献血推進協議会が主催し、献血の呼びかけを実施	血液センター主催 献血人数:176人
	10月18日	献血推進協力団体等表彰式	京都府公館	献血推進協力者等被表彰者	献血推進協力団体・個人の表彰	団体表彰:12団体、個人表彰:3人
	12月9日	クリスマスキャンペーン	京都駅前	府民	学生献血推進協議会が主催し、クリスマスにちなんだ衣装等により、献血の呼びかけ等啓発を実施	血液センター主催 献血人数:208人
	2月9日	はたちの献血キャンペーン	府内一円、京都駅前	府民	新成人を中心に献血の啓発を実施、又学生献血推進協議会主催による、献血の呼びかけの実施	血液センター主催 献血人数:101人

【大阪府】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
大阪府	H19.7.1～H19.9.30 (募集) H19.12.4(特賞発表)	熱血献血キャンペーン 複数回 献血推進のためのチャッチコピー(標語)大募集	府内の高等学校及び市町村献血推進協議会等に応募を依頼。インターネット、郵便等を利用(募集) 森ノ宮ビロティホール(特賞をラジオCM化して発表)	若年層を中心に幅広い年代	若年層を中心に幅広い年代から、特に今回の募集は、複数回献血の必要性を認識いただくとともに若者が献血に関心を持てるような内容の標語を募集した。	血液センター共催 夏休みの課題のような形で学校のクラス単位での応募もあり、3ヶ月という短期間に府内外から2880件の応募があった。
大阪府及び日本赤十字社大阪支部	H19.12.4	大阪府献血感謝のつどい	森ノ宮ビロティホール	献血功労者及び一般府民	献血功労者表彰及び講演会の二部形式で実施。あわせて、募集事業の特賞作品をラジオCM化したものを発表。	血液センター共催

【兵庫県】

兵庫県	H19年8月	夏季献血推進強調月間	県下全域	県民、団体(事業所等)	広報媒体の活用等により献血思想の普及啓発を図るとともに、地域献血会や職場献血の積極的な開催を呼びかける。	血液センター共催 87団体(事業所等)に文書で献血協力を依頼
	H19年11月5日	兵庫県献血功労感謝のつどい	県公館	県民、受賞者等	永年にわたり献血運動等に功績のあった団体等を顕彰し、関係者の意識の高揚を図るとともに、血液事業についての県民の理解を深めるため、輸血医療に関する体験発表を行う。	血液センター共催 約280名参加
	H19年12月～ 20年1月	年末年始献血推進強調期間	県下全域	県民、団体(事業所等)	広報媒体の活用等により献血思想の普及啓発を図るとともに、地域献血会や職場献血の積極的な開催を呼びかける。	血液センター共催 133団体(事業所等)に文書で献血協力を依頼
兵庫県赤十字 血液センター	H19年11月	18歳の献血キャンペーン	県立高校154校	県立高校3年生約3万人	若年層献血推進のため、県、教育委員会の協力を得て、県立高校全3年生にキャンペーンチラシ(内容…アンパンマンのエキス、ルーム地図、献血基準など)を配付し、献血ルームや献血バスでの参加を呼びかけた。	18歳の献血者数は平成18年度11月～2月809人、19年度は933人。
	H19年4月～	プラス1献血クラブ-HYOGO-	献血ルーム・移動会場	メール会員	献血ルームや献血バス、DMなどで会員を募集。19年6月～20年2月で危機的在庫時など3回メール送付。 ※国庫補助事業	会員数20年2月末現在で2380人(昨年同月比+1000人)。 献血応諾数は300人。
	H19年11月～20年3月	栄養相談の実施	ミント神戸献血ルーム・姫路管内移動会場	献血参加者など	兵庫県栄養士会とタイアップし、毎週月曜日ミントルームで実施。また、3月姫路献血バスで3回実施。 ※国庫補助事業	20年3月末現在で実施、51人参加。
	H19年5月～20年3月	ネイルケア・ハンドマッサージ	ミント神戸献血ルーム	献血参加者(女性限定)	ヒューマンアカデミー神戸校学生による。水・木曜日。 ※国庫補助事業	20年2月末現在で、73回実施、736人参加。
	H19年9月～20年3月	スポーツマッサージ	ミント神戸献血ルーム	献血者	ヒューマンアカデミー神戸校学生による。金曜日。 ※国庫補助事業	20年2月末現在で、24回実施、359人参加。
	H19年8月18日、19日	『24時間テレビ』献血キャンペーン	アマドゥ(尼崎ショッピングセンター)	24時間テレビ来場者、買い物客	24時間テレビ放送日に合わせ高校生ボランティアとキャンペーンした。	2日間で受付153人－採血115人(400率85%)
	平成19年4月～7月	『オリックス』献血キャンペーン	スカイマークスタジアム	野球観戦者	オリックス球団とタイアップし、球場内でもオーロラビジョンなどで献血呼びかけいただいた。若年層中心。	3日間で受付283人－採血198人(400率85%)
	H19年8月2日、8月3日	血液センター親子見学会	血液センター	小学生の児童及び父兄	若年層(主として小学生)への献血思想普及活動。 ※国庫補助事業	2日間で児童・父兄の86人が参加。

【奈良県】

実施年度	実施年月日	行事の名称	開催場所	対象者	趣意	備考
奈良県	H19.4.1~H19.6.15 (募集) H19.7.31(表彰式)	献血運動啓発ポスター募集	県内へ広報し、募集 ・県庁にて献血功績者と併せて表彰	県内在住・在学・在勤の方 (年齢制限なし)	広く県民に献血についての理解を深め、献血運動推進のPRに役立てるために実施。	応募 135 作品 うち、特選1点・入選4点について表彰
	H19.7.1~H19.8.31	愛の血液助け合い運動 (街頭献血キャンペーン)	県内市町村	県民	各市町村の街頭において献血啓発運動を実施し、献血思想の普及啓発並びに血液が不足する夏期において安全な血液製剤を安定的に供給するため、献血者の確保を図る。	血液センター共催 県内市町村 28 ヶ所で実施 (献血者数：1,521 人)
	H19.7.31	献血功績者表彰式	県庁	献血に功績のあった者を表彰	献血に対する県民の理解を深め、献血運動を推進するため、献血に功績のあった者を表彰する。	①厚生労働大臣表彰の伝達：4団体 ②献血推進協議会会長(知事)表彰：12団体 ③「献血運動啓発ポスター」入賞者表彰：5名
	①H19.8.2~H19.8.8 ②H19.8.20~H19.9.2	献血運動啓発ポスター入賞作品の展示	県内大型スーパー2店舗内 ①ダイヤモンドシティ・アルル ②奈良ファミリー	「献血運動啓発ポスター」入賞作品(19点)	幅広い年齢層の優秀作品を展示することにより、広く県民各層に献血運動をPRし献血に対する理解と協力を求めることとする。	「献血運動啓発ポスター」特選1点・入選4点・佳作14点を展示
	H20.1.1~H20.2.29	はたちの献血キャンペーン (街頭献血キャンペーン)	県内市町村	県民	各市町村の街頭において献血啓発運動を実施し、新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として広く県民各層に献血に関する理解と協力を求め、献血者が減少しがちな冬期における安全な血液製剤の安定的供給のため、献血者の確保を図る。	血液センター共催 県内市町村 19 ヶ所で実施 (献血者数：950 人)

【和歌山県】

実施年度	実施年月日	行事の名称	開催場所	対象者	趣意	備考
和歌山県	平成19年7月1日 ~31日	愛の血液助け合い運動キャンペーン	県内各地	県民	人の多く集まる場所において街頭啓発を実施することにより、献血に対する理解を深めてもらうことを目的とする。	血液センター共催
	平成19年7月24日	献血運動功労者に対する表彰及び感謝状の贈呈	県庁知事室	献血運動功労者	献血運動功労者に対する厚生労働大臣表彰状、感謝状及び県知事感謝状を贈呈し顕彰することにより、献血運動の継続的な発展を目的とする。	・大臣表彰2団体 ・大臣感謝状5団体 ・知事感謝状7団体
	平成19年7月22日	海の日イベントにおける献血	海の日イベント会場(和歌山港周辺)	若年層を中心に幅広い年代	若者や家族連れが多く集まるイベント会場において啓発及び献血を実施することにより、献血に対する理解を深めてもらうことを目的とする。	血液センター主催
	平成20年1月1日 ~2月29日	はたちの献血キャンペーン	県内各地	新成人	成人式会場において、啓発パンフレット等の配布を行うことにより、新成人に献血に対する理解を深めてもらうことを目的とする。	
	平成19年5月17日 ~9月11日(募集) 平成19年11月19日 (表彰式)	献血推進ポスターコンクール	和歌山県自治会館	献血推進ポスターコンクール入賞者	県内の高校生を対象にポスターコンクールを実施し、参加型啓発として献血に対する理解を深めてもらうことを目的とする。	・応募総数119点 ・最優秀賞1点 ・優秀賞3点 ・入選10点
	平成20年3月15日 ~28日	春の献血キャンペーン	県内全域(15秒テレビスポット放送、45回)	若年層を中心とした一般県民	日本赤十字社が実施する春の献血キャンペーンに併せて若年層を中心に、献血への協力を呼びかけることにより、献血に対する理解を深めてもらうことを目的とする。	
	平成19年4月1日 ~平成20年3月31日	高校文化祭等での啓発	県内各高校	高校生、教員	高校文化祭等において、献血車を配置し、啓発リーフレット、啓発物品配布により、献血及び啓発を行った。	血液センター主催

【鳥取県】

実施年度	実施期間	実施内容	実施場所	実施対象	実施概要	主催
鳥取県	H19.6.30 H19.7.7	街頭献血キャンペーン	ジャスコ鳥取北店 倉吉パープルタウン 米子駅前サテール	高校生	県下3地区で高校生ボランティアの参加・協力を得て、研修会や街頭での呼びかけを行うなど、血液センターが行う街頭献血を体験させた。	血液センター共催
	H19.7～8	献血推奨班編成による献血推進	県下一円	各企業・団体	保健所、市町村及び血液センターで献血推進推奨班を編成し、各企業・団体等への巡回訪問を行い、献血への理解と協力を要請するとともに新規事業所の開拓を行った。	血液センター共催
	H19.8.2～5	親子見学会	血液センター等	小中学生の親子	夏休みを利用して、施設・献血車の施設見学を行うとともに研修会を行い、献血への理解を深めていただいた。また、初日には、講演やクイズなどのイベントを行った。	血液センター主催

【島根県】

実施年度	実施期間	実施内容	実施場所	実施対象	実施概要	主催
島根県	H19.7.1～H19.9.30	高校生ふれあいキャンペーン	・県内の高校に生徒全員への配布を依頼。 ・郵便、FAX、メールで利用 ・全問正解者への図書券の送呈	県内の高校生全員	県内高校生全員を対象として、献血に関するクイズ付きのリーフレットを配布し、クイズへの応募、献血に関する質問等を募集。	血液センター共催 ・クイズへの応募:22名 ・全問正解者:11名 ・3名からの質問に対する回答を行い、ホームページでも公開

【岡山県】

都道府県名	行年	行事の名称	開催場所	主催者	概要	備考
岡山県	H19.4.1～5.31 H19.4.28(オープニングイベント)	ももたろう献血キャンペーン	イトーヨーカドー岡山店他	若年層を中心とした県民	県学生献血推進連盟主催により若年層を中心とした県民に春における不足する時期の血液確保のため、献血を呼びかけた。	血液センター共催 献血者数151人であった。
	H19.5.2	鉢花贈呈式	岡山県赤十字血液センター	寄贈者: 岡山県インドアグリーン協会	ゴールデンウィーク中の血液の安定的確保を目的として、みどりの日に合わせ、同協会より鉢花を寄贈いただき、当日、いただいた鉢花を献血者にプレゼントした。	血液センター主催 岡山県インドアグリーン協会より鉢花250鉢をいただき、血液センターと献血ルームにおいてプレゼントした。
	H19.6.14	世界献血者デー	血液センター・献血ルーム・移動献血会場	献血者	6月14日の世界献血者デーを記念して、当日の全献血会場において、献血者の方に「けんけつちゃん携帯マスコット」をプレゼントした。	血液センター主催 献血者の方にたいへん好評であった。
	H19.6.29(オープニングイベント) H19.7.1～H19.8.31(月間)	岡山県愛の血液助け合い運動	岡山県赤十字血液センター	県民	全国的には7月の1か月間の実施とされている「愛の血液助け合い運動」を7月から8月の2か月間とし、夏場の血液不足の解消に努めた。また、オープニングイベントとしてキャラバン隊を編成し、献血協力団体を訪問し、協力を呼びかけた。	血液センター共催 「夏場の献血者確保」という目標のもと、県・市町村・血液センター等関係機関が一丸となって推進しており、その成果は十分認められる。
	H19.7.7	七夕献血キャンペーン	イトーヨーカドー岡山店	若年層を中心とした県民	県学生献血推進連盟主催により若年層を中心とした県民に夏における不足する時期の血液確保のため、献血を呼びかけた。	血液センター主催 献血者数97人であった。
	H19.8.1～H19.8.3 H19.8.7～H19.8.10	小学生親子血液センター見学体験教室	岡山県赤十字血液センター	小学校5・6年生 保護者	将来の献血者として、輸血医療を支えていただける小学生に、親子で献血や血液について、知識や興味をもってもらいたいと親しんでいただくことで献血思想の普及を図った。	血液センター主催 県内432校の小学校に参加を呼びかけ、139校・681名(保護者を含む)の参加があった。
	H19.8.9	献血感謝のつどい	ピュアリティまきび	厚生労働大臣表彰状等受賞者他	献血に功勞のあった団体・個人に対して、厚生労働大臣表彰・感謝状の伝達並びに知事・日本赤十字社県支部長及び血液センター所長感謝状を贈呈するとともに、記念講演を行った。	血液センター共催 表彰及び感謝状を伝達、贈呈し、敬意を表するとともに、記念講演を開催し、献血に対する理解を深めた。
	H19.8.28～H19.9.18	血液事業海外研修生受入事業	岡山県赤十字血液センター	1名 (ベトナム赤十字社)	アジア諸国の血液事業向上に資するため、ベトナム赤十字社の研修生の受入れをおこなった。	血液センター主催 来岡した研修生はベトナム赤十字社の医師で、主に「献血者の募集」について、岡山センターで研修をおこなった。
	H19.10.29～ H19.10.30	献血推進団体との意見交換会	メルパルク岡山	中国・四国地区ライオンズクラブ 中国・四国地区献血推進担当職員	献血推進団体の中心的存在であるライオンズクラブの各リーダーの方々を招き、献血へのより一層の理解と協力を要請し、相互の連携強化を図るため、血液センター職員と意見交換をおこなった。	血液センター主催 各県の献血状況説明及び3グループに分かれて献血の推進についての意見交換を行い、より一層の献血への理解と協力をお願いした。
	H19.12.1～12.25	クリスマス献血キャンペーン	イオンモール倉敷他	若年層を中心とした県民	県学生献血推進連盟主催により若年層を中心とした県民に冬における不足する時期の血液確保のため、献血を呼びかけた。	血液センター共催 献血者数232人であった。
	H20.1.9	はたちの献血キャンペーンオープニングイベント「1日所長」委嘱式	岡山県赤十字血液センター	県民各層	献血者が減少しがちな冬期において安全な血液製剤を安定的に確保するため、新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として、広く県民各層に対し献血思想の普及を図った。	血液センター共催 岡山県学生献血推進連盟の学生代表者に1日所長を任命するための「1日所長」委嘱式を行い、施設内視察後、報道機関及び献血会場を訪問して、献血への理解と協力を訴えた。
	H20.2.3	サンクスドナーAED(AED講習会)	岡山赤十字病院	複数回献血会員	日頃、積極的に献血に協力していただいているの方々を対象に、救命救急の講義と心臓蘇生法の講習をおこない、赤十字運動への参加推進を図った。	血液センター共催 複数回献血会員33名の参加があり、皆熱心に講習を受けた。
	H20.3.16	いのちと献血俳句コンテスト	岡山県赤十字血液センター(授賞式)	若年層を中心に幅広い年代	若年層を中心に幅広い年代から献血に関する俳句の公募を行い、「献血」を通して支えられる「生命」に意識を向けさせるとともに献血活動の意義理解・普及の機会を創出することを目的とした。	血液センター主催 岡山県においては、小中高校及び一般に応募を呼びかけ約7,584句の応募があった。その内、選出された5作品に対し、岡山センター所長賞を、3団体に対し同団体賞を贈呈した。

【広島県】

広島県	H19.4.1～6.18 (募集)	献血推進ポスター募集	県内全域	中・高校生	応募総数274名(中学生251名、高校生23名) 最優秀賞1点、優秀賞5点、佳作10点選出	血液センター共催 若年層への献血啓発
	H19.6.12～ H20.3.14	献血に行こうキャンペーン共催	献血ルーム	全県民	5回のイベント時期を設定し、テーマにちなんだ記念品を贈呈するなど献血者の獲得を図る	血液センター主催 複数回献血促進
	H19.7.1～7.31	愛の血液助け合い運動	県内全域	全県民	懸垂幕掲示、ポスター配布、広報紙、ホームページ等による広報活動実施、献血ルーム前で献血呼びかけ(7/1)	血液センター共催 計画的な年間献血者の確保
	H.19.7.27	広島県献血推進大会	鯉城会館	献血功労者 行政・医療関係者	献血功労団体等表彰 献血推進ポスター募集優秀作品表彰	同上
	H19.7.31～8.2	血液センター見学会 「なるほど献血教室」共催	血液センター	小学生・保護者	スライド学習、血液センター見学、献血クイズ 参加者230名(こども138名、保護者92名)	血液センター共催 若年者及び保護者啓発
	H.19.9.22	広島県輸血懇話会後援	KKR広島	医療関係者	血液製剤の適正使用の推進についての講演会 出席者110名	血液センター共催 適正使用の促進
	H19.10.	献血推進担当者会議	保健環境センター	市町担当者 県保健所担当者	移動献血計画の策定	血液センター共催 同左
	H20.1.1～2.29	はたちの献血キャンペーン	県内全域	全県民	ポスター配布・掲示、チラシ作成及び成人式で配布 県広報紙による広報 街頭献血(1/8)	血液センター共催 若年層への献血啓発
	H20.1.1～1.31	広島県血液製剤使用状況調査	県内全域	血液製剤の使用量が多い上位100医療機関		血液センター共催 適正使用の促進

【山口県】

実施団体	実施年月日	行事の名称	開催場所	対象者	内容	結果
山口県	H19.7.7～H19.8.25	平成19年度「愛の血液助け合い運動」 強調月間献血イベント	14か所(デパート等街頭献血場所)	県民	高校生等のボランティアの協力を得て、献血イベントを実施することにより、献血への参加を呼びかける。	血液センター共催 ・受付者1501人 ・献血者1086人
	H19.5.30～H19.9.20 H19.12.20(表彰式)	献血ポスター・作文募集	・学校を通じて中学生・高校生に募集 ・県庁(表彰式)	県内学校の中学生・高校生	これからの献血を担う中学生・高校生に対する献血思想の醸成を目的として実施。	・ポスター 168点 ・作文 120点
	H20.1.31	輸血用法委員会合同会議	県庁会議室	県内の血液製剤使用の100医療機関(医師・検査技師等)	血液製剤の適正使用推進のため開催(第8回)	
	H20.1.19～H20.2.23	はたちの献血キャンペーン	10か所(デパート等街頭献血場所)	若者を中心とした県民	高校生等のボランティアの協力を得て、献血イベントを実施することにより、献血への参加を呼びかける。	血液センター共催 ・受付者972人 ・献血者714人
	H20.3.2～H20.3.31	高校卒業記念献血キャンペーン	山口県赤十字血液センター	山口市内の高校3年生	高校卒業を契機として献血を体験してもらうため、期間中献血ルームでの献血を学校を通して呼びかける。	血液センター共催 高校3年生の多くは400mL献血が可能となる。
山口県赤十字血液センター	H19.7.23～8.3	小学生親子血液センター見学体験教室	山口県赤十字血液センター	県内の小学生(5・6年生)び保護者	血液の大切さを学び、将来の献血の推進につなげる	・参加者約200人
	通年	小学生等を対象とした「献血出前講座」	県内の小学校	県内の小学生(5・6年生)	血液の大切さを学び、将来の献血の推進につなげる	平成19年度開催(参加者約500人) 20校訪問
	H19.7.7～7.8	七夕献血	2カ所(街頭献血)	県民	山口県学生献血推進協議会ボランティアの協力を得て、献血への参加を呼びかける。	・献血協力者 160名
	H19.12.16～12.25	Red Xmas 2007	山口県赤十字血液センター	県民、FMラジオ視聴者	FMラジオの番組と連携し、献血キャンペーンを展開	マスメディアを活用した啓発
	H19.12.1～12.25	全国学生クリスマス献血キャンペーン2007	3か所(デパート等街頭献血場所)	若者を中心とした県民	学生献血ボランティアが、若年層への献血への協力を呼びかけ	・受付者271人 ・献血者215人
	H20.2.10～H20.2.14	バレンタイン献血	県内	県民	献血者へバレンタインチョコのプレゼントをし献血を呼びかけ	・固定施設:献血協力者 330名 ・移動採血車:献血協力者 607名
	H20.3.1～H20.3.7	ひな祭り献血キャンペーン	山口県赤十字血液センター・献血ルーム	県民	献血者へ雛あられをプレゼントし献血を呼びかけ	・固定施設:献血協力者 350名

【徳島県】

実施団体	実施年月日	行事の名称	開催場所	対象者	内容	結果
徳島県	平成19年7月13日～9月14日(募集期間)	献血推進ポスター募集	県内の中学校、高等学校に募集要項を送付	中学生・高校生	献血推進ポスター作成を通じて、献血に関心を持っていただくと同時に、献血に関する正しい知識を得る機会とする。	血液センター共催 77枚の応募作品から、選考会で11枚を選定、献血ルームで人気投票を実施し、最優秀作品を啓発用冊子の表紙に活用した。
	平成19年7月1～平成20年3月31日	献血メイト20's推進事業 メモリアル献血キャンペーン	血液センター、献血ルーム	10代～20代の若年層	若年層を対象に、献血思想の普及啓発、複数回献血者の確保、血液不足傾向が見られる時期の血液確保対策を図ることを目的とし、友人、知人と誘い合わせて、400mL献血、若しくは成分献血に協力していただいた、18歳から29歳までの方に記念品を贈呈する。	血液センター共催
	平成19年12月2日	徳島ヴォルティスファン感謝祭	徳島県鳴門市(鳴門・大塚スポーツパーク アミノハビュールホール前広場)	若年層を中心に幅広い世代	地元サッカーチーム「徳島ヴォルティス」のファン感謝祭の会場において、献血啓発パネルを展示し、来場者に献血を呼びかけた。また、献血に協力していただいた方には、徳島ヴォルティスと連携し制作したオリジナルグッズを記念品として贈呈した。	血液センター共催

【香川県】

香川県	H19.7.1	1日血液センター所長	高松市商店街	県民	地元女子バレーボールクラブチームの選手に1日所長を委嘱し、献血キャンペーン及び街頭献血を実施。警察音楽隊の演奏や啓発品の配布等を行い、献血への協力呼びかけをした。	血液センター共催
	H19.7.21 H20.1.26	高校生街頭献血キャンペーン	ゆめタウン高松 宇多津ビブレ	高校生	高校生献血ボランティアに献血に関する学習をもらった後、店内で献血への協力呼びかけを実施。あわせて街頭献血も行った。	血液センター共催 高校生を対象に献血ボランティアを募集したところ、延べ12校57名の応募があった。
	H19.8.2	香川県献血運動推進大会	県社会福祉総合センター	県民	厚生労働大臣表彰状・感謝状等の伝達を行った。また、ボランティアに関する特別講演も実施。	血液センター共催
	H19.8.6~8.8	小学生親子血液センター見学教室(新規)	香川県赤十字血液センター	小学4~6年生親子	献血に関する学習会を開催し、献血の大切さを学んでもらった。また、血液センター施設内の見学も実施。	血液センター主催 スライドやビデオを使って説明をすることでより具体的に献血のことを知ってもらうことができた。
	H19.8.18	学生献血推進協議会主催キャンペーン	ゆめタウン高松	学生献血推進協議会	夏場の血液不足に対応するため、大学生献血ボランティアが街頭キャンペーンを実施。	血液センター主催 広く県民のみならず、主催者側である学生への献血意識の啓発もできた。
	H19.10~H19.12	献血出前講座(新規)	各小学校	小学4~6年生	希望のあった小学校に血液センター職員が出向き、学校の授業の一環として、献血に関する基礎知識の啓発を実施。	血液センター共催 スライドやビデオを使って説明をすることでより具体的に献血のことを知ってもらうことができた。
	H19.12.22	クリスマス献血キャンペーン	ゆめタウン高松	学生献血推進協議会	冬場の血液不足に対応するため、大学生献血ボランティアが街頭キャンペーンを実施。献血協力者へはクリスマスケーキをプレゼントした。	血液センター主催 広く県民のみならず、主催者側である学生への献血意識の啓発もできた。
	H20.1.27	献血PR(bjリーグ)	高松市総合体育館	県民	若年層が多く集まるプロバスケットボールbjリーグの試合会場において、献血グッズやリーフレットを配布。また献血クイズやぐるぐるパット&ドリブルシュートなど来場者が参加できるイベントを実施。	血液センター共催 集客力の大きい会場でイベントを行うことで、若い人たちを中心に、多くの人に献血のPRができた。

【愛媛県】

愛媛県	H19.7.30~H19.8.3	小学生親子血液センター見学体験教室	愛媛県赤十字血液センター 大街道献血ルーム 松山赤十字病院	小学校4年~6年生の児童及びその保護者	若年層への献血普及の一環として、「愛の血液助け合い運動」期間中である夏季において、献血年齢に満たない小学生を対象にして、思想普及を図るため開催し、血液のはたらきや血液センターの役割を理解していただき、献血に興味をもっていただくとともに、小学生の夏休みの宿題(自由研究等)を応援することを目的とする。	血液センター共催 県内361校の小学校へポスター・チラシを配布し、参加者を募集した。 5日間で児童103人、保護者74人の合計177人が参加した。
	H19.8.31	平成19年度えひめ献血感謝のつどい	いよてつ高島屋9階ローズホール	県民	全国で展開している「愛の血液助け合い運動」の一環として、県民に献血を身近に感じてもらうと共に健康な人からの善意の献血の必要性について理解を求め、県民総ぐるみ献血運動の一層の推進を図ることを目的とする。	血液センター主催 献血功労者に対する表彰式と若年者を対象としたイベント等を行い、約150名の県民が参加した。

【高知県】

都道府県名	開催年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	結果
高知県	平成19年7月1日 (日)	愛の血液助け合い運動1月間 キャンペーン	高知県高知市 中央公園北口	県民	献血ルームのPRと成分献血・400mL献血への協力を呼びかけるため、中央公園においてキャンペーンを実施し、夏場の血液の確保と啓発に努めた。	血液センター共催 受付者数:87人 200mL: 8人 400mL:50人 不 適 :29人
	平成19年9月2日 (土)	中国四国学生統一献血キャン ペーン	高知県高知市 中央公園北口	県民	学生献血推進協議会が中心となって、キャンペーンを行い、広く一般の方々に献血に協力していただき、夏場の血液確保に努めた。	血液センター主催、県後援 受付者数:62人 200mL:12人 400mL:30人 不 適 :20人
	平成19年12月23 日(日)、24日(月)	全国学生クリスマス献血キャン ペーン'07	高知県高知市 中央公園北口	県民	12月に学生主体のキャンペーンを行い、冬場の血液確保と、若年層への献血への理解・協力を促すとともに活動の輪を広げることを目標に行った。	血液センター主催、県後援 23日 受付者数:116人 200mL: 29人 400mL: 51人 不 適 : 36人 24日 受付者数:108人 200mL:30人 400mL:44人 不 適 :34人
	平成20年1月14日 (月)	第32回「はたちの献血」キャン ペーン	高知県高知市泰 イオンモール高知南コート	県民	1月14日(成人の日)に、赤十字奉仕団や学生ボランティアの協力をいただき、イオンモール高知でキャンペーンを実施し、知事を先頭に若年層を中心とする県民の皆様に献血への協力を呼びかけた。	血液センター共催 受付者数:141人 200mL:31人 400mL:83人 不 適 :27人
	平成20年2月11日 (月)	バレンタイン献血キャンペーン	高知県高知市 中央公園北口	県民	学生ボランティア主催でのキャンペーンを行い、400mL献血への協力を努めた。	血液センター主催 受付者数:68人 200mL:17人 400mL:31人 不 適 :20人

【福岡県】

福岡県	19.6.16～6.17	福岡・北九州学生リーダー研修会	八女郡黒木町	福岡学生献血推進協議会 北九州学生献血推進連盟	新入生を迎え、献血への理解を深めるとともに両団体学生の交流と今後の献血推進活動への意見交換を行った。	血液センター主催
	19.8.30 19.8.31	北九州学生献血推進連盟サマーキャンペーン 博多献血夏祭り	ショッピングモールなかま JR博多駅前中央広場	若年層を中心に幅広い年代	学生ボランティアが企画し、夏期血液確保のためイベント、コンサート等を催し、献血協力の呼びかけを行った。	血液センター主催
	19.11.6	LC337国際協会複合地区献血委員連絡会議	福岡市	LC337複合地区三献委員、九州プロック血液センター担当職員	LC献血委員の方々は1年任期で交代されるので、血液事業への理解を深めたいと、今後、さらなるご支援をお願いした。	血液センター主催
	19.12.22 19.12.23	全国学生クリスマス献血キャンペーン	JR博多駅前中央広場 ショッピングモールなかま	若年層を中心に幅広い年代	学生ボランティアが企画し、年末・年始血液確保のため、イベント、コンサート等を催し、献血協力の呼びかけを行った。	血液センター主催
	20.1.14	はたちの献血	JR博多駅前中央広場 ザ・モール小倉	福岡学生献血推進協議会 北九州学生献血推進連盟	学生ボランティアが企画し、冬期血液確保のためイベント、コンサート等を催し、献血協力の呼びかけを行った。	血液センター主催
	20.3.8	複数回献血「感謝のつどい」	福岡ドーム	固定施設の献血協力者	複数回献血者の増加と献血協力者の底辺拡大を目的として、元福岡ソフトバンクホークス球団選手によるスポーツと健康についての講演会。	血液センター主催
	20.3.6～7	サウナ健康の日街頭献血	JR博多駅前中央広場	一般	サウナ・スパ協会加盟店による献血協力と献血の呼びかけ。	血液センター主催

【佐賀県】

佐賀県	平成19年7月29日	献血夏祭り	佐賀県赤十字 血液センター	一般	・献血推進協力団体に対する感謝状等の伝達・贈呈 厚生労働大臣表彰状(2団体) 厚生労働大臣感謝状(4団体) 佐賀県知事感謝状(4団体) ・地元ミュージシャンによるライブステージ ・献血トーク、クイズ、模擬店 等	血液センター共催 887人の来場者と96人の献血者
	平成19年7月15日	サマー献血キャンペーン	ゆめタウン佐賀(佐賀市)	一般	学生献血推進委員会によるショッピングタウンでの献血 献血者にジュース、お菓子、風船配布	血液センター主催 一般の買い物客86人の献血
	平成19年12月15日、16日	クリスマス献血キャンペーン	ゆめタウン佐賀(佐賀市)	一般	学生献血推進委員会によるショッピングタウンでの献血 ミュージシャンによるライブ、J2サガン鳥栖選手の握手会、献血クイズ	血液センター主催
	平成20年2月17日	はたちの献血キャンペーンイベント	ゆめタウン佐賀(佐賀市)	一般	・地元ミュージシャンによるライブステージ、キャンペーンソング発表 ・地元ダンスチームによるダンスパフォーマンス ・献血クイズ、啓発品の配布等 ・献血バスでの献血	血液センター共催 一般の買い物客93名の献血
	平成20年1月5日～2月29日	はたちの献血映画館CM放送	イオンシネマ佐賀大和(佐賀市)	一般	けんけつちゃんを用いた献血啓発CM	血液センター共催
	平成20年2月2日～2月29日	はたちの献血映画館CM放送	109シネマ佐賀(佐賀市)	一般	若者向けの献血啓発CM	血液センター共催

【長崎県】

開催年月日	行事の名称	開催場所	開催対象	内容	備考
H19.5.29～H19.9.14 (応募)	献血推進ポスター募集	県内の中学校及び高校に応募を依頼	中学生、高校生	県内の中学生及び高校生を対象に、献血推進に関するポスターの公募を行い、輸血医療を支える献血の必要性についての意識高揚を図り、血液製剤の供給に支障をきたさない社会を目指すことを目的とする。	応募者数63点
H19.7.1	サマーイベント2007	ジャスコ大塔店	若者を中心とした幅広い年代	移動献血車において献血を実施し、献血者の増加を促す。	血液センター主催
H19.7.15	サマーイベント「あつかばってん献血ば2007」	献血ルーム「はまのまち」	若年層を中心に幅広い年代	夏場の献血者確保対策として学生ボランティアを中心に街頭での献血の呼びかけ等を行う。	血液センター主催
H19.7.7	血液センター「一日所長」行事	ホテルサンルート佐世保、四ヶ町アーケード	若年層を中心に幅広い年代	7月の「愛の血液助け合い運動」月間行事として、2名の方に血液センター「一日所長」を委嘱し、献血の呼びかけ等を行う。	血液センター主催
H19.7.27	第7回長崎県献血感謝の集い	ウエルシティ長崎	厚生労働大臣表彰・感謝状受賞者、長崎県知事感謝状受賞者、日本赤十字社長崎県支部長感謝状を贈呈する。併せて厚生労働大臣表彰・感謝状、日本赤十字社有功章等の伝達式も行う。また、式典終了後、昼食会を開催する。	献血運動の推進に長年にわたり積極的に協力していただいた県民の方々に対し、これまでの献血推進功労に感謝の意を表すため、長崎県知事感謝状・日本赤十字社長崎県支部長感謝状を贈呈する。併せて厚生労働大臣表彰・感謝状、日本赤十字社有功章等の伝達式も行う。また、式典終了後、昼食会を開催する。	血液センター共催 参加者140名
H19.12.8～9(長崎市) H19.12.16(佐世保市)	全国クリスマス献血キャンペーン	献血ルーム「はまのまち」 献血ルーム「西海」	若年層を中心に幅広い年代	全国的なキャンペーンのイベントとして実施している。若年層の献血の輪を広げること及び冬季における血液の安定確保を目的とし、献血の普及啓発を行う。	血液センター主催
H20.1.13	成人の日献血	献血ルーム「西海」	若年層を中心に幅広い年代	新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心に、400mL献血及び成分献血の推進を図ることを目的とて、献血の呼びかけを行う。	血液センター主催
H19.1.10	はたちの献血キャンペーン	長崎大学文教町キャンパス	大学生中心	「はたちの献血キャンペーン」期間中のイベントとして、長崎大学に移動献血車を配車し、二十歳を迎える大学生を中心に献血の実施とPRを行なう。	血液センター主催
H19.1.11	はたちの献血キャンペーン	長崎国際大学キャンパス	大学生中心	「はたちの献血キャンペーン」期間中のイベントとして、長崎大学に移動献血車を配車し、二十歳を迎える大学生を中心に献血の実施とPRを行なう。	血液センター主催
H20.2.28～3.1	冬の献血者確保対策キャンペーン 「1,000人献血 寒かばってん献血ば'08」	長崎市、佐世保市を中心とした県下各地	若年層を中心に幅広い年代	3日間のキャンペーン期間中、1,000人の献血者の確保を目標に献血バス及び固定施設において献血への協力を呼びかける。	血液センター共催 キャンペーン期間(3日間)の献血者数1,046名。

長崎県

【熊本県】

実施年度	実施時期	実施内容	実施場所	実施対象	実施概要	主催者
熊本県	年間(6か所×1週間)	移動献血ギャラリー	繁華街、大型店舗等の展示スペース	一般	パネル等を展示して400mL献血や成分献血の重要性並びに血液に関する正しい知識を県民各層に広げることを目的とする	
	愛の血液助け合い運動月間、はたちの献血キャンペーン期間	大型ビジョン啓発	繁華街の大型ビジョン	一般	愛の血液助け合い運動月間やはたちの献血キャンペーン期間を中心に啓発フィルムを上映して、若者を中心とした県民各層に広く啓発することを目的とする。	
	H19.12.2	学生クリスマス街頭キャンペーン	献血ルーム前	一般	学生献血推進ボランティアにより、全国的な献血キャンペーンであることを周知し、献血協力を呼びかける。	血液センター主催
	H20.1.14	はたちの献血街頭キャンペーン	献血ルーム前	一般	学生献血推進ボランティアにより、全国的な献血キャンペーンであることを周知し、献血協力を呼びかける。	血液センター主催

【大分県】

実施年度	実施時期	実施内容	実施場所	実施対象	実施概要	主催者
大分県	H19.6.21	保健所・市町村献血担当主管課長会議	大分県赤十字血液センター	保健所・市町村献血担当課長等	前年度の献血状況及び当該年度の献血目標を説明し、市町村の取り組みを促す。	血液センター共催
	H19.7.2	「愛の血液助け合い運動」街頭広報	大分市トキハデパート前	県民	献血協力の街頭広報を行い、献血のPRのうちわはポケットティッシュを配布した。	血液センター共催 32名参加
	H19.6.30~H19.7.1	大分県学生献血サポーター	九石ドーム、中津市、大分市	県民	学生献血推進協議会のメンバーと各献血会場を訪問し、献血の呼びかけを行った。また、J1リーグの地元チームの試合前に、ピッチで観客に献血のPRを行った。	血液センター主催 学推協のメンバー外36名参加
	H19.7.24	厚生労働大臣表彰状・感謝状伝達式	県庁	受賞団体	献血功労団体の大臣表彰状・感謝状受賞団体へ、福祉保健部長から伝達した。	表彰状:1団体、感謝状:7団体
	H19.11.3	献血功労団体知事表彰	県庁	受賞団体	文化の日に、献血功労団体を知事表彰した。	1団体
	H19.12.16	学生クリスマス献血キャンペーン「ふれあい広場」	大分県赤十字血液センター	県民	若年層を中心に献血の啓発活動を行った。会場には、屋台等多くの模擬店を出店した。	血液センター主催
	H20.1.13	はたちの献血キャンペーン街頭広報	大分市成人式会場	新成人	成人式会場で、新成人に献血のPRを行った。	血液センター主催
	H20.2.21	献血功労団体知事感謝状贈呈式	トキハ会館	受賞団体	献血功労団体に知事感謝状を贈呈した。	10団体
	H20.2.21	大分県献血推進協議会	トキハ会館	委員	今年度血液事業実績の報告と来年度の献血目標等について協議した。	
	H20.2.8 H20.2.19 H20.2.26 H20.3.17	血液製剤使用適正化説明会	別府市 宇佐市 竹田市 豊後高田市	医療機関	血液製剤の適正使用について医療機関に説明会を開催した。	150の医療機関が参加

【宮崎県】

実施所名	実施年月日	事業の名称	開催場所	実施主体	概要	備考
宮崎県 宮崎県赤十字 血液センター	毎月第2水曜日	成分献血推進強化事業	地元新聞に掲載	県民	毎月、新聞紙上に献血の情報及び成分献血に協力のあった企業名等を掲載し、献血協力啓発を行う	血液センター共催
	H19.7.18、H19.7.23	献血推進リーダー育成事業	県内保健所2ヶ所	企業、団体の献血推進リーダー	各企業や団体に献血推進リーダーを設置して、研修会を開催し、企業や団体の組織的献血を促進する	血液センター共催
宮崎県	H19.6月から7月	「愛の血液助け合い運動」ラジオ・テレビ等広報活動	・県政テレビ番組 「おしえてみやざき」 ・公報みやざき ・地元新聞に掲載「元気のススメ」	県民	「愛の血液助け合い運動」の周知と献血推進の啓発を行う。	
宮崎県赤十字 血液センター	H19.8.8～9	夏休み親子献血教室	宮崎県赤十字血液センター	小学生とその保護者	小学生とその保護者が、献血の必要性、重要性及び血液に関する正しい知識を学ぶことによって、家庭や小学校での献血への理解を深め、献血思想の普及啓発に寄与する。	血液センター主催
宮崎県 宮崎県赤十字 血液センター	H19.10.22	みやざき愛の献血運動推進大会	JAアズムホール	受賞団体	献血に功勞のあった団体の大臣表彰及び感謝状、県知事感謝状、日本赤十字社有功章及び宮崎県支部長感謝状の伝達及び贈呈を行う。	血液センター共催
宮崎県学生献血推進協議会 献血ルーム高校 生ボランティアグループ	H19.12.22～24	クリスマス献血キャンペーンイベント	県内主要ショッピングセンター(3ヶ所) 献血ルーム「たちばな」	若年層を中心に幅広い年代	献血者が減少しがちな冬期において安全な血液製剤を安定的に確保するため、学生ボランティアがクリスマスの献血協力を街頭で呼びかける。	血液センター主催
宮崎県	H20.1.4～H20.2.21	はたちの献血キャンペーン コマーシャルスポット放送	地元テレビ(2社)でCM放映	県民	地元出身2人組歌手「Spirit」及び知事出演による、若年層を対象とした献血推進のテレビCMを制作し、放映する。	
	H20.1.10、H20.1.18	「はたちの献血」ラジオ・テレビ等広報活動	地元テレビ番組 「アツパレ! Miyazaki」 「ママ感情報 PAKUPAKU」	県民	「はたちの献血」の周知と献血推進の啓発を行う。	
宮崎県 日本赤十字社 宮崎県支部 宮崎県赤十字 血液センター	H20.1.13	はたちの献血キャンペーンイベント	県内主要ショッピングセンター	若年層を中心に幅広い年代	地元出身2人組歌手「Spirit」をゲストに迎え、ミニコンサートを行い、はたちの献血協力を店内で呼びかける。	血液センター共催
宮崎県赤十字 血液センター	H20.2.9～11	バレンタイン献血キャンペーンイベント	献血ルーム「たちばな」	若年層を中心に幅広い年代	学生ボランティアがバレンタインデーに献血協力を街頭で呼びかける。	血液センター主催
	H20.3.27	新献血ルーム「カーリー」OPENイベント	献血ルーム「カーリー」	県民	開所式典の前で地元出身2人組歌手「Spirit」をゲストに迎え、ミニコンサート及び献血協力を呼びかける。	血液センター主催

【鹿児島県】

平成19年4月13日	第23回ハート献血	枕崎市5会場	一般県民	(社)枕崎青年会議所が主体となって、枕崎市内5ヶ所の献血会場において、市民に献血協力を呼びかけ、献血を実施した。	血液センター主催 献血者の確保
平成19年7月7日	「愛の血液助け合い運動」街頭キャンペーン	鹿児島市天文館周辺	一般県民	かごしま親善大使、学生、ボランティア団体など約60人が参加して、通行人に対し、ティッシュやリーフレットを配り、献血への協力を呼びかけた。	血液センター共催 献血者の確保
平成19年7月28日	鹿児島県建設業青年部会「夏の献血キャンペーン」	鹿児島中央駅	一般県民	鹿児島県建設業青年部会が全国建設青年の日である7月28日に、市民に献血協力を呼びかけるとともに、集団献血を実施した。	血液センター主催 献血者の確保
平成19年8月3日～4日	献血おもしろセミナー	鹿児島県赤十字血液センター	小学生(高学年)及び保護者	将来の献血者確保のため、小学生(高学年)に対し、献血の重要性や血液センターの役割について理解を深めてもらうことを目的に、施設見学等を行った。	血液センター主催 献血者の確保
平成19年8月8日～9日	アロハ献血	指宿市内24会場	一般県民	指宿市内の24事業所において、献血協力を呼びかけ、献血を実施した。	血液センター主催 献血者の確保
平成19年8月20～23日	第4回九州ブロック学生献血推進サミット in 鹿児島	サンエール鹿児島	学生を中心に一般県民	各県の学生献血推進協議会の代表者が集まり、学生間での情報交換、交流を行い、各県における献血推進リーダーの育成と献血運動への参加を促した。	血液センター主催 若年層に対する献血思想の普及啓発及び若年層の献血者の確保
平成19年8月24日	平成19年度献血功労者表彰式	県庁	献血功労団体・個人	献血運動の推進に積極的に協力し、他の模範となる功績を示した事業所、学校その他の団体及び個人に対し、厚生労働大臣表彰状及び感謝状の伝達並びに鹿児島県知事感謝状の贈呈を行った。	事業所献血のより一層の推進と複数回献血の組織化
平成19年12月23日	全国学生クリスマス献血キャンペーン2007	鹿児島中央駅 始良サティ	一般県民	冬場の血液不足を補い、若年層へ献血に対する理解・協力を促すとともに活動の輪を広げることを目的に、献血協力をよびかけるキャンペーンを実施した。	血液センター主催 献血者の確保
平成20年1月2日～3日	初詣献血	鹿児島市照国神社	一般県民	年末年始における、血液の安定的確保のため、初詣参拝者に対し献血協力を呼びかけ、献血を実施した。	血液センター主催 献血者の確保
平成20年1月13日	「はたちの献血」キャンペーン	鹿児島市天文館周辺	一般県民	新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として広く県民に献血協力を呼びかけ、献血を実施した。	血液センター共催 献血者の確保
平成20年2月9日	第18回鹿児島輸血医療懇話会	かごしま県民交流センター	輸血医療関係者	輸血医療のあり方についての講演や事例発表等を通じて、血液製剤の適正使用を図った。	血液センター主催 血液製剤の適正使用
平成20年2月10日	バレンタイン献血	鹿児島市 オブシアmisumi	一般県民	鹿児島県学生献血推進協議会が自主的に企画し、若年層を中心に広く県民に献血協力を呼びかけ、献血を実施した。	血液センター主催 献血者の確保

鹿児島県

【沖縄県】

実施年度	実施年月日	行事の名称	開催場所	対象者	概要	備考
沖縄県・日赤	H19.7.12	愛の血液助け合い運動 街頭キャンペーン	県内	県民	広く県民に献血への理解と協力を求めるため。	血液センター共催 全国一斉に行われるキャンペーンの盛り上がりと周知を図る。
	H19.7.30	厚生労働大臣、県知事表彰、日赤支部長及び県血液センター所長表彰の伝達式	県内(県庁内)	受賞団体及び個人	愛の血液助け合い運動の一環として、厚生大臣表彰及び県知事表彰等の伝達式を行う。	血液センター共催 全国一斉に行われるキャンペーンの盛り上がりと周知を図る。
	H19.7.25～26	市町村献血キャラバンの実施	沖縄県本島(北部地区)	県民	愛の血液助け合い運動の一環として、献血キャラバン隊を編成し、市町村へ知事メッセージの伝達を行い、県民への献血思想の普及を図る。	血液センター共催 全国一斉に行われるキャンペーンの盛り上がりと周知を図る。
	H20.1.8	はたちの献血 街頭キャンペーン	県内	県民(若年層を中心)	新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として広く県民各層に献血に関する理解と協力を求めるとともに、特に成分献血、400mL献血の継続的な推進を図るため。	血液センター共催 全国一斉に行われるキャンペーンの盛り上がりと周知を図る。
沖縄県	H20.1.14	成人式での知事メッセージ伝達	県内成人式会場	二十歳の成人	「はたちの献血」の一環として、新たに成人式を迎える若者へ成人式会場において、知事メッセージを送る	新たに成人を迎えるにあたり、献血への理解と協力を求める。
	H20.1.5、6	献血思想普及のためのテレビ番組放映	県内	県民	県の広報番組で、献血普及番組を制作し、放映(15分)	血液センター共催 もっとも有効な広報媒体を活用し、献血への理解を求める。
沖縄県・日赤	H20.2.14	血液センター1日所長	県内(献血ルーム前)	県民(若年層を中心)	二十歳の学生が1日献血所長に就任し、献血のPR活動を行う。	血液センター主催 全国一斉に行われるキャンペーンの盛り上がりと周知を図る。
	H19.9～H20.3	献血教室	県内の高等学校	高校生	将来の献血制度を支えていく高校生の献血に対する知識を深めていくとともに、ボランティア精神を養うことを目的とする。(協力校:15校)	血液センター共催 将来の血液製剤の安定供給を確保していくため。

普及啓発活動実績

～日本赤十字社における献血推進の取組み～

平成 20 年 9 月 3 日

目次

1. 献血構造改革	1
(1) 若年層献血等確保推進事業	1
ア. 青少年等献血ふれあい事業	
イ. 若年者献血セミナー事業	
ウ. 献血協力団体研修事業	
エ. 献血協賛企業活動推進事業	
(2) 複数回献血協力者確保事業	2
2. 献血推進のための広報活動	3
(1) いのちと献血俳句コンテストの実施(10～3月)	3
(2) 全国献血キャンペーンの実施	4
ア. 愛の血液助け合い運動月間(7月)	
イ. 全国学生クリスマス献血キャンペーンの実施(12月)	
ウ. はたちの献血キャンペーン(1～2月)	
エ. 春の献血キャンペーン(3～4月)	
3. その他広報活動	8
(1) 献血啓発用教材の制作と配布	8
(2) 献血協賛企業活動推進のための広活動	9
ア. ポスター・ステッカーの制作と活用	
イ. 専用WEBサイトの構築	
ウ. 全国規模の企業・団体への働きかけ	
(3) メディアからの取材対応	10
(4) 複数回献血者クラブ会員へのサービス向上のための広活動	11
4. 献血者確保対策	12
(1) 若年層献血者への献血要請	12
(2) 献血推進団体による献血協力者募集活動の促進	12
(3) 若年層献血確保対策	13
(4) 複数回献血者確保対策	13
(5) その他確保対策	14
5. 献血受入れ環境の整備	14

日本赤十字社における献血推進の取組み

日本赤十字社の役割は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律の第六条（採血事業者の責務）に、献血の受入れを推進し、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保に協力するとともに、献血者等の保護に努めなければならないことと定められています。

1. 献血構造改革

平成 18 年 3 月に国から示された「献血構造改革」を踏まえ、将来にわたって安定的に献血者を確保できる基盤づくりを目的として、(1)「若年層献血等確保推進事業」(ア. 青少年等献血ふれあい事業 イ. 若年者献血セミナー事業 ウ. 献血協力団体研修事業 エ. 献血協賛企業活動推進事業)及び(2)「複数回献血協力者確保事業」を実施しています。

(1) 若年層献血等確保推進事業

少子高齢化が益々進行していく中で、将来にわたって安定的に献血者を確保できる基盤をつくるため、若年者（10代、20代）への献血普及・啓発を実施する。

	目標 (献血者全体に占める 10代、20代の割合)	実績
平成 18 年度	30.0%	31.0%
平成 19 年度	32.0%	29.2%

ア. 青少年等献血ふれあい事業

(別紙 P1~4 参照)

血液センター、血漿分画センター、献血バス等の施設見学を推進し、スライド等の説明用資材を活用した説明会や献血ボランティア体験学習等を行う。

区分 年度	実施回数		参加人数						
	目標	実績	目標	実績					
				幼児	小学	中学	高校	保護者	合計
平成 18 年度	48	474	15,360	989	15,561	1,579	9,742	3,685	31,556
平成 19 年度	53	571	16,900	934	12,062	2,714	6,925	4,557	27,192

イ. 若年者献血セミナー事業

(別紙 P5～6 参照)

血液センター施設及び地域の施設等を利用して、若年者向けの献血セミナーを開催し、献血への理解と協力意識の向上を図る。

区分 年度	実施回数		参加人数					
	目標	実績	実績					
			高校	大学	他学生	社会人	その他	合計
平成 18 年度	94	209	8,202	7,476	2,466	2,005	5,070	25,219
平成 19 年度	103	322	10,926	7,651	6,445	2,551	873	27,192

※参加人数の目標は平成 18 年度実績を基準として毎年 10%増加させること。

ウ. 献血協力団体研修事業

学生ボランティア及び献血推進団体の連携強化を目的として、より一層献血推進活動が活発になるよう相互の打合せ会や研修会を開催する。

(全国 7 ブロック 単位に実施)

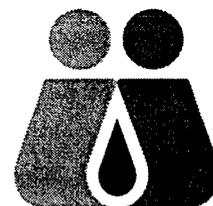
区分 年度	実施回数		参加人数					
	目標	実績	実績					
			高校	大学	他学生	社会人	その他	合計
平成 18 年度	48	26	1	337	47	400	25	810
平成 19 年度	53	33	0	491	65	483	315	1,354

※参加人数の目標は平成 18 年度実績を基準として毎年 10%増加させること。

エ. 献血協賛企業活動推進事業

献血協力企業・団体が行う献血活動を社会貢献活動の一つとして広く社会に認知されるよう、ロゴマーク等を発行することにより、企業・団体が行う献血活動の普及・拡大を図る。

区分 年度	ロゴマーク 配布数	献血協力企業・団体数	
		目標	実績
平成 17 年度	—	—	24,220
平成 18 年度	1,454	30,300	30,835
平成 19 年度	1,895	33,600	34,059



献血サポーター

全国的な広報活動として、献血協賛企業・団体募集用ポスター、ステッカーを制作し活用するとともに、WEB専用サイトを構築し、参加企業・団体の募集活動に努めている。

(2) 複数回献血協力者確保事業

(別紙 P7～9 参照)

安全な血液を安定的に確保するため、一年間に2回以上献血に協力する献血者（以下「複数回献血協力者」という。）を確保する。

各血液センター毎に複数回献血協力者を確保するためのクラブを設立し、クラブ会員に対して、情報誌の発行及び電子メール等による情報発信、各種講演会等の開催、健康相談事業の実施等により、複数回献血協力者の確保推進を図る。

	クラブ 会員数	情報誌等 発行部数	講演会等 開催数	健康相談 実施回数	献血者数	
					年1回	年2回以上
平成17年度	—	—	—	—	2,419,644 (73%)	917,482 (27%)
平成18年度	70,800	2,501,293	81	1,121	2,262,210 (72%)	883,612 (28%)
平成19年度	109,400	2,527,731	80	1,280	2,160,700 (70%)	904,773 (30%)

クラブ会員には、成分献血の予約、携帯待受け画像(血液型別)、パソコン用壁紙(血液型別)、スクリーンセーバーの提供及び携帯着メロのダウンロードサービスを提供しており、さらに本年4月からは携帯及びパソコンから献血履歴や血液検査成績が照会できる機能を構築し運用している。

2. 献血推進のための広報活動

(1) いのちと献血俳句コンテストの実施(10～3月)

厚生労働省、文部科学省、各都道府県及び市町村教育委員会等の後援により、小学生から高校生を中心に広く一般の方々も巻き込んで、俳句コンテストを実施し、俳句の応募を通じて、年少者のうちから献血の啓発する機会を広げている。

応募の募集にあたっては、全国約45,000校の小学校から高等学校までの学校へご案内するとともに、全国の教師が集うネットワークに働きかけ、献血の知識について解説した教材(テキスト)を配布し、授業現場に取り入れ易いようなアプローチを実施している。



	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
応募作品数	約 28 万	約 35 万	38 万以上(目標)
応募団体数	小学校 2,239 校 中学校 880 校 高等学校 391 校	小学校 2,129 校 中学校 1,050 校 高等学校 636 校 一般団体 34 団体	
全国表彰	平成 19 年 2 月 テレビ東京スタジオ 厚生大臣賞、審査員特別賞、日本赤十字社長賞等	平成 20 年 2 月 東京プリンスホテル 厚生大臣賞、文部科学大臣賞、審査員特別賞、日本赤十字社長、日赤本部長賞等	平成 21 年 1 月下旬 (場所未定)
各血液センター表彰	平成 19 年 3 月 血液センター所長賞等	平成 20 年 3 月 血液センター所長等	
作品集	6 万部	6 万部	

※平成 18 年度第 1 回目開催。平成 18 年度以前は関東・甲信越ブロックで 4 年間実施。

(2) 全国献血キャンペーンの実施

ア. 愛の血液助け合い運動月間 (7 月)

すべての血液製剤を国民の献血によって安定的に確保する体制を早期に確立するため、広く国民の間に献血に関する理解と協力を求めるとともに、特に継続的な推進が必要な成分献血・400mL 献血への協力と血液製剤の適正使用への協力を求め、献血運動の一層の推進を図ることを目的とする。

ア) 全国的に実施したこと (平成 19 年度実績)

項目	内容	備考
広報資材制作	ポスター CM素材 ニュースリリース	血液センターへ配布
宣伝	全国紙新聞広告 駅貼りポスター (東京、大阪) 各メディアへのニュースリリース発信	
第 43 回全国献血運動推進大会	採血会場御視察 昭和天皇記念等表彰 体験発表	厚生労働省、福井県と共催



イ) 各血液センターが実施したこと（平成 19 年度実績）

項目	内容	備考
広報資材活用	ポスター CM素材 ニュースリリース	献血推進団体、各報道機関等への配布・出稿
イベント・キャンペーンの実施	学生サマー献血キャンペーン 献血パレード タイアップキャンペーン	都道府県及び市町村、各献血推進団体と連携した各種キャンペーンを実施
宣伝	各種媒体の活用 ノベルティの制作・配布 大垂幕、看板等の資材制作	
PR活動	各報道機関へのイベント、キャンペーンの取材誘致	

イ. 全国学生クリスマス献血キャンペーンの実施（12月）

全国の学生代表による「全国学生献血推進実行委員会」を年3回実施し、さらに全国各都道府県から学生を集めた「全国学生献血推進代表者会議」を開催し、毎年12月1日～24日の間で、全国各地にて学生主体によるクリスマス献血キャンペーンを実施している。

1988年(昭和63年)より、冬季献血者確保を目的に実施しており、学生みずからが企画し、献血への理解と協力をアピールすることにより、若年層への献血啓発に繋がっている。

(平成19年度献血実績 約13,000人)

ウ. はたちの献血キャンペーン (1~2月)

献血者が減少しがちな冬期において、安全な血液製剤を安定的に確保するため、新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として、広く国民各層に対して献血に関する理解と協力を求めるとともに、特に成分献血・400mL献血の継続的な推進を図ることを目的とし実施している。

ア) 全国的に実施したこと (平成19年度実績)

項目	内容	備考
広報資材制作	ポスター CM素材 ニュースリリース	血液センターへ配布
宣伝	テレビスポット ラジオスポット (東京、大阪) 交通広告 (山手線、大阪市営地下鉄) 各メディアへのニュースリリース 発信	民放連、民鉄協、日本コミュニティ放送協会の各本部へ後援の依頼を実施
イベント	記者発表会 (東京) 街頭イベント (大阪)	メディア取材誘致
ノベルティ	献血者記念品の制作	血液センターへ配布



イ) 各血液センターが実施したこと (平成19年度実績)

項目	内容	備考
広報資材活用	ポスター CM素材 ニュースリリース	献血推進団体、各報道機関等への配布・出稿

イベント・キャンペーンの実施	成人式献血 献血パネル展 タイアップキャンペーン 著名人、スポーツ選手等を起用した 各種イベントの実施	都道府県及び市町村、各献血推進団体、学生ボランティアと連携した各種キャンペーンを実施
宣伝	各種媒体の活用 ノベルティの制作・配布 横断幕、看板等の資材制作	民放連、民鉄協、日本コミュニティ放送協会に加盟している放送局や団体へ協力依頼を実施
PR活動	各報道機関へのイベント、キャンペーンの取材誘致	

エ. 春の献血キャンペーン (3~4月)

一年のうちで最も献血者が減少する春の時期の輸血用血液の安定供給を図るため、献血動員が図られるような広報活動を展開し、若年層献血及び複数回献血、400mL献血の実質的効果を出すことを目的とする。

ア) 全国的に実施したこと (平成19年度実績)

項目	内容	備考
広報資材制作	ポスター CM素材 ニュースリリース キャンペーン告知用リーフレットの制作	血液センターへ配布
宣伝	テレビスポット ラジオスポット (毎週火・木・土曜 トニッポン) WEB専用ページ (キャンペーングッズの応募案内など) 各メディアへのニュースリリース発信	民放連、民鉄協、日本コミュニティ放送協会の各本部へ協力依頼を実施
イベント	記者発表会	メディア取材誘致
ノベルティ	キャンペーンTシャツ 献血者記念品の制作	血液センターへ配布



イ) 各血液センターが実施したこと（平成 19 年度実績）

項目	内容	備考
広報資材活用	ポスター CM素材 ニュースリリース	献血推進団体、各報道機関等への配布・出稿
イベント・キャンペーンの実施	高校卒業献血 献血パネル展 タイアップキャンペーン 団体献血の実施をメディア取材誘致	都道府県及び市町村、各献血推進団体、学生ボランティアと連携した各種キャンペーンを実施
宣伝	各種媒体の活用 ノベルティの制作・配布 新聞折込チラシの配布	民放連、民鉄協、日本コミュニティ放送協会に加盟している放送局や団体へ協力依頼を実施
PR活動	各報道機関へのイベント、キャンペーンの取材誘致	

3. その他広報活動

(1) 献血啓発用教材の制作と配布

小学生向け献血啓発用教材として「おしえて けんけつちゃん DVD」を制作し、青少年赤十字に加盟している全国の小学校(約 6,000 校)へ教師用テキストとともに配布し、血液に関する知識や献血の大切さを学校教育を通じて広める取組みを実施した。

(平成 19 年秋)



(2) 献血協賛企業活動推進のための広報活動

ア. ポスター・ステッカーの制作と活用

企業・団体が行う献血活動をもっと広く社会的に認知させるために活用するロゴマークの周知及び利用拡大化を図るために献血協賛企業募集のためのポスターを製作し、ロゴマークをシール化にして、各血液センターへ配付した。



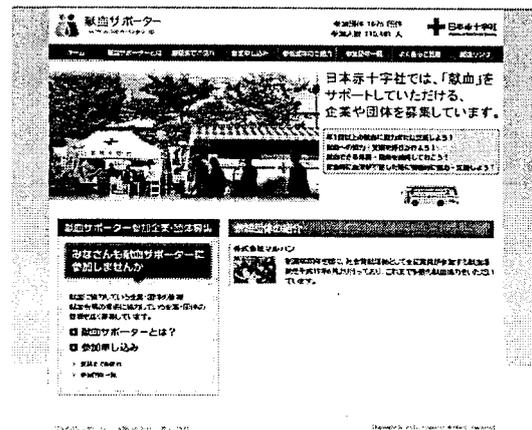
イ. 専用WEBサイトの構築

「献血サポーター」活動への参加登録方法について、インターネットからの参加登録機能を構築することにより、利便性の向上と手続きに係る時間短縮を図り、更なる「献血サポーター」活動への参加企業・団体の増加を図る目的で平成20年2月1日より専用WEBサイトを構築し運用している。

専用サイトのアドレス

<https://www.ken-sapo.jp/>

(別紙 P10 参照)



ウ. 全国規模の企業・団体への働きかけ

日本赤十字社本社では、全国的な組織である企業・団体に対して、「献血サポーター」活動への参加とともに、全国規模の献血実施を働きかけている。

(別紙 P11 参照)



(平成 19 年度)

企業・団体	イベント名など	平成 19 年度 実績
全国遊技場組合 加盟企業	創業 50 周年社会貢献活動として「全 社員及び家族による献血協力」	約 2,000 人
大規模商業施設	全国 40 店全店舗での献血実施	約 4 万人
全国冠婚葬祭 互助会連盟	創立 50 周年記念「5000 人献血キャン ペーン」	約 5000 人
日本カーライフ アシスト(JACRA) 加盟自動車教習 所	全国 314 校に設置している大型ビジ ョンを通じて「いっしょに献血キャン ペーン」CMの放映 全国 9 万人の教習生会員カードへの 宣伝	—

(3) メディアからの取材対応

全国献血キャンペーン以外にも、各種メディアからの取材依頼に基づき、取材協力を行っています。

(平成 19 年度 血液事業本部が直接取材対応した事例)

No.	区分	報道機関名	取材タイトル・内容など
1	雑誌	リクルート	意外と知られていない「献血ご遠慮」 の規定とは
2	テレビ	NHK	献血件数及び HIV 抗体・核酸増幅検 査陽性件数
3	新聞	日本経済新聞	献血小学生も身近に「日赤 DVD 作成」
4	雑誌	㈱マガジンハウス	掲載雑誌「Tarzan」タイトル「なぜ 毎日、血液不足なの？そこで、献血 について考えた」
5	新聞	読売新聞	「医療ルネッサンス」にて 5 回掲載
6	テレビ	BS朝日	番組名「峰竜太のナッ得！ニッポン」 「愛の血液助け合い運動について」
7	テレビ	フジテレビ	番組名「幸せって何だっけ」 コーナータイトル「ココロで読む 話題のニ ュース」 →ニュースは「血液不足」

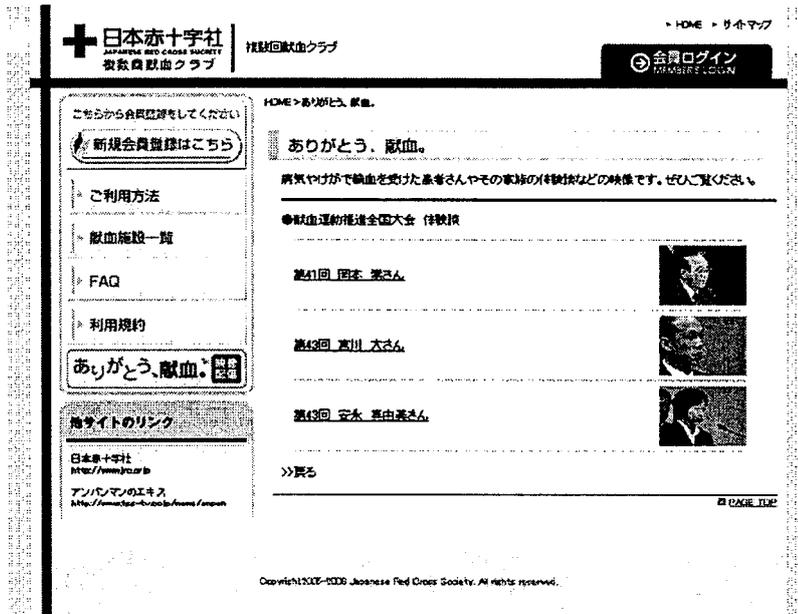
8	インターネット	㈱ファーマインターナショナル	e-血液 TV「日本の血液事業について」
9	政府広報テレビ	日本テレビ	新ニッポン探検隊! 「はたちの献血キャンペーン」
10	政府広報テレビ	テレビ神奈川	Just Japan(ジヤスト ジャパン) 「はたちの献血キャンペーン」
11	政府広報ラジオ	ニッポン放送	栗村智の HAPPY!ニッポン 「はたちの献血キャンペーン」
12	テレビ	NHK/BS データ放送	医療福祉コーナーでの献血の紹介
13	フリーペーパー	学生新聞	献血体験記事 若年層献血の呼びかけ
14	テレビ	フジテレビ FNN スーパーニュース・ウィークエンド「遠藤玲子 NEWS コンシェルジュ」	若年層献血の減少 献血ルームのサービス
15	テレビ	スカイパーフェクト TV 医療福祉チャンネル 774	献血の推進と安全性への取り組み
16	新聞	日刊スポーツ(東京)	若年層献血の呼びかけと HIV 検査目的による献血防止
17	新聞	スポーツニッポン(大阪)	若年層献血の呼びかけと HIV 検査目的による献血防止

※なお、上記以外にも各都道府県において、地元メディアからの取材依頼に基づいて協力を実施しています。

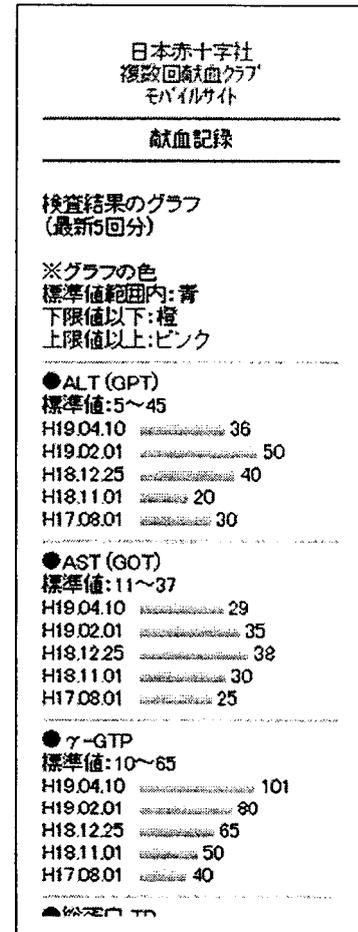
(4) 複数回献血者クラブ会員募集の広報活動 (別紙 P12~13 参照)

複数回献血クラブ(以下「クラブ」という。)会員に対して、現在、献血手帳及び献血カードで確認できる献血の履歴や、ハガキによりお知らせしている検査成績(生化学検査、血球計数検査)を携帯電話やパソコンで照会できる機能を会員専用WEBサイトに構築し、献血後に検査成績が作成された時点で、会員個々に携帯メールで検査成績を会員専用WEBサイトで閲覧できることをお知らせするとともに、新規クラブ会員募集用パンフレット等広報資材を活用し、クラブ会員の増加に努めている。

また、病気やけがで輸血を受けた患者さんやその家族の体験談について、その映像を視聴できる映像配信機能を会員専用WEBサイトに構築し、医療における輸血の重要性や血液の使い方への理解促進とともに献血意欲の向上を図っている。



(パソコンの映像配信画面)



(携帯電話の検査成績画面)

4. 献血者確保対策

(1) 若年層献血者への献血要請

血漿分画製剤の国内自給を目指し、一層、成分献血者の確保が求められていることから、本年8月より全国一斉に、血小板成分献血ができなくなる55歳の年長者とともに、若年層献血者に対しても、成分献血への協力を働きかけるため、血液事業本部長及び各血液センター所長連名による親展文書の送付を実施するよう全国各血液センターへ通知した。

親展文書の送付予定数は今年度約25万通を見込んでおり、第3四半期に一旦、応諾状況や確保状況を把握し、必要に応じて送付数の追加を考えている。

(2) 献血推進団体による献血協力者募集活動の促進

ライオンズクラブ等の献血推進団体の担当者に対する、血液事業の現状や課題について理解を促進するとともに、献血推進団体が行う地域での献血者募集活動の促進を図る目的で、たとえば、血漿分画センターの製造工程の直見学を兼ねた全国的な研修会や会議を実施します。

(3) 若年層献血確保対策

(別紙 P14～21 参照)

(各血液センターで実施している主な対策)

No.	対策	内容
1	はがき、封書による献血依頼	献血登録者や依頼に対して予め承諾を得ている献血者に対して、定期的又は血液不足時に応じて、献血会場等のご案内とともに献血協力への依頼を実施
2	高校卒業献血	18歳の高校3年生を対象に400mL献血確保
3	大学、短大、専門学校の献血実施強化	実施回数を年1回から2回に増やしたり、学生ボランティアや体育会系団体グループへ献血協力の働きかけを実施 学生サマー献血の実施
4	大学祭等における献血啓発活動	献血パネル展の実施
5	スポーツ競技団体への献血の推進	大学野球連盟（北海道） ラグロス協会（東京、大阪）など
6	プロサッカー、プロ野球チームを活用した献血PR活動、イベント等の実施	コンサドーレ（北海道） ザスパ草津（群馬） アルビレックス新潟（新潟） 横浜マリノス（神奈川） 西武ライオンズ、浦和レッズ（埼玉）など
7	著名人、芸能人を起用したイベント、キャンペーンの実施	コンサートやライブの開催
8	献血記念品	若者うけする「けんけつちゃん」等を使用した献血記念品の制作 カップヌードル3Pセット（大阪）
9	年間行事に併せたキャンペーン等の実施	初詣献血、バレンタイン・ホワイトデー献血キャンペーンなど

(4) 複数回献血者確保対策

(別紙 P22～24 参照)

(各血液センターで実施している主な対策)

No.	対策	内容
1	メール、はがき、封書による献血要請	複数回献血クラブ会員に対して、定期的又は血液不足時に応じて、献血会場等のご案内とともに献血協力への要請を実施
2	新規会員募集のためのキャンペーン実施	大学祭

3	新規会員募集のための広報資材の制作と活用	会員募集用ポスター、チラシ、パンフレット等を制作し、献血会場等への設置、献血者への配布、イベント会場でのサンプリング等
4	クラブ未加入者への働きかけ	クラブ未加入の献血者に対して、ダイレクトメールを実施
5	クラブ会員向け情報誌の発行	全国すべての血液センターより、血液センターごとに発行
6	クラブ会員に対する講演会、講習会への参加案内	AED講習会（東京、静岡）
7	クラブ会員を対象とした健康相談会等の実施	主に献血ルームでの医師や看護師による健康相談、栄養士による栄養相談、マッサージ師によるマッサージなど

(5) その他の確保対策

(別紙 P25～31 参照)

(各血液センターで実施している主な対策)

No.	対策	内容
1	献血登録者への電話・はがき等による献血要請	HLA 適合血、Rh(-) 血、まれな血液型血液等の「献血登録者」に対して、需要に応じて献血要請を実施
2	ポイント制の導入	一定期間中に規定回数の献血協力者に対して、献血記念品を配布
3	献血ルームや移動献血会場への献血者送迎	小規模な企業、団体からの献血者を最寄の献血ルームや移動献血会場へ送迎する
4	献血推進団体への献血者派遣要請	ライオンズクラブやロータリークラブ等の献血推進団体に対して、定期的又は血液不足時に応じて、献血会場等のご案内とともに献血協力への要請を実施
5	都道府県及び市町村献血担当者との連携強化	移動採血車の配車計画策定に必要な移動献血会場ごとの実績情報や状況を報告する等して、お互いの連携を深め、より効率的な献血者確保につなげる。

5. 献血受入れ環境の整備

近年、首都圏を中心に献血ルームにおいて若者向けの様々なイベントやサービスを提供し、若年層献血者の動員を図っている。

また、献血ルームの施設整備の面においては、献血者待合室スペースを広めに確保するなど、献血者へのサービス向上を図るための様々なイベントやサービスが提供できるよう、順次献血受入れ環境の改善を図っている。

ア. 最近5ヶ年の施設数の推移

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	5年間の差異
献血ルーム	119	117	116	116	115	△4
ベッド数	1,237	1,261	1,276	1,273	1,283	46
移動採血車	326	327	318	309	306	△20
献血ルーム面積 (㎡)	32,152	33,309	34,405	34,886	35,598	3,446

イ. 東京都内献血ルームでのイベント実施状況 (平成20年5月現在)

献血ルーム名	イベント名	処遇品
新宿東口献血ルーム	手相占い、タロット占い、ネイルカラー カラーコーディネート、運勢占い、毛髪 チェック、メンタルセラピー、ハンドマ ッサージ	各種ドリンク アイス・ハンバ ーガー・ドーナ ツ(但し食べ放 題ではありません。)
献血ルームぶらっと(池袋)	手相占い、運勢占い、カラーコーディネ イト	
献血ルーム吉祥寺タキオン	子供天国(小さなお子様連れの方へ、専 門スタッフ常駐)、手相占い、指圧、折り 紙教室、運勢占い、新占い、似顔絵コー ナー	
献血ルームSHIBU2(渋谷)	占い、パーソナルカラー診断	
献血ルームい〜すと(池袋)	手相占い、指圧	
有楽町献血ルーム	タロットヒーリング占い ボディーリラクゼーション エンジェルカードリーディング ハンドケア、足裏リフレクソロジー カード占い、パーソナルカラー診断 筆跡診断	
アキバ献血ルーム	手相占い	

普及啓発活動実績 (別紙)

平成 20 年 9 月 3 日

青少年等献血ふれあい事業

【事例1】

実施センター名 : 北海道赤十字血液センター

実施名称 : サタデー・テーリング

実施日時(期間) : 平成18年4月1日～9月30日 6ヶ月間 毎週土曜日

実施場所 : 北海道赤十字血液センター

協力団体 : 札幌市交通事業振興公社
北海道学生献血推進協議会「トマトクラブ」

実施目的 : 少子化に伴い献血者が減少傾向にある中、将来における献血者確保の安定化を図るために、血液センターの見学を通じて、若年者に献血の重要性や関心を持っていただき、さらに参加者及び家族の方に血液センターの場所を知っていただくことを目的として実施している。

実施内容 : 札幌市営交通が毎年4月から9月まで間、毎週土曜日に市内の小学生4～6年生を対象に市公共施設等を巡るスタンプラリーを開催しており、平成17年より血液センターをその対象公共施設に組み込んでいただき、学生ボランティアグループが説明及び案内役として見学全般の対応を行う。

実施結果 : 参加人数合計3,425名、実施日数25日(1日平均140名)
学生ボランティア75名協力



【事例2】

実施センター名 : 宮城県赤十字血液センター

実施名称 : 献血教室

実施日時(期間) : 平成18年7月27日(木)・29日(土) 10:00~11:30

実施場所 : 宮城県赤十字血液センター 3階会議室

協力団体 : なし

実施目的 : 献血年齢に満たない小学生(主に4年~6年生)と保護者が一緒に、献血の必要性や血液の役割を知っていただき、血液センターを身近に感じていただくことを目的とし、夏休みの自由研究等の一助とする。

実施内容 : (1) けんけつちゃんを使用したスライドを中心に「献血〇×クイズ」を出題しながら講話。(「献血ってなあに?」、「輸血ってなあに?」、「血液の成分」等)
(2) 所内見学(検査課、製剤課、供給課)及び献血バス、血液運搬車。
(3) 配布資料(スライドで使用した資料、愛のかたち献血パンフレット、宮城の献血、献血ルームリーフレット、広報紙「献血いずみ」等)
(4) 質問コーナー、アンケート。
(5) 記念品(ベガッ太くん血液型キーホルダー、メモ帳等)

実施評価 : 若年層に対し、輸血の体験談や献血の重要性を視覚的に説明することにより献血への理解促進が図れた。

実施結果 : 参加者は、7月27日の19組(子供25人)44人と29日の20組(子供26人)46人となり、当センター会議室が両日とも満員となりました。見学終えての感想は好評であった。



【事例3】

- 実施センター名 : 大阪府赤十字血液センター
- 実施名称 : 第11回「献血おもしろゼミナール」
～血液センターを見学して、献血や血液のナゾに迫ってみよう～
- 対 象 : 小学生（主に3～6年生）及び保護者（参加費は無料）
- 実施日時（期間） : 平成18年7月27日（木）・28（金）・31日（月）、8月1日（火）・3日（木）・4日（金）・7日（月）・8日（火）
○午前の部 10:00～11:30 ○午後の部 14:00～15:30
- 後 援 : 大阪府、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会
- 実施目的 : 献血年齢に満たない小学生に対して献血意義の普及と推進を図るため、「愛の血液助け合い運動」キャンペーンの一環として、夏休みの期間中に小学生を対象に血液センター見学会を開催する。見学会を通し献血の必要性と血液センターの役割への理解を深めていただき、献血や血液に興味をもっていただくことを目的とするとともに、小学生の夏休みの宿題（自由研究）を応援する。
- 実施内容 : (1) アニメーションを使用したスライドを用いて、血液センターの仕事の概要や、献血や血液に関する説明（別添1の内容をパソコンから液晶プロジェクタを使って映写し説明）
(2) 施設見学（採血室、製剤風景、検査風景、供給課）
(3) 質問の受け付け、感想文を書いてもらう
(4) 記念品（近畿ブロックの血液センターが共同で作製した献血啓発グッズ等）の進呈
- 実施結果 : 参加者 : 総計 1,896人



(参考：過去の実績)

平成11年度 : 140人
平成12年度 : 265人
平成13年度 : 635人
平成14年度 : 1,094人
平成15年度 : 1,418人
平成16年度 : 1,864人
平成17年度 : 2,055人
平成18年度 : 1,896人

【事例4】

実施センター名 : 岡山県赤十字血液センター

実施名称 : 夏休み「小学生親子血液センター見学体験教室」

実施日時 (期間) : 平成19年8月1日(水)～8月3日(金) 3日間
平成19年8月7日(火)～8月10日(金) 4日間
午前と午後に分けて実施 (全14回)

実施場所 : 岡山県赤十字血液センター (岡山市いづみ町3-36)

協力団体 : 岡山県、岡山県教育委員会

実施目的 : 青少年等献血ふれあい事業の一環として、県下全ての小学校5・6年生を対象に、「小学生親子血液センター見学体験教室」を開催し、親子で献血や血液に関する知識や興味をもつていただくことを目的とする。

実施内容 : (1)血液・献血の話 (講話)
血液の働きや必要性、献血血液の流れ、クイズ
(2)センター施設見学
血液センターの仕事 (受付、採血、検査、製剤、血液保管場所)、献血バスや緊急車の見学

実施評価 : 将来の輸血医療を支えていく小学生に対し、血液の働き・献血の重要性をパワーポイントでの説明、血液センター施設内の見学により献血への理解促進を図れた。

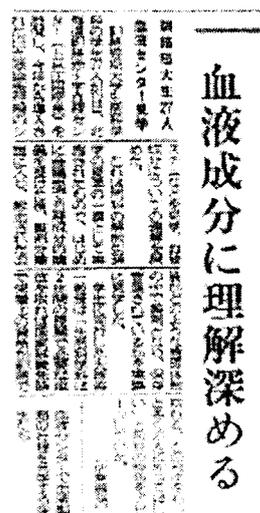
実施結果 : 参加者 : 681人 (内児童435人) 参加校 : 139校



若年者献血セミナー事例

【事例 5】

- 実施センター名 : 北海道釧路赤十字血液センター
- 実施名称 : 技術部門における「若年者献血セミナー」
- 実施日時(期間) : 平成 19 年 8 月夏休みの 5 日間 9:00~17:30
- 実施場所 : 北海道釧路赤十字血液センター
- 協力団体 : 釧路短期大学、釧路高等専門学校
- 実施目的 : 少子化献血推進対策の一環とし、献血推進部門の主体形を技術部門から更に支持することで、より専門的な技術系学生の献血の理解と協力が深まるものとする。
- 実施内容 : (1) 工学的素養を持つ学生に対し、製造部門でのバリデーションの現地体験を中心に採血・供給部門等の研修を行った。
(2) 解剖生理学実習の 1 コマとして栄養士課程学生が、製造部門の全工程を見学し、技術職の担当者が血液成分とその機能について講義を行った。
- 実施評価 : 献血の次世代の担い手となる 20 歳前後の学生実習を技術部門で積極的に受け入れることは、若年層への献血推進活動として新たな視点への期待にも繋がると考える。
- 実施結果 : 参加者 : 31 人 参加校 : 2 校
当セミナー実施後、釧路短大において、献血を実施したところ、前回は大きく上回る協力(約 80 名)が得られた。また、同短大食物栄養専攻の学生は献血不適となる貧血改善等に向けた食生活の普及に意識が高まるようになった。



複数回献血協力者確保事業事例

【事例7】

実施センター名 : 東京都赤十字血液センター

実施名称 : 「サンクスドナーAED」(献血携帯メールクラブ会員限定「医学講演、赤十字救急法講習会」)

実施日時(期間) : 平成19年11月4日(日)午後
平成19年11月17日(土)午後
平成20年3月15日(土)午後

実施場所 : 平成19年11月4日(日)武蔵野赤十字病院山崎記念講堂
平成19年11月17日(土)日本赤十字社辰巳ビル
平成20年3月15日(土)日本赤十字社辰巳ビル

協力団体 : 日本医科大多摩永山病院救命救急センター(講師派遣)

実施目的 : 複数回献血者確保事業の一環として、献血携帯メールクラブ会員向けに、日頃の献血協力に対する感謝の意を込めて実施。会員限定講習会という特別イベントを行い、今後も積極的な複数回献血の協力が得られるようにする。

実施内容 : 救命救急担当医の講演により、輸血の大切さや必要性を理解していただいたうえで、心配蘇生法やAED)「自動体外式除細動器」を使用した講習を実施した。

実施評価 : 3回の開催案内に対し、応募定員の252名の約5倍の申込があった。協力的な献血者の中には、このような講習会参加の希望が高いことが分かった。献血後の血液の使われ方や大切さがよく分かったと好評であった。

実施結果 : 参加者 : 273 人



〈11/4 武蔵野赤十字病院山崎記念講堂〉



〈11/17 日本赤十字社辰巳ビル〉

【事例8】

実施センター名 : 兵庫県赤十字血液センター

実施名称 : 兵庫県栄養士会との連携による献血希望者への栄養相談

実施日時(期間) : (1)平成19年11月6日(月)～平成20年3月31日(月)
 受付時間14時～16時30分
 (2)移動献血会場は3月7日、14日、25日の10時～15時

実施場所 : (1)ミント神戸15献血ルーム
 (2)移動献血会場3カ所(加古川市役所・上郡町・新宮町)

協力団体 : 兵庫県栄養士会・兵庫県・県内市町

実施目的 : 兵庫県栄養士会「栄養ケアステーション構想」との連携により、献血者及び比重不足等の献血不適者を対象とした栄養相談を行うことによって、献血者をはじめとする兵庫県民の健康増進に寄与するとともに複数回献血協力者の確保を目的とした。

実施内容 : 血液センターが相談場所を準備し、県栄養士会が派遣した管理栄養士による献血来場者との対面式の栄養相談を行った。主に献血不適者を対象に「なるほど!献血」冊子などを活用し、食生活の改善を中心とした栄養相談(指導)とした。周知方法は血液センターホームページや献血ルーム受付での案内にてチラシを配布した。

実施評価 : (1)今回は期間が短く、複数回献血につながるかどうかまでの分析はできなかったが、この取り組みを通じて食生活の栄養バランスの大切さを理解してもらうとともに、若年層を中心にまだ献血したことのない方への献血動機づけに繋がるものと思料される。
 (2)県栄養士会との連携によるPR効果は大きく、新聞社2社(朝日・神戸)、NHKラジオ(『ラジオタ刊』)、サンTV(『週刊ひょうご夢情報』)で取り上げられ、冬季血液の確保の一助となった。

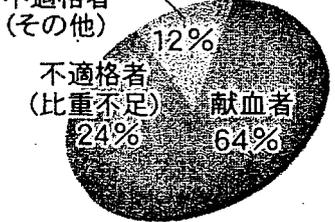
実施結果 : 総実施回数:21回 参加者:総数 72人
 一人あたりの相談時間は5～30分程度であり、平均は12～13分。

	10代	20代	30代	40代	50以上	不明	計
相談者数計	0	23	16	11	18	4	72
(内男性)	(0)	(4)	(5)	(4)	(7)		(20)

献血ルームで栄養相談

■兵庫県内の女性献血状況

(2006年度)



貧血で「不適格」の女性急増受け

同センターによると、県内で二〇〇六年度に受け付けた献血希望者は、延べ二十四万五千五百七十四人だったが、そのうち四万九千五百五十七人(20%)が事前検査で不適格となった。不適格の理由では、血液の比重鉄分不足が二万七千二百

全国初、あすから神戸で

ダイエットによる貧血などで献血に「不適格」とされる女性が急増しているを受けて、兵庫県赤十字血液センターと同県栄養士会とが協力し、管理栄養士による献血希望者のための栄養相談を、JR三宮駅前のシント神戸15献血ルームで五日から始める。女性の健康改善とともに、輸血用血液不足の解消を目指すという、両者のこうした連携は全国で初めて。(今泉欣也)

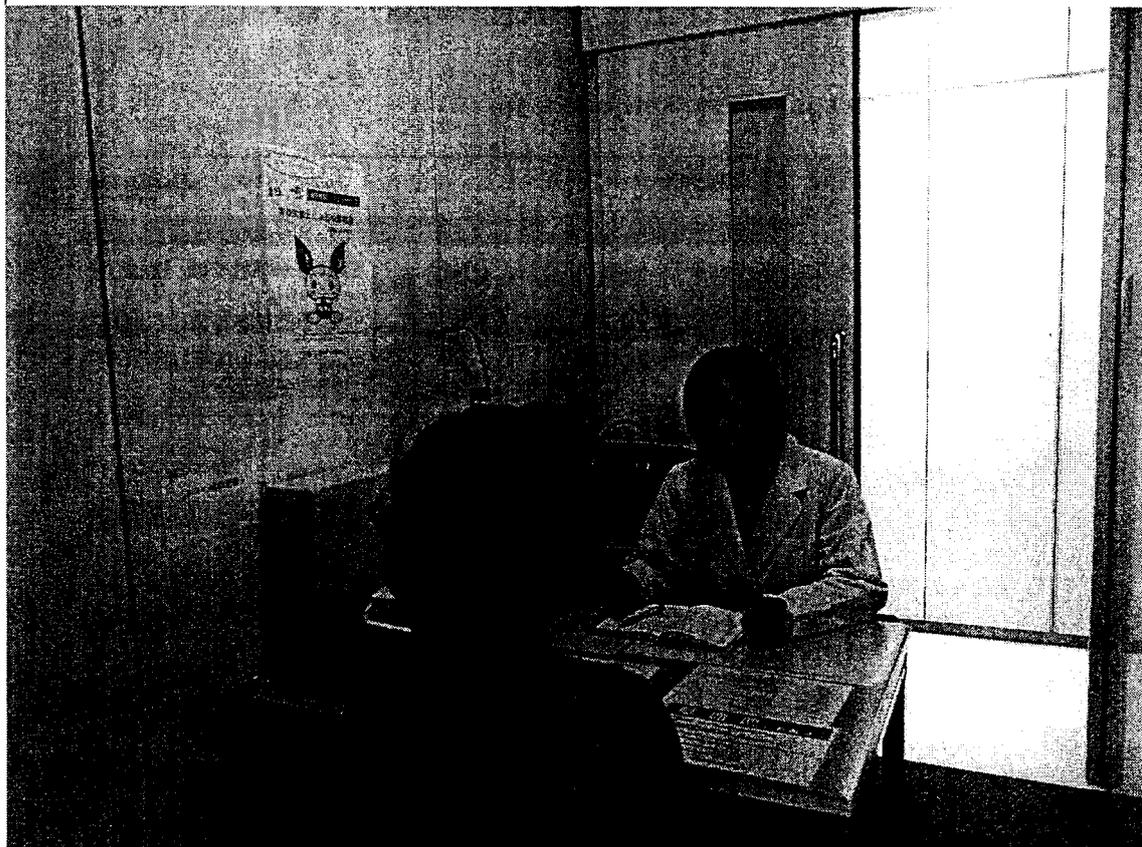
同センターによると、二一九人に上った。これには男女差があり、男性全体の1%が比重不足なのに、女性にはほぼ四人に一人となる24%。しかも二〇〇〇年度(14%)から10%も増えた。

なぜ女性の比重不足が多いのか。同センターは「ダイエット志向の高まりや出産後の体形維持などによって貧血気味の女性が増えている」と指摘する。県栄養士会の仙賀鈴江会長は「食生活など幅広い指導をして、県民の健康増進につなげたい」と話している。同献血ルーム

栄養相談は、毎週月曜日の午後一時～四時半(祝日と年末年始を除く)に受け付け、希望制で無料。相談時間は一人五～十五分程度の予定。

同センターの藤田嘉秀献血副部長は「兵庫県は現在、約一千人の輸血用血液を他府県に依存しているが、比重不足が改善されれば『自給』できる」と期待する。また、

0120・150・072



献血協賛企業活動推進事業に係る事例

【事例9】

実施センター名 : 日本赤十字社 血液事業本部

実施名称 : 献血サポーターWEB サイト

対象 : 献血団体・献血推進団体

実施日時(期間) : 平成20年2月1日(金)より

実施目的 : これまでの、申込書による「献血サポーター」への参加登録方法の他に、インターネットからの参加登録機能を構築することにより、利便性の向上と手続きに係る時間短縮を図り、更なる「献血サポーター」への参加企業・団体の増加を目指す。

実施内容 : 「献血サポーター」に参加いただける企業・団体がインターネットから登録の申込みができる。
登録完了後は、「献血サポーター」ロゴマークを専用サイトからダウンロードして使用することが可能となり、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRすることができる。
また、全国都道府県別にロゴマークを取得した献血サポーター活動参加企業が紹介できる。

今後の取り組み : 当WEBサイト上で、参加団体の紹介を増やしていく。

ホームページ : <https://www.ken-sapo.jp/>



【事例 10】

実施企業名 : 株式会社マルハン

実施名称 : 株式会社マルハン創業 50 周年献血活動

対 象 : 全従業員及びお客様

実施日時(期間) : 平成19年6月1日～平成20年3月31日

実施目的 : 社会に対する感謝の気持ちを伝えるために、全従業員参加の献血活動を行う。

実施内容 : 全国の店舗の全従業員が、献血バス、献血ルーム等で献血の協力をする。

献血サポーターとして参加し、ロゴマークを使用したポスター(下図)の作製を行い、全店舗への掲示とともに、自社 WEB ページやCMで献血活動を紹介。

実施結果 : 全国 227 店舗の従業員及びその家族の方々約 2,000 名の協力をいただいた。



マルハンは全従業員で献血に協力します。

現在、全国的に献血量が減少しています。
人間の生命に欠くことのできない血液は人工的に作り出すことができません。
さらに、血液は長い期間にわたって保存することもできません。
献血に必要な献血をいつでも十分に確保するためには、絶えず誰かの献血が
必要になります。
マルハンは今年の50周年を迎えるにあたりまして、社会に対する「感謝」の
気持ちを伝えるために、私たちにできることを考えました。
それがまずは全国10,000人参加の「献血活動」です。



<http://www.maruhan.co.jp/>



【事例 11】

実施センター名 : 日本赤十字社 血液事業本部

実施名称 : 携帯電話やパソコンによる献血履歴及び検査成績の照会

対象 : 複数回献血クラブ会員

実施日時(期間) : 平成20年4月15日(火)から

実施目的 : 献血にご協力いただいた複数回献血クラブ(以下「クラブ」という。)会員へ、現在、献血手帳及び献血カードで確認できる献血の履歴や、ハガキによりお知らせしている検査成績(生化学検査、血球計数検査)について、携帯電話やパソコンで照会できる機能をクラブシステムに追加することにより、利便性の向上を図り、更なる同会員の増加並びに複数回献血への協力を推し進める。

実施内容 : クラブ会員は、携帯電話及びパソコンのクラブシステム会員専用ホームページからログインし、「献血記録」を選択すると、「献血履歴」と「検査成績」を表示する。表示項目は次のとおり。

(1) 献血履歴

血液型、献血回数、献血日、
採血センター名、献血種類

日本赤十字社 複数回献血クラブ モバイルサイト	
献血記録	
血液型: O+型	
献血回数: 21回	
1回前 H19.04.10	東京 400mL
2回前 H19.02.01	東京 200mL
3回前 H18.12.25	

(2) 検査成績

- ア. 献血時の情報(血圧、脈拍)
- イ. 生化学検査(7項目)
- ウ. 血球計数検査(8項目)

検査成績は、過去5回分を比較できるようにグラフで表示。また、献血後にその献血履歴及び検査成績がホームページに表示されたことのお知らせメールをクラブ会員へ送付する。

[携帯電話画面]

日本赤十字社 複数回献血クラブ モバイルサイト	
献血記録	
検査結果のグラフ (最新5回分)	
※グラフの色 標準値範囲内: 青 下限値以下: 橙 上限値以上: ピンク	
●ALT (GPT) 標準値: 5~45	
H19.04.10	36
H19.02.01	50
H18.12.25	40
H18.11.01	20
H17.08.01	30
●AST (GOT) 標準値: 11~37	
H19.04.10	29
H19.02.01	35
H18.12.25	38
H18.11.01	30
H17.08.01	25
●γ-GTP 標準値: 10~65	
H19.04.10	101
H19.02.01	80
H18.12.25	65
H18.11.01	50
H17.08.01	40

【事例 12】

実施センター名 : 日本赤十字社 血液事業本部

実施名称 : 「ありがとう、献血。」WEB映像配信
～ 病気やけがで輸血を受けた患者さんやその家族の声 ～

対象 : 一般の方、献血者

実施日時(期間) : 平成20年4月1日(火)より

実施目的 : 病気やけがで輸血を受けた患者さんやその家族の体験談について、その声を映像でご覧いただき、医療における輸血の重要性を理解し、献血への感謝の気持ちを感じることで、献血へ更なる関心を持っていただき、献血における意欲向上を目指す。

実施内容 : 献血運動推進全国大会での体験談発表について、複数回献血クラブシステムのホームページに掲載した。

平成20年4月の運用開始時は、第41回和歌山大会の岡本さん、第43回福井大会の宮川さん、安永さんの3名の発表を見ることができる。

パソコン上からホームページの各発表者をクリックすると、映像や音声のファイルを再生するためのソフトウェアが起動し映像が流れる。また、携帯電話用のホームページでもダイジェスト版を見ることができる。

ホームページ : <https://www.kenketsu.jp/>

日本赤十字社
複数回献血クラブ

HOME > サインマップ

会員ログイン
MEMBERS LOGIN

HOME > ありがとう、献血。

ありがとう、献血。
病気やけがで輸血を受けた患者さんやその家族の体験談などの映像です。ぜひご覧ください。

●献血運動推進全国大会 体験談

第41回 岡本 菜さん

第43回 宮川 太さん

第43回 安永 真由美さん

>> 戻る

PAGE TOP

© 2008-2016 Japanese Red Cross Society. All rights reserved.

平成19年度 若年層献血確保対策

センター名	対策	内容
北海道	<ol style="list-style-type: none"> 1. ティーンズドナー献血キャンペーンの実施 2. 学生サマー献血キャンペーンの実施 3. 献血推進ポスターコンクールの実施 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全道全域でラジオ番組と連携し、10代の献血参加を呼びかけるイベントを実施した。 2. 学生主体のサマーキャンペーンを実施した。 3. 献血推進のポスターコンクールを実施した。
青森	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハガキ依頼 2. セミナー開催 3. はたちの献血キャンペーン 	<ol style="list-style-type: none"> 1. メールと封書による依頼の実施。 2. 大学の学生課を通して参加を募る。 3. 成人式会場において記念品引換券配布した。
岩手	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高校生に対する普及啓発 2. 県マスコットキャラクターを活用した普及啓発 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県内の全高校3年生に対し県製作の献血普及啓発クリアファイルを配付した。 2. 告知用ポスター・チラシ等各種広報物にマスコットキャラクターを使用街頭献血でマスコット着ぐるみによる広報活動を行った。
宮城	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学・専門学校（仙台市内）における学内献血推進強化 2. はがきによる献血のお礼状送付 3. はがきによる献血依頼 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4月に4大学で学内献血キャンペーン実施し、11月～3月は仙台市内献血ルームの近隣専門学校や大学述べ65校を訪問し、ルームへの来場促進を強化。 2. 10代、20代の初回者への礼状を送付。 3. はがきによる献血依頼を行った。
秋田	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講演会（またはセミナー）の開催 2. はがきによる献血依頼 3. 献血キャンペーンの実施 4. 高校生に対する感謝状の贈呈（卒業時） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3回講演会を実施。 2. はがきによる献血依頼を行った。 3. 若年者を対象としたキャンペーンを実施した。 4. 在学中に複数回協力した生徒に対し感謝増を贈呈。
山形	<ol style="list-style-type: none"> 1. 若年層献血キャンペーン 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平日限定でキャンペーンを実施した。
栃木	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高校献血実施（体験） 2. はがきによる献血依頼 3. 大学・短大・専門学校献血実施 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 献血の体験のため、高校での献血を実施した。 2. はがきによる献血依頼を行った。 3. 大学・短大・専門学校での献血を行った。
群馬	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jリーグ（J2）ザスパ草津の献血推進ポスター作製とイベント実施 2. 群馬県学生献血推進連合の献血キャンペーン 	<ol style="list-style-type: none"> 1. イベント2回を実施。 2. 学生主体の献血キャンペーンを実施した。
埼玉	<ol style="list-style-type: none"> 1. 彩の国献血フォーラム 2. 出前講座 3. 親子ふれあい献血キャンペーン 4. 卒業献血キャンペーン 5. バレンタイン及びホワイトデー献血キャンペーン 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 献血思想の啓発が測られた。また、例年継続的に参加される方が増えた。 2. 県内の小・中・高・専門学校へ出前で授業を行い、生徒・児童が血液、献血の話聞くことにより他人への思いやる心“献血思想”の普及啓発が測られた。 3. 採血車を2台配車。献血クイズ等お子さん対象のイベント。親と子で本キャンペーンに参加し、両親が献血している姿をお子さんが見ることで、幼少より献血を身近に感じ将来の献血につながる。 4. 記念品の費用は埼玉県薬務課、県内各校長宛文書の発送は教育局、4万3千枚のチラシを血液Cが作成し発送。 5. 県内の医療機関で輸血を必要としている患者さんへ、応援メッセージを献血者よりいただき、メッセージ集を作製。患者さんやご家族の方、血液を使う医療従事者、これから医療に携わる学生、一般の方がご覧いただくことで献血思想の輪が広がる。
東京	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハガキによる複数回献血依頼 2. ラクロス献血協力者に対する複数回依頼 3. 施設見学の実施 4. 大学、短大献血の増回・増班 	<ol style="list-style-type: none"> 1. はがきにより献血依頼を行った。 2. ラクロス協会の献血協力者に対し、複数回献血協力を依頼した。 3. 若年者を対象として、施設見学を実施した。 4. 施設見学等で関係者の献血への理解と協力を各日に得られた。大学献血の増会につながった。

センター名	対策	内容
神奈川	1. 大学献血の推進	1. ライオンズクラブ国際協会330-B地区献血推進合同会議において大学献血での協力を依頼した。各大学の授業形態を再確認する事により特定大学では、増班が可能となり、思想普及が出来た。また、学生献血推進を促すため学生に好評あるカップめんを配布する事で安定確保につながった。
新潟	1. 卒業献血を中心とした高等学校での献血実施 2. 学生ボランティアの協力による献血PR	1. 高等学校での献血実施。 2. 学生ボランティアによるPR。
富山	1. はがきによる献血依頼 2. セミナー開催 3. 血液センター見学会 4. 学生献血ボランティアと連携したイベントの実施（サマー献血、クリスマス献血）	1. はがきによる献血依頼を行った。 2. 看護学校にて血小板成分献血推進セミナー開催。 3. 若年者を対象に血液センターの見学を実施。 4. サマー献血、クリスマス献血の実施。
石川	1. 中学生対象の献血ポスターを募集 2. 高等学校における献血指導者研修会の開催 3. 大学の学園祭時に普及啓発を実施	1. 中学生対象に献血ポスターコンクールを実施し、優秀作品について知事表彰を行い、市内のデパート及び献血ルームで展示を行った。 2. 高等学校の教職員を対象とした献血指導者研修会を実施した。 3. 3大学の学園祭の献血実施に併せて、チラシ・ティッシュを配布し普及啓発を行った。
福井	1. 献血推進キャンペーン 2. ハガキによる献血依頼・要請	1. 若年層を対象にキャンペーンを実施。 2. 地元アーティストのライブコンサート開催で若者の来場者が多く、複数回献血、若年層献血推進に貢献した。
山梨	1. 高校献血の全校実施 2. 短大・大学献血の実施 3. セミナー開催	1. 県内全校実施。 2. 県内全短大・大学実施。 3. 県内の高校生・短大・大学生対象の研修会を実施。
長野	1. 体験ルームの実施 2. 献血キャンペーン	1. 若年層への啓発を行うため実施した。 2. 血液の不足する時期にキャンペーンを実施した。
岐阜	1. 高等学校推進 2. 大学・短大・専門学校推進	1. 県作成の啓発用リーフレットを持参し、県下高等学校を訪問。高等学校学内献血ができない学校は、献血ルームでの献血経験をお願いした。 2. 大学、短大、専門学校に対し献血の推進を図った。
愛知	1. 学生献血連盟によるキャンペーン 2. 中部学生リーダー研修会 3. 学内献血実施	1. 学生主体で、春、夏学生キャンペーンを実施した。 2. 学生の育成のため研修会を実施した。 3. 大学、短大、専門学校を対象に学内献血を実施した。
三重	1. 文化祭での啓発パネル展示 2. 若年層献血キャンペーン 3. セミナー開催	1. 文化祭で献血啓発用のパネルを展示し、普及啓発を図った。 2. 400mL献血を年3回実施。 3. 勉強会実施（血液センターにて）
滋賀	1. はがきによる献血依頼 2. セミナー開催 3. 若年者献血キャンペーン（バレンタイン献血） 4. 大学生を母体へ送迎	1. はがき、封書により献血の依頼を行った。 2. 若年層を対象にセミナーを開催した。 3. バレンタインに、若年層を対象にキャンペーンを実施した。 4. 2大学で送迎による献血依頼。
京都	1. 若年層対象のはがきによる献血依頼（おくりもの献血キャンペーン） 2. 学生献血推進協議会によるキャンペーン	1. 20～35歳の若年層に依頼ハガキを郵送した。 2. 街頭献血・献血ルーム前での呼びかけ活動を実施。
大阪	1. はがきによる献血依頼 2. 献血おもしろゼミナール開催 3. 献血イベント（学園祭を含む） 4. 学生400mL献血キャンペーン 5. 初めての400mL・成分献血キャンペーン	1. はがきによる献血の依頼を行った。 2. 若年層を対象に施設見学等を実施した。 3. 学園祭でイベントを実施した。 4. 学生を対象にキャンペーンを実施し、カップヌードルミニ3Pセットを記念品として配布した。 5. 初めての400mL・成分献血に対し、教育委員会よりチラシ配布。また、記念品としてキティバンダナを配布。
兵庫	1. ホット&フレンズキャンペーン	1. 大学学内献血で、記念品にカップ麺を提供した。

センター名	対策	内容
奈良	1. 若年者献血キャンペーン	1. 学生献血推進協議会によるキャンペーンを実施した。
和歌山	1. 学生実行委員会主催キャンペーン	1. 街頭献血においてキャンペーンを実施し。
鳥取	1. 研修、セミナーの開催 2. はがきによる献血依頼	1. 県職員新任採用者へ献血の必要性を理解していただく良い研修となった。 2. 19歳20歳を対象に献血の依頼を実施。
島根	1. はがきによる献血依頼 2. 学内献血の実施	1. はがきによる献血の依頼を行った。 2. 大学等で学内献血を実施。
広島	1. 大学献血推進協議会セミナー 2. 学生献血推進強化	1. 大学生のボランティアのセミナーを開催した。 2. 学生に対する推進を強化した。
山口	1. セミナーの開催 2. DMを活用しダイレクトに依頼する 3. 大学献血の発展と拡張 4. 広報媒体を利用した啓発・啓蒙	1. 若年層を対象としたセミナーを実施した。 2. ダイレクトメールにより献血の依頼を行った 3. 学生の献血に対する意識向上及び各学校での活動の円滑化を図った。 4. 広報媒体を利用し、啓発を図った。
徳島	1. 若年層献血キャンペーン（パースデー献血）	1. 若年層を対象にパースデー献血を実施した。
香川	1. 高校生街頭キャンペーン 2. はがき・電話による献血依頼	1. 香川県と合同実施（費用香川県負担）。高校生が参加して、献血ボランティアを体験する。 2. 事業所での前回献血者へ、依頼はがきにより献血依頼を行った。
愛媛	1. 専門学校・大学校内献血実施の増加 2. 若年者献血キャンペーン	1. 専門学校、大学を対象に学内献血を実施した。 2. 学生赤十字奉仕団による街頭献血を実施した。
福岡	1. ハガキによる献血依頼 2. 若年献血者確保キャンペーン 3. 学生献血推進協議会加盟促進 4. ルーム近隣の専門学校への推進	1. はがきによる献血の依頼を行った。 2. 若年者の確保対策として、友達紹介キャンペーンを実施した。 3. 学生献血推進協議会への加盟促進を行った。 4. 献血ルーム近隣の専門学校に献血の推進を行った。
長崎	1. 献血者確保キャンペーンの実施 2. 学生ボランティア研修会の実施 3. 血液センター見学会の実施	1. 献血者確保のためのキャンペーンを実施した。 2. 学生ボランティアの研修会を実施した。 3. 若年者を対象に血液センターの見学を実施し、見学後には献血をお願いした。
熊本	1. 献血推進用パンフレット配布 2. 学内献血キャンペーン 3. 学内献血時の学生登録 4. 県内高校卒業生へのちらし配布	1. 成人式において、献血推進用のパンフレットを配布。 2. 大学等を対象に、学内献血を実施した。 3. 緊急時に献血のお願いをするため、学内献血時に登録をお願いした。 4. 高校を卒業する生徒を対象に推進用のチラシを配布。
大分	1. ハガキによる献血依頼 2. 高校献血への増車 3. ニュードナーキャンペーン 4. 学域（大学・短大・専門学校）献血時の特別処遇品の進呈	1. はがきによる献血依頼を行った。 2. 高校へ移動献血車を増車した。 3. 新規の献血者募集のためのキャンペーンを実施した。 4. 学校での献血時の記念品を通常とは別のものに変更。
宮崎	1. はがきによる献血依頼 2. サマー献血キャンペーン 3. 学内献血の推進	1. はがきによる献血依頼を行った。 2. 若者を対象としたキャンペーンを実施した。 3. 高校・大学・専門学校で学内献血を実施した。
鹿児島	1. 九州ブロック学生献血推進サミット（H19年本県が開催県）の開催 2. 学生献血推進協の活動費 3. 学校訪問	1. 2. 学生献血推進サミットが本県で開催。献血の普及啓発に努める。 3. 高校を訪問し、400mL献血を主体にした献血を実施した。

若年層献血確保対策事例

【事例1】

実施センター名 : 北海道赤十字血液センター

実施名称 : 献血広報用ポスターデザインの募集

実施日時(期間) : 平成18年6月下旬～11月末日 約5ヶ月間

協力団体 : 市内デザイン系専門学校(3校)
札幌市献血推進協議会

実施目的 : 献血広報用ポスターデザイン応募を通じて、献血に関する知識や重要性を知っていただき、若者の感覚で表現された作品を使ってポスター等広報資材として活用することにより、若年層に対する献血啓発を行うとともに広く道民への献血普及に繋げることを目的とする。

実施内容 : (1) 作品募集 : 平成18年6月下旬～9月下旬
(2) 選出方法 : 第1回選考 平成18年10月30日
(有識者による最終候補作品6点を選考)
第2回選考 平成18年11月7日～11月14日
(インターネット・携帯電話による一般投票)
(3) 表彰 : 平成18年1月29日「献血フォーラム」で表彰
(4) 活用方法 : ①平成19年度献血実施告知用ポスターに採用
②平成19年度献血記念品用袋のデザインに採用

実施評価 : 本取組は昭和62年より毎年継続して実施している。
平成13年からはホームページを通じてネット投票を実施し、より多くの方々が選出に参加できるようにすることで本取組の周知拡大を図っている。学生に献血のデザインを募集することにより献血啓発にもつながりインターネット投票により広く道民に献血啓蒙が行えた。今後ポスター展などを実施し、より一層の推進を図る。

実施結果 : 応募作品数60点の中から「札幌市献血推進協議会長賞」と「北海道赤十字血液センター所長賞」を選出した。



[札幌市献血推進協議会長賞]



[北海道赤十字血液センター所長賞]

平成 19 年度若年層献血確保対策

【事例 2】

実施センター名：群馬県赤十字血液センター

実施名称：ザスパ草津献血応援スペシャルマッチ ～献血力～

実施日時(期間)：平成 19 年 9 月 23 日(日) 11:00～19:00

実施場所：県立敷島公園陸上競技場及び周辺

協力団体：ザスパ草津

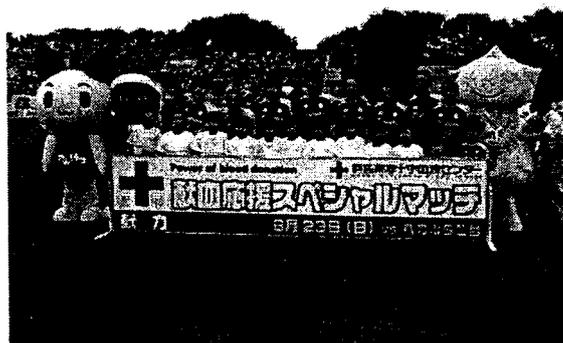
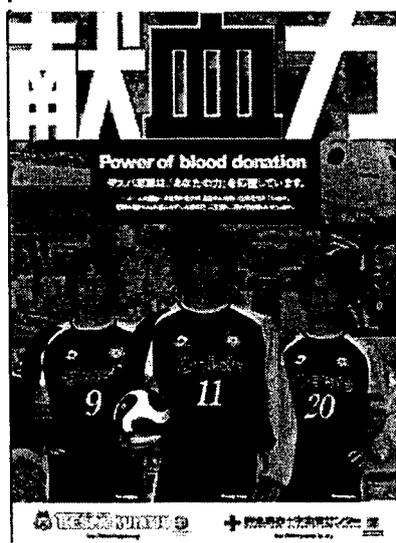
実施目的：群馬県内初のプロサッカーチームであり、群馬県民から熱い期待と応援を受け群馬のシンボリック的存在となった「ザスパ草津」の選手に献血広報媒体(献血推進ポスター出演)になっていただくことにより、県民の献血意識の向上を図る。

実施内容：ザスパ草津ホーム戦ベガルタ仙台戦を献血応援スペシャルマッチとしていただき、献血実施及びPRを行った。(詳細は別添)献血推進ポスターに出演していただいた。

実施評価：会場内には多くの方が来場し、効果的なPRができた。

実施結果：受付者数 54 名、採血者数 37 名(400ml:25 名、200ml:12 名)献血の受付時間は当日の試合時間(16:00キックオフ)を考慮して12:00～16:00とし、15:30過ぎの受付者に対してはトラブルの無いよう、受付時に献血終了が試合開始に間に合わない可能性がある旨を伝えた。)

写真

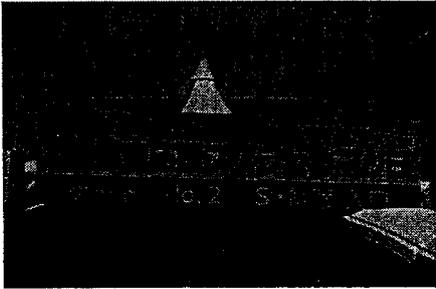


《実施内容詳細》

*献血実施

*ザスパ草津、群馬県赤十字血液センターコラボエコバッグ配布（ルームキャンペーン、当日献血処遇品）

*ゲートサイン



*サインボール投げ込み

*マッチデープログラム掲載

*電光掲示板PR

*選手による献血会場周辺献血PR（ポケットティッシュ配布）



*ザスパ草津植木監督献血への協力



*ポスター出演選手による献血会場及びスタジアム内音声献血PR《録音》

*けんけつちゃん（着ぐるみ）、ザスパ草津キャラクター湯友くん（着ぐるみ）、及びキッズによるハーフタイム場内PR

*ハーフタイム抽選会

*TVコマーシャル

【事例3】

実施センター名：福井県赤十字血液センター

実施名称：夏の献血キャンペーン2007
「ナナ・イロからの贈物」ライブコンサート

実施日時(期間)：平成19年8月26日(日)【12:00・15:00 の2回公演】

実施場所：①福井県赤十字血液センター会議室 (12:00)
②ショッピングセンター催事場(あじさいホール) (15:00)

協力団体：福井街角ラジオ

実施目的：複数回献血クラブ会員増加・若年層献血普及

実施内容：①複数回献血クラブ会員限定ミニライブ
血液センター会議室にてクラブ会員限定(事前募集)50名を迎えてミニライブを実施。
②クラブ員+一般(200名)
クラブ会員(事前)募集+一般の方を対象にライブコンサートを開催。(トークで若年層献血推進PR)

実施評価：大型ショッピングセンターの開催で、家族連れなど広い層に対して複数回献血クラブの意義を周知できた。(新聞社取材)クラブ会員へのメリット効果。

実施結果：2回の公演で250名の来場者があり、複数回献血クラブの周知に貢献した。
また、地元女性音楽デュオ「ナナ・イロ」(24歳)が、分かり易く献血へのアピールしてもらい若年層普及面でも効果があった。

写真：



【事例 4】

- 実施センター名 : 石川県赤十字血液センター
- 実施名称 : 中学生を対象とした献血ポスターコンクールの実施
- 実施日時(期間) : 平成 19 年 7 月 1 日(日)～10 月 31 日(水)
- 協力団体 : 石川県
- 実施目的 : 若年層の献血意識を高揚させるための啓発事業を行う。
- 実施内容 : 県内の中学生を対象として募集し、優秀作品について知事表彰を行うとともに、デパート及び献血ルームでこれら優秀作品の展示を行った。
また、優秀作品を県内全域路線バスの車内広告や公立図書館で配布する啓発しおりに活用する。
- 実施結果 : 県内 24 校から 233 点の応募があり、金賞 1 点、銀賞 3 点、銅賞 6 点、佳作 10 点、入選 20 点を選出した。
献血ポスターコンクール優秀作品展を開催し、多く方が来場された。
12/12 ～ 12/18 香林坊大和 8 階
12/19 ～ 1/9 献血ルームラブロ
また、平成 20 年度「愛の血液助け合い運動」の実施に併せて、県内全域路線バス 400 台を対象に 7/1～8/31 まで金賞作品を活用し、献血の必要性を訴えた。

平成19年度 複数回献血者確保対策

センター名	対策	内容
北海道	1. ハガキ・電話要請の強化 2. 複数回献血クラブの設置・運営 3. 献血処遇品の変更	1. はがき、電話による献血依頼を強化。 2. 複数回献血クラブの設置・運営 3. 処遇品の変更。
青森	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
岩手	1. メールによる献血要請 2. 封書による献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. 封書により複数回献血協力者へ献血依頼。
宮城	1. メールによる献血依頼 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対しメールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
秋田	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼 3. 新規会員の募集 4. 情報誌の発行とリーフレットの配布	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。 3. 複数回献血協力者の新規募集活動。 4. 情報誌の発行とリーフレットの配布。
山形	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
福島	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
茨城	1. メールによる献血要請 2. ハガキによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
栃木	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
群馬	1. メール献血協力要請 2. 健康相談の実施 3. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. 複数回献血協力者に対し健康相談の実施。 3. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
埼玉	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
千葉	1. はがきによる献血依頼	1. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
東京	1. Eメールによる献血依頼 2. ハガキによる献血依頼 3. 冬季400mL献血リピーターキャンペーン 4. 献血サポーターキャンペーン	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。 3. 献血バスでカードを配布し、次回来場の際に記念品を配布。 4. 400mL献血協力者に再度協力を依頼し、了解いただけた方には、ご自身で葉書に「住所」・「氏名」を記入いただき4ヵ月後に発送を行う。
神奈川	1. はがきによる献血依頼	1. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
新潟	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼 3. 献血バス会場献血者の献血ルームへの誘導	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。 3. 献血バスでの献血者に対し、次回献血ルームへ来ていただくよう依頼。
富山	1. 複数回献血クラブ員の確保 2. はがきによる献血依頼 3. 献血実施回数の増加	1. 複数回献血協力者に対し、複数回献血クラブへ加入していただくようお願いする。 2. はがきにより複数回献血協力者へ依頼。 3. 年1回献血実施の事業所に対し年2回の実施を依頼。
石川	1. メールによる献血要請	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。
山梨	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
長野	1. メールによる献血要請 2. ハガキによる献血依頼 3. ポスターの配布	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。 3. 複数回献血協力確保のため、ポスターを配布。
岐阜	1. はがきによる献血依頼	1. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
愛知	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼 3. 愛知県とのタイアップによるキャンペーン実施	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. 固定施設への献血依頼はがき送付、移動採血会場への献血依頼はがき送付 3. 年間2回400mL献血をお願いするキャンペーン実施

センター名	対策	内容
三重	1. メールクラブ会員の募集 2. 電話で400ml献血の募集 3. メールによる献血依頼	1. 複数回献血クラブ会員の募集を行う。 2. 電話により400ml献血協力をお願いをした。 3. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。
京都	1. 推進用ポスター・リーフレットの作製と配布 2. リーフレット郵送による新規登録者募集 3. 新規登録会キャンペーン月間を設けて新規登録者を募集する 4. 健康相談事業の実施 5. 講演会の実施 6. 情報提供メールの送付 7. 献血依頼メールの送付 8. ワンモア献血キャンペーン	1. 複数回献血協力者確保のためのポスター、リーフレットを作成し、配布した。 2. リーフレットを郵送し、複数回献血クラブの新規登録者確保を行った。 3. 新規登録強化週間の実施 4. 複数回献血協力者を対象に、健康相談を実施。 5. 健康に関する講演会を実施。 6. 複数回献血協力者に対し情報提供メールを発信。 7. 複数回献血協力者に対しメールによる献血依頼。 8. カード配付し、再来を促す。
大阪	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
奈良	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼 3. 実施場所（企業・団体）の年間回数の増加	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。 3. 企業・団体に対し年間協力回数増加依頼。
和歌山	1. メールによる献血要請の推進 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
鳥取	1. メール、はがきによる献血要請・イベント案内 2. 街頭献血におけるはがき依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メール、はがきにより献血依頼及びイベント案内。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
島根	1. メールによる献血依頼 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
広島	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血要請	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
山口	1. メールによる献血依頼 2. 県職員献血協力者登録者名簿、市・町職員献血協力者名簿の活用 3. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. 献血協力者名簿を作成し、血液不足時の活用をした 3. はがきにより複数回献血協力者に対し、献血依頼。
徳島	1. 推進用チラシの作成と配布 2. 未加入献血者へのDMの発送	1. 献血者全員にチラシ配布し、複数回献血クラブへの登録をお願いした。 2. 複数回献血クラブ未加入者へ、ダイレクトメールにより登録をお願いした。
香川	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
愛媛	1. メールによる献血要請 2. ハガキによる献血依頼 3. 固定施設における成分献血者へ複数回献血クラブへの登録の推進	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。 3. 固定施設の成分献血協力者に対し、複数回献血クラブへの登録をお願いした。
高知	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 献血者全員にチラシ配布し、複数回献血クラブへの登録をお願いした。 2. 複数回献血クラブ未加入者へ、ダイレクトメールにより登録をお願いした。
福岡	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼 3. 講演会の開催	1. 複数回献血クラブへの登録をお願いした。 2. 複数回献血クラブ未加入者へ、ダイレクトメールにより登録をお願いした。 3. 講演会を開催し、複数回献血協力をお願いを行った。
長崎	1. メールとはがきによる献血依頼 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
熊本	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼 3. 複数回献血キャンペーンの実施	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。 3. 複数回献血協力確保のためノキャンペーンノ実施。
大分	1. メールによる献血要請 2. ハガキによる献血要請	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
鹿児島	1. メールによる献血要請 2. ハガキによる献血要請	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。

複数回献血者確保対策事例

【事例 1】

実施センター名 : 東京都赤十字血液センター

実施名称 : 献血サポートキャンペーン

実施日時(期間) : 募集期間 7月～11月 協力期間 11月～3月

実施場所 : 都内献血ルーム

実施目的 : 冬場の全血献血(400mL)者確保

実施内容 : 7月～11月までの400mL献血協力者に4ヵ月後に再度協力を依頼し、了解いただけた方には、ご自身で葉書に「住所」・「氏名」を記入いただき4ヵ月後に発送を行う。
葉書を持って協力いただいた方には記念品のお渡しする。

実施評価 : 通常の利用であると応諾率が約10%であるが、ご自身で書いた葉書が郵送されることにより、応諾率が約3倍に増える。
これにより、冬場の献血者確保の有効な手段と考える。

実施結果 : 募集人数 30,135名 来場者数 9,875名 応諾率 32.8%
都内23区の献血ルームの応諾率 31.3%
都下の献血ルームの応諾率 37.5%

平成19年度 その他献血者確保対策

センター名	対策	内容
北海道	1. 大学での献血実施時の献血者数増加	1. 体育会系グループ(部活動)の献血団体登録(献血サポーター)と血液不足時に応じた献血要請の実施。
青森	1. 電話による献血依頼 2. 400mL献血キャンペーンの実施 3. ポイント制の導入	1. 電話による依頼を行った。 2. 県内の事業所で実施した。 3. ポイント制を導入した。
岩手	1. ハガキによる献血依頼	1. はがきによる献血依頼を行った。
宮城	1. 各市町村が設定する献血日(会場)を見直していただき、実績が低い場所の実施を取止め、より献血者の多い会場へ配車していただくよう勧奨し、効率の良い採血が得られるようお願いする。 2. 近距離市町村を宿泊・移動で実施する等、移動時間の短縮化を図り受付時間を有効なものにする。	1. 平成18年度では、献血バス1台につき平均1.58箇所移動だったものが、平成19年度には1.60箇所とわずかではあるが、向上した。 2. 40回の宿泊献血を実施。その結果、ナイター献血(受付17:00まで)、翌日の早朝献血(受付9:00開始)を展開できた。
福島	1. 成分献血登録者募集用DMの作成配布 2. 定期的成分献血者確保対策(ポイントキャンペーン適用)	1. 成分献血登録者に対し、ダイレクトメールを送付し献血の依頼を行った。 2. ポイントキャンペーンを実施し、定期的な成分献血を依頼した。
栃木	1. 次回の予約推進(固定施設) 2. 午前中及び平日の献血者確保ポイントキャンペーン(適用等)	1. 固定施設での献血協力者に対し、次回の献血予約をお願いした。 2. ポイントキャンペーンを実施し、午前中及び平日の献血者確保を図った。
群馬	1. 次回予約献血の推進 2. 需給の情報を把握し電話による献血依頼	1. 献血協力者に対し、次回の献血協力の予約をお願いした。 2. 電話による献血依頼を行った。
埼玉	1. 次回の予約推進(特に平日) 2. 電話による献血依頼(水曜と木曜の予約率の向上) 3. メールによる緊急依頼	1. 献血協力者に対し、次回の献血協力の予約をお願いした。 2. 水曜日と木曜日の献血依頼を行った。 3. メールにより緊急の献血依頼をおこなった。
東京	1. 都内献血ルームポイントキャンペーン! 2. ほっとキャンペーン	1. 2. 再来促進のため、ポイントキャンペーン、ほっとキャンペーンを実施し、対象者には、特別な記念品を贈呈。
新潟	1. 企業献血の推進 2. 「献血協力カード」の配布	1. 新潟県経営者協会加入企業にアンケートを実施し、新規企業を開拓した。 2. 血液不足時に協力団体に配布し、献血協力を得た。
福井	1. 母体中心：推進キャンペーン 2. 次回PC予約推進 3. 成分献血ポイント制	1. 平日の安定確保のために、キャンペーンを実施した。 2. 献血協力者に対し、次回の献血予約をお願いした。 3. ポイント制を導入し、血小板成分献血の安定確保に貢献できた。
山梨	1. 高校献血の全校実施 2. 短大・大学献血の実施 3. セミナー開催	1. 県内全校の献血実施 2. 県内全短大・大学の献血実施 3. 県内の高校生・短大・大学生対象の研修会を実施
長野	1. 献血ルーム10周年キャンペーン	1. 10周年にあわせてキャンペーンの実施
岐阜	1. 職専免 2. 電話による依頼 3. はがきによる依頼	1. 岐阜県庁業務水道課より事前に文書にて職専免での協力許可を得、採血日前日の午前中に、該当の施設に血液センターより血小板献血を血液型別、希望人数を伝え、翌日希望時間に車での送迎を行う。 2. 電話による献血依頼を行った。 3. はがきによる献血依頼を行った。

センター名	対策	内容
愛知	1. 固定施設献血者確保におけるポイント制度見直し	1. 平日成分予約者のポイントアップ及び全血献血者へのポイント制導入。
三重	1. 次回の予約依頼 2. 電話による依頼 3. 成分献血登録者の確保	1. 固定施設における献血者に対し、次回献血の予約をお願いする。 2. 電話による献血依頼を行った。 3. 成分献血登録へのお願いをした。
滋賀	1. 電話及びハガキ等による献血依頼 2. 定期及び緊急時の協力団体の拡大 3. 次回の予約推進 4. 新聞折り込みチラシ	1. 電話、はがきによる献血依頼を行った。 2. 近隣事業所に対し、定期、緊急時の献血協力を依頼。 3. ライオンズクラブの協力により、献血者に対し、次回の献血協力を依頼。 4. 新聞の折込により献血のお願い、普及啓発を行った。
京都	1. 期間限定のはがきによる献血依頼 2. 「2回目のおくりもの献血」カード配布 3. 「月火水にお願いキャンペーン」 4. はがきによる400mL献血依頼実施	1. はがきによる献血依頼を行った。 2. 献血初回者に2回目の献血を依頼するカードを配付 3. 血小板献血推進キャンペーンを実施。 4. 献血ルームの献血者対象に、はがきによる400mL献血の依頼を行った。
大阪	1. ハガキ、封書及びEメールで依頼 2. 受付、採血、休憩中に血小板可能者に推進する。 3. 400mL献血増強キャンペーン	1. はがき、封書、メールによる献血依頼を行った。 2. 献血者に、成分献血のお願いを行った。 3. 記念品を通常のものから変更し、400mL献血者の増加を図った。
兵庫	1. 献血ルームにおけるサービスの充実	1. ネイルケア、ハンドマッサージ、スポーツマッサージ、イベント、バレンタインデー献血、すっきり献血キャンペーン、夏季、秋季、冬季キャンペーンを実施した。
奈良	1. 予約制の推進 2. 電話、はがきによる献血依頼 3. メール会員による献血依頼	1. 予約制の推進を図った。 2. 電話、はがきによる献血依頼を行った。 3. メールによる献血依頼を行った。
和歌山	1. 成分献血協力団体拡大 2. 電話による献血依頼 3. 再来献血推進	1. 県庁、自衛隊、海上保安庁等の公共団体の他にJA和歌山損保ジャパン、愛和会、酒販組合、マルハン等の協力団体に依頼し協力を得た。 2. はがき送付者に対し、協力要請の電話依頼を行った。 3. ダイレクトメールを送付し、成分献血の協力依頼を実施した。
鳥取	1. 電話による献血依頼 2. 午前中の献血者確保	1. 電話による献血依頼を行った。 2. 献血ルームのサービスを充実させた。
島根	1. 血小板成分献血者確保 2. 電話 はがきによる献血依頼	1. メールによる血小板成分献血依頼を行った。 2. はがきによる血小板成分献血依頼を行った。
山口	1. 電話による献血依頼 2. 献血協力団体に定期的に依頼 3. キャンペーンの実施	1. 血液不足時に電話要請を行った。 2. 献血協力団体に対して、定期的に献血協力の依頼を行った。 3. 血小板確保対策として、ハウィンキャンペーン、Red X'mas2007キャンペーン、ゆく年・くる年Thanksキャンペーン、バレンタイン献血キャンペーン2008、ひな祭り献血2008
徳島	1. 市町村巡回地の献血者へのDM依頼	1. 移動献血車で巡回する市町村の献血者に対し、ダイレクトメールにより献血の依頼を行った。
香川	1. 平日の献血者確保 2. 次回の予約推進 3. 電話による献血依頼	1. 平日の献血ルームでのイベント強化。 2. プロバスケット(Bjリーグ) 試合において、献血ルームのPRイベントを実施。 3. 電話で献血依頼を行った。

センター名	対策	内容
福岡	1. ルーム店頭での献血呼びかけ 2. 次回献血の予約	1. ルーム店頭での献血呼びかけ。 2. 献血者に次回の献血予約をお願いした。
佐賀	1. 市町成分献血の日 2. 新聞・チラシ折込	1. 「成分献血の日」を設け、送迎により献血依頼。 2. 新聞、折込により献血のお願いと普及啓発を行った。
長崎	1. 「1,000人献血」キャンペーン 2. ライオンズクラブ主催献血	1. 1000人献血キャンペーンを行った。 2. ライオンズクラブに献血をお願いし、主催による献血を実施していただいた。
大分	1. 電話、ハガキによる献血依頼 2. 成分献血記念プラスワンキャンペーン 3. 新規成分献血キャンペーン	1. 電話、はがきによる献血の依頼を行った。 2. 午前中の血小板成分献血者確保のためのイベント実施。 3. 新規成分献血者確保のキャンペーンを実施した。
鹿児島	1. 400mL献血推進用資材の作成 2. 学内献血の強化 3. 献血団体育成講習会の実施 4. ハガキによる献血依頼	1. 400mL献血推進用の資材を作成し、400mL献血協力のPRを行った。 2. 学校献血を強化し、若年層の確保を図った。 3. 献血団体に対し、講習会を実施した。 4. はがきによる献血依頼を行った。
沖縄	1. 「初詣献血」の実施 2. 献血担当者との連携強化	1. 年始に初詣献血を実施した。 2. 献血団体等の担当者との連携強化を図った。

その他献血者確保対策事例

【事例1】

実施センター名：新潟県赤十字血液センター

実施名称：献血への協力に関する企業アンケート実施状況

実施日時(期間)：平成19年9月18日(月)～10月5日(金)

実施場所：社団法人新潟県経営者協会加入企業308社

実施目的：献血者確保の中心的役割を担っている企業献血のより一層の推進を図るため新潟県と連名でアンケート調査を実施

実施内容：社団法人新潟県経営者協会加入企業308社に対し、献血協力に関するアンケート調査を実施(結果は別添参照)

実施評価：県と連名によるアンケート結果を踏まえ、企業訪問を実施した。そのため、企業側の反応も良く、多くの新規企業を開拓することができた。

実施結果：①アンケート結果を踏まえ、10月下旬以降企業訪問を実施

19年度に献血バスを配車した企業	4社
20年度に献血バスを配車予定の企業	11社
(上記4社を含む)	
19年度に献血ルーム等で協力いただいた企業	7社
20年度に献血ルーム等で協力予定の企業	13社
20年度に実施回数を増加予定の企業	2社

②献血普及啓発資料の送付
アンケートで献血への協力が可能と回答した企業(114社)に普及啓発資料を送付した。

アンケート結果：1. 献血への協力状況

協力している	89社(56%)	過去に協力あり	34社(21%)
協力したことがない	35社(22%)	不明	2社(1%)

2. 今後の献血への協力意向

現在協力している企業	今後も協力可能	83社
	実施回数増可能	6社
現在協力していない企業	協力可能	11社
	協力困難	10社

3. 今後の協力可能な内容(現在協力していない企業)

献血バスの受入	15社
近隣にバスが来たときの協力	34社
社員への普及啓発	47社
血液不足時の協力	7社
献血ルームでの協力	10社
その他の協力	1社

【事例 2】

実施センター名：新潟県赤十字血液センター

実施名称：献血協力カードの配布

実施日時(期間)：平成19年12月～平成20年3月

協力団体：新潟県生命保険協会加盟会社、新潟県献血推進協議会加盟の協力団体
県内のライオンズクラブ

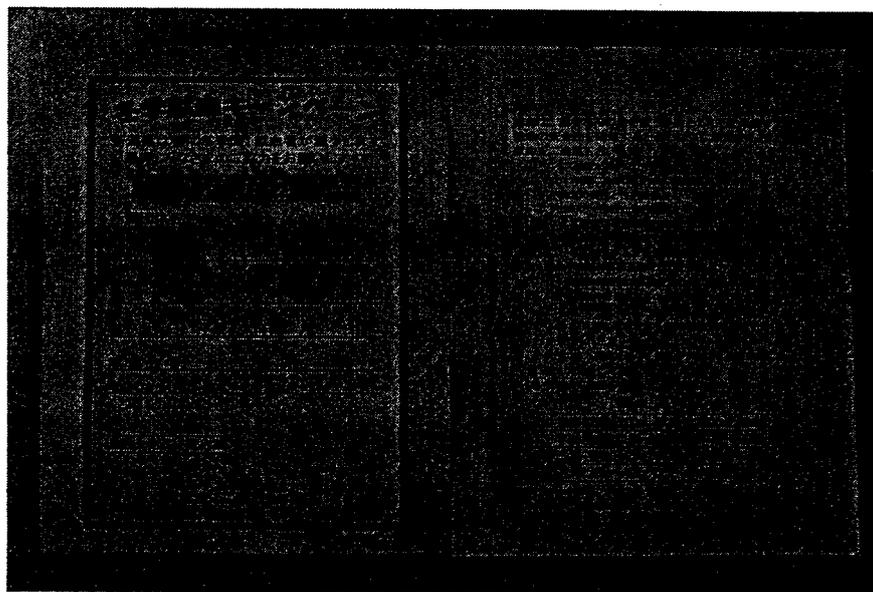
実施目的：例年、献血者が減少する冬季(12月～3月)の献血者確保のため、協力団体に「献血協力カード」を配布し、協力要請を行った。

実施内容：新潟県生命保険協会加盟会社20社、県内のライオンズクラブ
80団体、新潟県献血推進協議会加盟の協力団体及び一般事業所約30
団体、合計約130社に対し「献血協力カード」を配布し、協力要請
を行った。

実施評価：「献血協力カード」の協力団体への配布は、冬季における献血者確保
に効果があったと考える。また、協力者の回収カードを集計し、協
力団体に結果報告をすることができた。

実施結果：カード配布枚数 約7,000枚 協力者数 370人(応諾率 5.3%)

写真：



【事例 3】

実施センター名：岐阜県赤十字血液センター

実施名称：県職員の職専免による血液の確保

実施日時(期間)：平成19年4月～平成20年3月

実施場所：岐阜県赤十字血液センター

協力団体：岐阜県庁及び出先機関

実施目的：血小板献血の確保

実施内容：岐阜県庁薬務水道課より事前に文書にて職専免での協力許可を得、採血日前日の午前中に、該当の施設に血液センターより血小板献血を血液型別、希望人数を伝え、翌日希望時間に車での送迎を行う。

実施評価：迅速に献血者を確保していただき、血小板の型別不足分を補うことができた。

実施結果：年間15回依頼(内全血依頼1回)をし、83名の協力を得た。